

「NEXCO中日本」ブランド



ブランド・ネーム

会社の英語表記の一部である「Nippon Expressway Company」の頭文字であると同時に「NEXT(次なる)」「Co(共に)」という、ふたつの言葉を組み合わせ私たちの姿勢や熱意を表現しました。

ロゴマーク

シンボルマークは、頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムをあらわすと同時に「道进行ること」がもたらしてくれる心の躍動感をあらわしています。ロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりある道路空間を表現しています。

ブランド・カラー

ネクスコ・オレンジ。中部日本エリアの活発なにぎわいをイメージした、力強いいきいきとしたオレンジ色。

ご案内

■ NEXCO中日本お客さまセンター

お客さまからのお問合せに正確にわかりやすくご案内いたします。

0120-922-229

■ 道路緊急ダイヤル

高速道路で異常を発見された際の専用ダイヤルです。ご協力をよろしくお願いいたします。

#9910

■ ハイウェイテレホン

お客さまのいる場所から最も近い地域のハイウェイテレホンに接続する専用ダイヤルです。最新の高速道路の交通情報を24時間自動音声で提供しています。

#8162

■ ハイウェイ交通情報サイト
「アイハイウェイ 中日本」



VOC(揮発性有機化合物)を含まない植物油インキを使用しています。



印刷工程で有害廃液を出さない水なし印刷方式で印刷しています。



適切に管理された森林から生産されたことを示すFSC認証用紙を使用しています。



視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



未来が変わる。日本が変わる。

中日本高速道路株式会社

名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL: 052-222-1620 FAX: 052-232-3736
http://www.c-nexco.co.jp/

道を通じて感動を 人へ、世界へ



CSR報告書 2012

道を通じて感動を 人へ、世界へ

NEXCO中日本事業エリア



事業概要

高速道路事業

建設事業：高速道路の整備

着実かつ効率的・効果的に事業を推進し、建設中路線をより早期に開通させるなどにより、皆さまの期待にお応えします。

保全・サービス事業：高速道路の維持管理

災害に強く、より安全、安心、快適な高速道路の管理・運営を通じて、お客さまに満足していただけるサービスを24時間365日提供します。

関連事業

サービスエリア事業

「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまをお迎えし、何度でも訪れたいと感じていただけるような感動にあふれたサービスエリアを創造します。

その他事業

旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、当社グループが培ってきた高速道路に関する技術・ノウハウを活用して、海外の高速道路事業へも積極的に参画します。



編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションツールとして、NEXCO中日本グループの事業活動のうち、社会からの期待に応えるために重要と考えているものを中心に報告をしています。

本報告書では、特集、CSRマネジメント、社会的報告、環境報告に分けて主な取組みを紹介しています。また前年度に報告した事項であっても各部門が重要と考えるものについては、継続して報告しています。

特集

社会情勢の変化を踏まえ当社グループとして特に重要な取組みを「特集」として取り上げています。

CSRマネジメント

当社のCSRを推進するための組織体制や内部統制に関すること、リスクマネジメントや情報セキュリティ、コンプライアンスに関する取組みについて報告しています。

社会的報告

当社の主な事業に関し、ステークホルダーごとに整理して紹介しています。

環境報告

当社の主な事業に関し、特に環境に配慮した取組みについて紹介しています。

お客さま、国民の皆さま、株主・投資家、地域社会、国際社会、取引先の皆さま、グループ会社も含めた社員などのステークホルダーの皆さまを讀者として想定しています。

CSR情報

<http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/>

報告範囲など

対象組織：NEXCO中日本及びグループ会社

期間：2011年4月1日～2012年3月31日
(一部2012年度も含まれます)

発行：2012年6月(次回発行予定2013年6月)

参考としたガイドライン：

- GRI(Global Reporting Initiative)
- 「Sustainability Reporting Guidelines version3.1」
- 環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版、2012年度版)」
- 環境省「環境会計ガイドライン(2005年度版)」

【お問合せ先】

NEXCO中日本(中日本高速道路株式会社)
 企画本部 経営企画部 経営企画チーム
 〒460-0003
 名古屋市中区錦2-18-19 三井住友銀行名古屋ビル
 TEL:052-222-1620(代表) FAX:052-232-3736
 ※受付時間 平日9時～18時(土日祝日は除く)
<http://www.c-nexco.co.jp/>

目次

NEXCO中日本グループの概要	P03
トップコミットメント	P05
NEXCO中日本グループの企業ビジョン、KPI(重要業績評価指標)	P07
NEXCO中日本グループのCSR活動	P11
CSR活動と各種ガイドライン	P12
特集01 高速道路ネットワークの充実	P13
特集02 お客さまに感動していただけるサービスエリアへ	P17
特集03 大規模災害に向けた取組み	P19
CSRマネジメント	
CSR推進体制、コーポレートガバナンス	P21
リスクマネジメント、情報セキュリティ	P22
コンプライアンス	P23
社会的報告	
お客さまとともに	P25
地域社会とともに	P33
国際社会との関わり	P39
国民(株主)の皆さまとともに	P41
取引先の皆さまとともに	P43
社員とともに	P44
環境報告	
環境方針	P49
環境活動	
地球温暖化の抑制	P50
資源の3Rの推進	P55
地域環境への配慮	P57
環境技術	P61
環境マネジメント	P63
環境会計	P65
CSR懇談会	P67
ステークホルダーコミュニケーション	P69
第三者からのコメント	P70

NEXCO中日本グループの概要

私たちNEXCO中日本グループは、高速道路事業(新東名高速道路や首都圏中央連絡自動車道などの新規ネットワークの早期完成、わが国の基幹をなす路線を24時間365日「安全・安心・快適」に提供するための管理・運営、大規模災害時の迅速な対応など)及び関連事業(感動にあふれたサービスエリアの創造や積極的な海外事業の展開など)を通じて、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

会社概要



商号：中日本高速道路株式会社
(Central Nippon Expressway Company Limited)
代表者：代表取締役社長CEO 金子 剛一
本社所在地：名古屋市中区錦2丁目18番19号
設立年月日：2005年10月1日
従業員数：2,094名[グループ全体 9,153名] 2012年3月31日現在
グループ会社：17社(持分法適用関連会社14社)
資本金：650億円
事業内容：高速道路の建設、保全・サービス事業、サービスエリアその他の関連事業

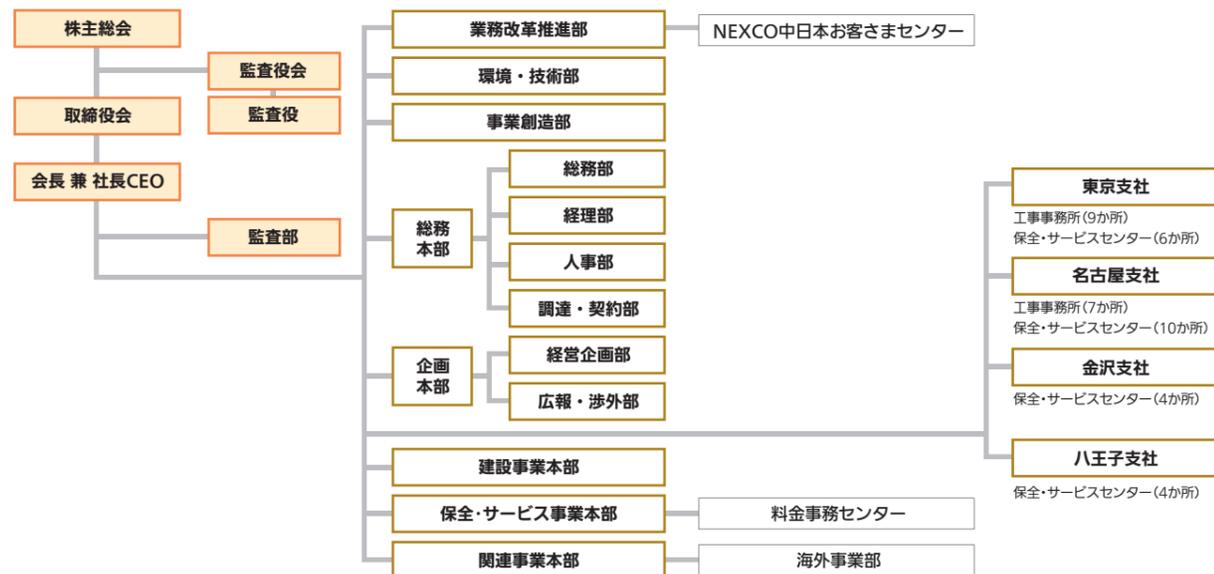
事業状況

事業区分	項目	2012年4月1日現在		2011年度実績	
		数値	単位	数値	単位
高速道路事業	営業延長	1,755km			
	利用台数	185万台/日			
	営業収益	5,445億円			
	建設延長	482km			
関連事業	施設数	164か所※			
	店舗売上高	1,610億円			
	関連事業営業収益	517億円			
	サービスエリア・パーキングエリア				

※上下線別、無人施設14か所を含みます。この他に当社が敷地を保有しない19か所(上下別)があります。
※2012年4月14日の新東名の開通により、営業延長は1,917km、サービスエリアは178か所となりました。
※2012年4月20日の東京外かく環状道路や名二環の事業化により、建設延長は353kmとなりました。

組織体制

2012年4月1日現在



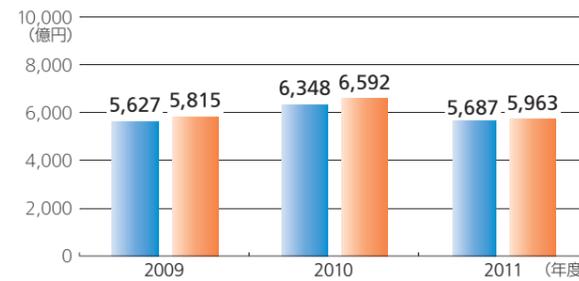
グループ概要

2012年3月31日現在

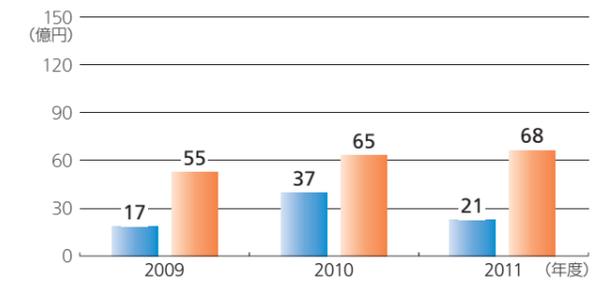


グループ業績

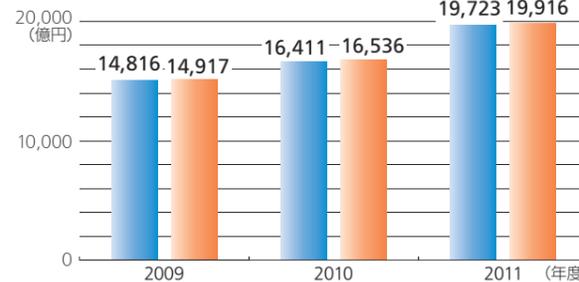
営業収益の推移



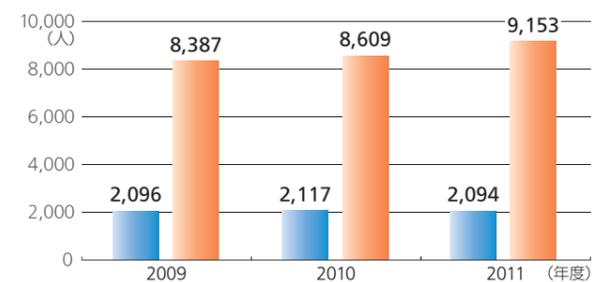
当期純利益の推移



総資産の推移



従業員の推移



世界一の高速道路会社、 「夢」を実現できる会社をめざし、 日々挑戦を続けます。



わが国の社会・経済に甚大な影響を与えた東日本大震災から1年が経ちました。私たちはこの未曾有の大災害を経験し、高速道路のもつ社会的な重要性とその事業を担うNEXCO中日本グループの果たすべき役割の大きさを再認識しました。

被災地の一日も早い復興に向けた積極的な支援はもとより、当社管内において、より災害に強く信頼性の高い高速道路づくりを進めていきます。

社会の期待に応え、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献していくことが私たちの役割だと考えています。

私たちの企業ビジョン

この役割を果たすべく、経営環境がどのように変わろうとも、変わることのない経営理念の根幹として、2030年に「『夢』を実現できる会社」、2015年に「世界一の高速道路会社」という目標を掲げ、着実な一歩を踏み出しました。

2011年度から、この目標達成に向けた具体的な指標として、KPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)を設定し、さまざまな取組みをグループ一体となって進めています。2011年度は概ね目標を達成しましたが、死亡事故率や事業多角化指数など、一部目標を達成できないものもありました。2012年度は、この結果を真摯に受け止め、2015年度の目標達成に向け、検証と実践を繰り返し、新たな領域にも果敢に挑戦してまいります。

本業を通じたCSRの実践

高速道路という重要な社会インフラを担う当社グループにとっては、CSRは本業そのものであり、本業を通じてCSRを実践するという経営姿勢に立っています。

当社グループならではのCSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」の3つの重点領域について、当社グループ内のみならず、地域やNPOなどと広く

連携しつつ積極的に進めています。

また昨年明らかとなった不祥事を踏まえ、基本的なCSR活動として、再発防止策を徹底するとともに、高い倫理観に根ざした企業文化の醸成や社会から信頼される企業グループの実現をめざし、コーポレートガバナンスのさらなる強化やコンプライアンス意識の一層の向上に取り組みます。

私たちは、2008年7月に国連グローバル・コンパクトへの参加を表明し、人権、労働基準、環境、腐敗防止の10原則の遵守に努めています。さらに、社会的責任に関する国際規格である「ISO26000」についてもCSRの推進の手引きとし、ステークホルダーの皆さまとの対話を重ねながら、サプライチェーンを構成するお取引先の皆さまとも協働し、CSRを実践していきます。

安全・安心・快適の推進、感動の提供

東日本大震災の教訓からも、「安全・安心・快適」「お客さま第一」は最優先施策であり、お客さまに「安全・安心・快適」な高速道路を期待を超えたサービスをご利用いただけるよう、日々取り組んでいます。

4月14日に開通した新東名高速道路と東名高速道路のダブルネットワークを活かし「百年道路」の実現に向けた計画的な修繕を行うとともに、事故対策や渋滞対策を進めます。また、新東名高速道路の愛知県区間や東京外かく環状道路などの建設を着実かつ効率的・効果的に進め、信頼性の高い高速道路ネットワークを構築します。

さらに、これまでのサービスエリアの概念を超え、新たな時代を象徴する「NEOPASA」や「EXPASA」を軸に、お客さまの多様なニーズにお応えし、お客さまの期待を超えた感動を呼ぶサービスを提供します。

地域連携の強化、地域社会・経済への貢献

高速道路を活用した地域の産業・観光の振興や災害時の協力・支援体制、地域の課題解決のためのグループ社員に

よるボランティア活動など、地域との連携を強め、地域社会・経済の活性化に貢献します。

また、サービスエリアにおいても、地元有名店の出店や地産地消メニューの提供、地元企業や生産者の方々と連携したイベントの開催などにより、地域経済の活性化に貢献するとともに、地域のお客さまが一般道からご利用いただける「ぶらっとパーク」を通じて、サービスエリアが地域交流の拠点となるよう、さまざまな施策を展開します。

環境・持続可能社会への貢献

環境・持続可能社会への貢献についても最重要課題として取り組んでいます。

2015年度の「世界一の高速道路会社」をめざして、環境負荷低減のための活動や技術開発に挑戦し、高速道路ネットワークの整備などの事業活動を通じて、地球温暖化の抑制や資源の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進します。

また、太陽光や地中熱などの再生可能エネルギーの活用や電気自動車の普及に対応した急速充電システムの整備、ISO14001(環境マネジメントシステム)の運用を通じた省エネに取り組めます。

さらに、高速道路の法面の樹林化や生物多様性に配慮したエコロード(自然環境に配慮した道)づくり、沿道環境や道路景観の整備にも、引き続き積極的に取り組んでいきます。

このCSR報告書は、経営計画の進捗状況や、「世界一の高速道路会社」をめざして、日々挑戦する私たちの姿をご紹介します。

是非ご一読いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。

2012年6月

中日本高速道路株式会社
代表取締役社長CEO

金子剛一

NEXCO中日本グループの企業ビジョン

経営理念

私たちの役割

私たちは、常に革新と向上を求め、**安全・安心・快適**で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

私たちの基本姿勢

私たちは「より良い会社でより強い会社」をめざすことにより、私たちの役割を果たします。その方向付けとして、以下の『6つの基本姿勢』を掲げます。

1. お客さまを第一にする
2. 社会の信頼を獲得する
3. 革新的であり続ける
4. 環境を重視する
5. 現場に立って考え行動する
6. チームワークを大切にす

経営方針

5か年を通じた経営基本方針

『世界一の高速道路会社をめざして』

～すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足を～
～飛躍へのたゆまぬ挑戦～

2012年度の経営方針

1. 「世界一の高速道路会社」に向けた施策の確実な実行
2. 期待を超える感動のお届けと揺るぎない信頼の獲得
3. 新たな領域への果敢な挑戦

KPI (重要業績評価指標)

NEXCO中日本グループは、2015年度に「世界一の高速道路会社」を実現し、さらには自立した「夢を実現できる会社」をめざします。そのために、グループの現在の姿を示す指標としてKPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)を設定して施策の達成状況を把握し、効果的に事業を進めることで皆さまの期待に応えていきます。

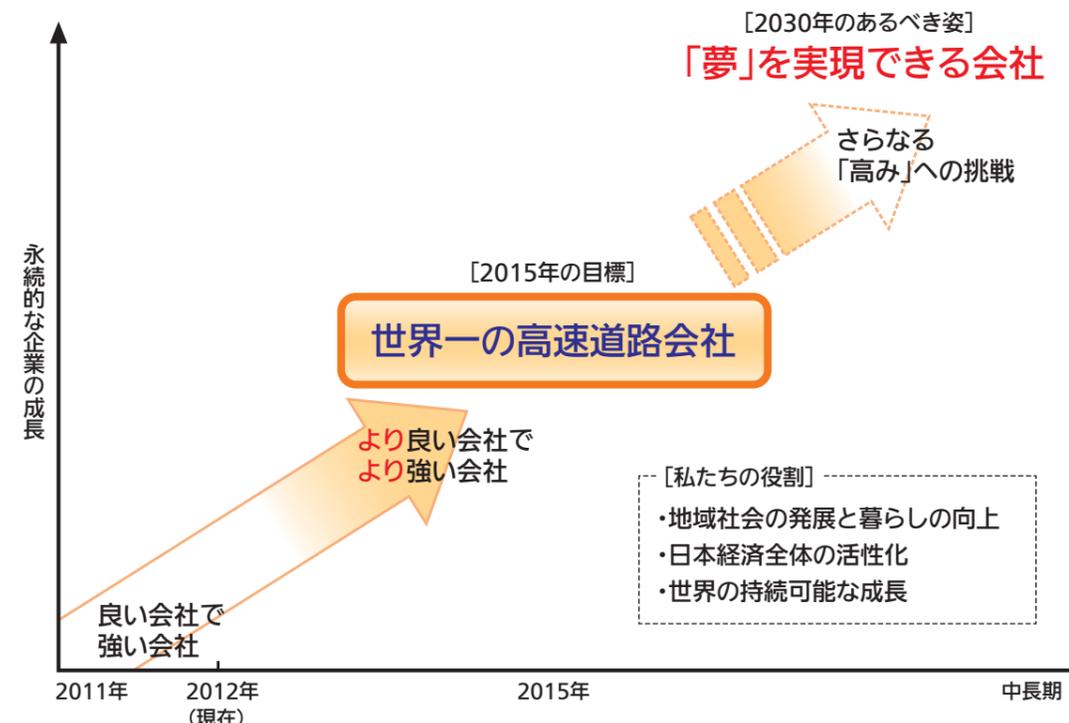
カテゴリ	測定指標	単位	2011年度 目標	2011年度 実績	2012年度 目標	2011年度の主な事業活動と成果	2012年度以降の方針	ページ	ISO26000中核主題	国連グローバル・コンパクト
お客さま	通行止め時間(※1)	時間	1,794	3,335 ■	1,633	・東日本大震災の教訓を活かした防災体制のさらなる強化 ・事故多発箇所の対策や交通安全啓発活動の実施 ・異常降雨による災害発生時の迅速な応急復旧工事や冬季の雪氷対策の実施	・東日本大震災の教訓を活かした防災体制のさらなる強化 ・事故多発箇所の対策や交通安全啓発活動の実施 ・異常降雨による災害発生時の迅速な応急復旧工事や冬季の雪氷対策の実施 ・通行止め早期解除に向けた初動強化 ・降雨通行止め基準の運用の見直し	P19～20 P27 P35	消費者課題 コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	—
	事故・工事(災害復旧含む)・雪によるもの		1,352	1,203 ■	1,192					
	事故・工事・雪・雨によるもの(※2)		1,200	2,172 ■	—					
	安全・安心	死亡事故率	人/10億台km	1.6	1.9 ■					
お客さま	渋滞量(※1)	千km・時間	158.0	154.9 ■	135.3	・東名・岡崎地区の暫定的な3車線運用開始 ・中央道元八王子地区の付加車線運用開始 ・LED標識やベクション効果による渋滞対策の実施	・東名阪・四日市地区での暫定的な3車線運用や東名・海老名地区の付加車線事業を推進	P28	消費者課題	—
	渋滞損失時間(※2)	万台・時間	1,264	1,204 ■	—					
快適・感動	CS調査値 (高速道路事業とサービスエリア事業) のお客さま満足度の平均値	点	64.3	60.9 ■	66.7	・お客さまセンターなどでの対応品質の向上 ・企業CMやHP、各種イベントを通じたお客さまコミュニケーションの充実 ・サービスエリアのスタッフ一人ひとりを対象にCS講習会や接客研修を実施 ・料金施策の見直しにより「価格に対する納得感」の数値が低下	・ISO10002(苦情対応マネジメントシステム)に基づき、お客さま対応品質と社内意識を向上 ・安全・安心・快適の推進のための施策の実施	P25～32	消費者課題	人権 原則1、2 環境 原則9
	感動指数	点	—	38.6	40.7					

※1 測定指標の見直し/施策への取組みとその効果や達成状況の関係をより直接的に把握するため、2012年度から次の項目について測定指標を見直します。
【通行止め時間】測定の対象を、事故・工事・雪・雨による通行止め時間から、事故・工事(災害復旧含む)・雪による通行止め時間に変更します。あわせて、通行止め時間の総計を示します。

コーポレート・スローガン

『道を通じて感動を 人へ、世界へ』

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めていきます。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来へつないでいきます。



【凡例】2011年度の達成状況
■ 目標達成 ■ 10%未満の未達 ■ 10%以上の未達
※ISO26000と国連グローバル・コンパクトについては、P12に示しています。

カテゴリ	測定指標	単位	2011年度 目標	2011年度 実績	2012年度 目標	2011年度の主な事業活動と成果	2012年度以降の方針	ページ	ISO26000中核主題	国連グローバル・コンパクト	
社会的責任	環境	CO2排出量 (オフィス活動によるもの)(※3)	t-CO2	8,360	7,112 ■	7,041	・ISO14001(環境マネジメントシステム)のグループ全社での認証取得	・ISO14001(環境マネジメントシステム)の運用を通じたさらなる省エネへの取組みを実施	P49 P63	環境	環境 原則7、8、9
		CO2排出量 (路線延長1kmあたり)(※4) (保全・サービス事業、関連事業、 お客さま車両の走行によるもの)	t-CO2/km	5,241	5,240 ■	5,275	・高速道路ネットワークの整備(新東名、圏央道)や 高速道路法面の樹林化、「エコ・エリア」など 省エネルギーへの取組みによるCO2排出量の抑制	・高速道路ネットワークの早期整備や付加車線事業などの渋滞対策の推進	P49~54	環境	環境 原則7、8、9
	地域連携	社会貢献活動件数	件	760	1,736 ■	820	・新東名沿線での農山村活性化や障がい者団体への就労支援 など地域の活性化や福祉の充実に向けた取組みを実施 ・高速道路関連社会貢献事業の推進 ・発展途上国への専門家派遣など国際貢献の実施	・社員のCSR意識の向上やボランティア精神の醸成に努め、地域やNPOと連携し CSR活動領域を拡大 ・海外の道路事業者との交流を深め、国際的な活動の積極的な実施	P37~40	コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	——
拡大成長・技術	関連事業 新規事業	サービスエリア店舗総売上高	億円	1,530	1,502 ■	1,690	・「EXPASA」の展開 ・「お招き」と「おもてなし」の心でのお客さま対応 ・「ぶらっとパーク」の整備や地産地消の推進 ・休日上限1,000円の料金施策終了の影響により、売上高が減少	・「NEOPASA」、「EXPASA」を軸とした個性豊かで魅力的なサービスエリアの展開 ・「お招き」と「おもてなし」の心でのお客さま対応 ・「ぶらっとパーク」の整備や地産地消の推進	P17~18 P30 P33	コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	——
		新事業プロジェクト件数	件	2	2 ■	4	・グループ内で培った技術を広く販売する中日本高速技術 マーケティング㈱の設立 ・車両管理業務を一括して行う中日本高速オートサービス㈱ の設立	・社内のニーズ(種)や市場のニーズ(需要)をとらえ、新たな事業を創造	P32	消費者課題	——
		新商品・サービス件数	件	5	12 ■	20	・新東名関連商品の企画・販売 ・使用済みの横断幕を再利用したゴルフ関連商品の企画・販売 ・ペコリアーノ・デリの企画・販売 ・新東名プロモーションカーのプラモデルの企画・販売	・高速道路のメンテナンス業務に関わる資機材を市販化 ・クルマ、道路、ドライブにまつわる商品ラインナップを拡充	P32	消費者課題	——
		関連事業売上高成長率(※1) (2010年度の売上高を100%とする)	%	——	122	129	・当社オリジナルバスツアーの企画・実施 ・カードサービスの充実	・高速道路技術(ノウハウ、製品)の外販を強化 ・観光プロモーション、広告、不動産開発などの新規事業を拡大	P32	消費者課題	——
	事業多角化指数(※2)		29	26 ■	——						
	海外事業	海外事業プロジェクト累計件数	件	1	0 ■	2	・ベトナムでのコンサルティング業務を5件受注 ・ベトナムで有料道路事業を実施すべく、現地パートナーと協議	・引き続き、現地パートナーと協議を進め、有料道路事業を早期に実現 ・新たな有料道路事業の実現に向け、現地調査や関係機関との協議を推進	P39~40	コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	——
	技術開発	パテント出願件数	件	15	19 ■	16	・アスファルト舗装の中温化技術に関する研究 ・有機発生材の3Rシステムに関する研究 ・道路維持管理用EV及びEV用非接触充電システムの研究	・引き続き、研究開発を推進	P61~62	消費者課題 環境	環境 原則9
組織人材	モチベーション	ES調査値(働きたい)	点	3.50	3.47 ■	3.54	・社員に期待する役割や成果を明確にし、目標の達成度や行動、 能力の公正な評価により社員の働きがいを向上 ・女性や障がい者などがいきいきと働ける職場環境づくりの 推進	・人事制度とダイバーシティ・マネジメントの推進 ・ワークライフバランスと職場コミュニケーションの促進	P44~46	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
		経営職登用年齢(最年少)(※5)	歳	45	43 ■	42	・OJTを基本に階層別・専門研修や他企業への派遣研修、 キャリアカウンセリングなどの相談体制を構築し、 社員がめざすべきキャリアの実現を支援	・拡大・成長に向け、変革への強い意志をもった経営人材を計画的に育成 ・キャリアパスを踏まえたOJTや専門・階層別研修の着実な実施により、 専門知識の習得や課題解決能力・対人能力を向上	P45	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
	イノベーション	イノベーションからの 事業化件数	件	1	1 ■	3	・車両管理業務を一括して行う中日本高速オートサービス㈱ の設立	・「イノベーション・ポスト」への提案件数のさらなる増加をめざし、 アイデアの具現化に取組む	P46	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
		イノベーションポスト 提案件数	件	1,000	2,123 ■	3,000	・社員が気軽に提案できる創意工夫制度として、 2010年10月に「イノベーション・ポスト」を創設 ・2011年度の提案件数は、2,123件	・提案件数のさらなる増加をめざすとともに、アイデアの具現化に取り組む	P46	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
	ダイバーシティ	女性管理職数(※5)	人[累計]	5	5 ■	5	・女性社員の積極的な採用や女性社員の活躍を支援する取組み を実施	・引き続き、女性社員の積極的な採用や女性社員の活躍を支援する取組みを実施	P44	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6
生産性	建設コスト削減	建設コスト削減累計額	億円[累計]	145	167 ■	185	・PC箱桁のウェブ部分に軽量な「波形鋼板」を用いた建設コスト の削減 ・インセンティブ助成金の交付申請	・引き続き、新技術・新工法によりコスト削減、インセンティブ助成金の申請を推進	P42	消費者課題 公正な事業慣行	——
		km当たり管理費	百万円/km	69	72 ■	68	・冬季の想定以上の降雪による雪氷対策費用の増加 ・台風及び異常降雨による災害対応の増加 ・交通事故削減に向けた緊急対策費用の増加	・安全・安心・快適を確保しつつ適切な執行管理を行う	P42	消費者課題 公正な事業慣行	——
	生産性	サービスエリア事業売上高 営業利益率 [サービスエリア事業営業利益/ サービスエリア事業営業収益]	%	19	16 ■	16	・休日上限1,000円廃止などにより売上高の計画未達 ・新東名のエリアの前倒し開業に伴い計画外のインシヤル費用 が発生	・「NEOPASA」、「EXPASA」を軸とした個性豊かで魅力的なサービスエリアの展開 ・「お招き」と「おもてなし」の心でのお客さま対応 ・「ぶらっとパーク」の整備や地産地消の推進	P17~18 P30 P33	消費者課題 コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	——
		従業員1人当たり サービスエリア事業売上高 [サービスエリア事業営業収益/ サービスエリア事業従事社員]	百万円/人	105	106 ■	108	・「EXPASA」の展開 ・「お招き」と「おもてなし」の心でのお客さま対応 ・「ぶらっとパーク」の整備や地産地消の推進 ・休日上限1,000円の料金施策終了の影響により、売上高が減少	・「NEOPASA」、「EXPASA」を軸とした個性豊かで魅力的なサービスエリアの展開 ・「お招き」と「おもてなし」の心でのお客さま対応 ・「ぶらっとパーク」の整備や地産地消の推進	P17~18 P30 P33	消費者課題 コミュニティへの参画 及びコミュニティの発展	——
		総労働時間(グループ全体)	時間/年	2,000	1,987 ■	1,950	・ワークライフバランスの促進に向け、時間外労働の削減や 休暇取得を促進 ・男性8名を含め、2011年度の育児休業取得者は28名	・勤務制度の見直しや適切な勤務時間管理と業務効率化により時間外労働の削減や 休暇取得を促進し、総労働時間を短縮	P45	人権 労働慣行	人権 原則1、2 労働基準 原則3、4、5、6

※1 測定指標の見直し/施策への取組みとその効果や達成状況の関係をより直接的に把握するため、2012年度から次の項目について測定指標を見直します。
【関連事業売上高成長率】事業多角化指数(関連事業売上高÷(通料金収入+関連事業売上高))を、関連事業売上成長率(2010年度を100%とする関連事業連結売上高の割合)に変更します。
※2 見直し前の測定指標による数値を示しています。

※3 環境省が公表した2010年度の排出係数で算出しています。経営計画2011公表時の目標値「10,223(t-CO2)」は2009年度の排出係数で算出したもので、2010年度の排出係数で算出すると「8,360(t-CO2)」になります。
※4 高速道路ネットワークが整備されることなどによる一般道から高速道路への交通の転換も考慮しています。
※5 NEXCO中日本(グループ会社を除く)の数値を示しています。

【凡例】2011年度の達成状況
■ 目標達成 ■ 10%未満の未達
■ 10%以上の未達

NEXCO中日本グループのCSR活動

本業を通じて的確に社会の期待に対応することが私たちのCSR活動です。

NEXCO中日本グループは、経営理念を実践し、私たちの役割を果たすことによって、持続可能な社会づくりに貢献します。ISO26000などの国際規格を参考に、企業価値を維持するための『基本的CSR活動』とあわせて、自社の経営資源や強みを

活かした『NEXCO中日本ならではの』CSR活動として、「安全・安心・快適の推進、感動の提供」「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」「環境・持続可能社会への貢献」の3つの重点領域に積極的に取り組んでいます。

本業を通じたCSRの実践

各活動の目標設定とKPI管理の徹底



CSR活動と各種ガイドライン

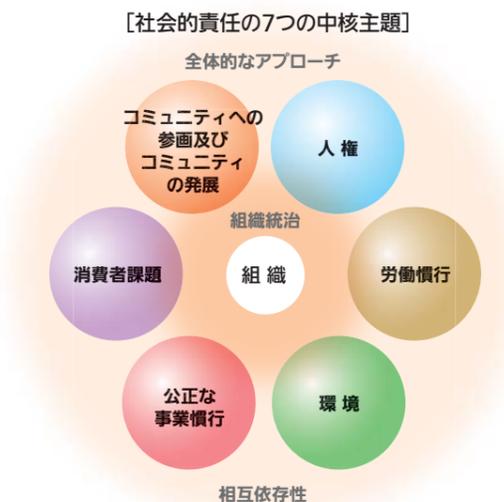
NEXCO中日本グループは、グローバル社会において、持続可能な社会に貢献するとともに、他企業や他機関とCSRの価値観を共有し、連携を図っていくことが重要であると考えています。

当社は、2008年7月に国連グローバル・コンパクトの10原則に賛同・署名し、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク(GC-JN)に参加しています。また、2010年11月に発表されたISO26000の視点を取り入れ、CSR活動の課題や重点施策を抽出し、各施策の達成状況をKPIによって把握し、PDCAサイクルを回しながら、CSR活動を推進しています。 ※P7~10にKPIとISO26000の7つの中核主題及び国連グローバル・コンパクトの10原則との関連を示しています。

ISO26000の7つの中核主題

ISO26000は、組織の社会的責任に関する国際規格で、認証を前提としないガイダンス規格です。90を超える国及び40を超える地域機関のエキスパートが関与する、マルチステークホルダーアプローチという手法により、5年余りの年月をかけて発行されました。

ISO26000では、組織が取り組むべき社会的責任の7つの中核主題を示しています。



[出典]「ISO26000:2010 社会的責任に関する手引」(日本規格協会)

国連グローバル・コンパクトの10原則

国連グローバル・コンパクト(GC)は2000年に当時のアナン国連事務総長の提唱により創設されたものであり、現在では約140カ国から10,000以上の企業・団体などが参加しています。

GCは、企業が影響力の及ぶ範囲内で、人権、労働基準、環境、腐敗防止の4分野で遵守すべき10原則を示しています。

[国連グローバル・コンパクト(GC)の10原則]

人権	原則1	企業は、その影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
	原則2	人権侵害に加担しない。
労働基準	原則3	組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
	原則4	あらゆる形態の強制労働を排除する。
	原則5	児童労働を実効的に廃止する。
	原則6	雇用と職業に関する差別を撤廃する。
環境	原則7	環境問題の予防的なアプローチを支持する。
	原則8	環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。
腐敗防止	原則10	強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

■グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークでの取り組み

当社はGC-JNにおいて、CSR報告書研究分科会、地球温暖化分科会、生物多様性分科会、サプライチェーン分科会に加入しています。特にCSR報告書研究分科会の幹事会社として分科会

加入企業の方々とともに相互のCSR感度の向上に努め、GC-JN参加企業全体のCSR報告書改善に向けた取り組みを行っています。



特集
01

高速道路ネットワークの充実

信頼性の高い高速道路ネットワークの構築により、お客さまにとって安全・安心・快適な高速道路空間を提供します。

NEXCO中日本グループは、経営を取り巻く環境の変化に的確に対応しながら、2016年度までに322kmの高速道路を新規に開通し、社会経済活動の根幹を支えるインフラとして、地域相互の交流、沿線地域の産業の活性化、他の交通機関との有機的結合による人・モノ・情報の流れの円滑化などに貢献します。

新東名(御殿場JCT～三ヶ日JCT)は、2012年4月14日に開通しました。

わが国のビッグプロジェクトの一つである新東名高速道路(新東名)のうち、御殿場JCT～三ヶ日JCT間が、1993年11月の施行命令から18年5ヶ月の歳月を経て2012年4月14日に開通しました。

当該区間については、新東名・東名高速道路(東名)のダブルネットワーク化による災害などの緊急時の代替路線の早期確保

の観点や地元のお客さまのご要望も踏まえ、できる限り早期の開通をめざして事業を進め、関係するお客さまのご支援・ご協力により、当初予定していた2012年度末から1年程度開通を前倒しすることができました。

なお、今回の開通区間は約162kmであり、これまで開通した日本の高速道路の中で、一度の開通としては最長のもです。

参考:新東名 海老名南JCT～豊田東JCT間は254km



新東名(開通区間)の特徴

特徴.1 | 東名の抜本的サービス改善

東名 御殿場IC～三ヶ日IC間(4車線)における、新東名開通前の一日の平均交通量は約74,000台となっており、交通集中による渋滞が多く発生していました。

新東名の開通により、東名・新東名に交通が分散し、定時性・快適性が確保され、静岡県内の渋滞がほぼ解消されます。



※資料:2010年 渋滞データ(NEXCO中日本)

【東名の交通渋滞の状況】



※資料:2011年1月～11月 静岡県内通行止めデータ(NEXCO中日本)

【東名の通行止めの状況】

特徴.2 | ダブルネットワークによる信頼性の向上

新東名の沿線地域は東海地震の防災対策強化地域及び東南海・南海地震の防災対策推進地域に指定され、特に東海地震が今後30年間で発生する確率は88%といわれています。

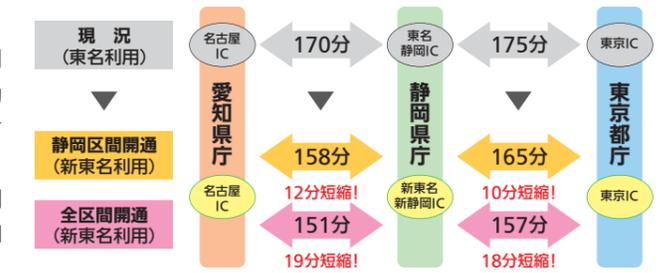
加えて、東名と国道1号、JR東海道本線が集中する由比海岸は大規模な地すべり地帯であるうえ、海側の東名は台風高潮による通行止めが頻発しています。

今回、新東名の開通により、東名との間で相互に行き来が可能なダブルネットワークが形成されたことにより、災害など緊急時の代替路線の確保、避難路・緊急輸送路としての機能、緊急体制の支援など、安全・安心の実現、道路の信頼性の向上を図ることができました。

特徴.3 | 日本の大動脈としての大都市圏の連携強化

新東名では、最短ルートを選択やゆとりのある構造規格の採用により、東名ルートに比べ、東京・静岡・名古屋圏の都市間の移動が短縮され、人やモノの流れがスムーズになり、行動圏が拡大することで社会経済活動の活性化に寄与することが期待されます。

また、静岡県内の東名のICから離れた地域と県内主要都市間の所要時間が短縮し、地域の活性化や地域間の交流機会の増加が期待されます。



※資料:2005年 道路交通センサスより算出(新東名は100km/hで算出)

【大都市間の移動時間の変化】

特徴.4 | 安心な暮らしへの貢献

静岡県内各地から高速道路へのアクセスがしやすくなり、救急医療施設への搬送時間が大幅に短縮されるとともに、新東名におけるサービスエリア・パーキングエリアの12か所にヘリポートを設置したことで、高速道路事故への迅速な対応や防災への備えが強化され、安心な暮らしへの貢献が期待されます。

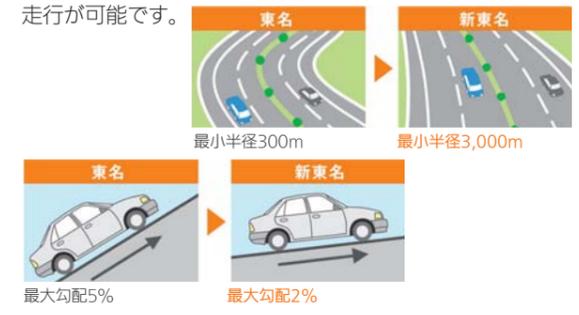


※資料:2005年 道路交通センサスより算出(新東名は100km/hで算出)

【救急救命センターへの搬送時間短縮例】

特徴.5 | 安全で快適な走りやすい高速道路

新東名は、東名と比べてカーブも坂道もゆるやかなことが構造上の大きな特徴です。これまで以上に、より安全で快適な走行が可能です。



【本線の幾何構造(御殿場JCT～浜松いなさJCT)】

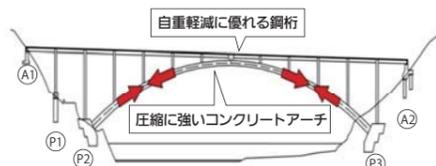
新東名(開通区間)の建設を支えた最先端技術

新東名は山間部を通るため、大規模な橋梁やトンネルが存在しますが、安全と品質を確保しつつ、コストを削減するために新技術や新工法を積極的に採用し、土木学会などからいくつもの技術的な表彰を受けています。

新富士川橋(富士市～富士宮市) 2004年度土木学会田中賞



新富士川橋は、一級河川富士川をまたぐ建設当時世界一の支間長265mの長大アーチ橋です。わが国で初めて「鋼・コンクリート複合アーチ橋」を採用しており、アーチ部材・鉛直材の圧縮特性に優れたコンクリート構造と、鋼製の上部桁を組み合わせた合理的な構造で、通常のコンクリートアーチ橋と比べ、重量が約40%軽減され、約20%のコスト削減が可能となりました。



圏央道(高尾山IC～八王子JCT)は、2012年3月25日に開通しました。

首都圏中央連絡自動車道(圏央道)は、首都圏の道路交通の円滑化・環境改善、沿線都市間の連絡強化などを目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路で、現在までに約110kmが開通しています。

このうち、国土交通省と共同で事業を進めてきた高尾山IC～八王子JCT間の2kmが2012年3月25日に開通しました。今回開通

した高尾山IC～八王子JCT間は、2013年度に全線開通が予定されている東名から中央自動車道(中央道)のネットワークの一部となっています。

東名と中央道が結ばれることにより広域ネットワークが形成され、都心部への通過交通の抑制による混雑緩和や、並行する国道16号・国道129号などの混雑緩和が期待されるとともに、圏央道沿線への企業立地の促進や地域の活性化が期待されています。

開通区間の整備効果の事例

①地域活性化の支援

圏央道整備に伴う沿線での新たな拠点整備により、地域の活性化に期待が寄せられています。

②観光の支援

高尾山への時間短縮が見込まれます。

③医療圏域の拡大

中央道 上野原ICから第三次救急医療施設である東京医科大学八王子医療センターまでの所要時間が短縮し、救命活動の向上が期待されます。



開通式の様子



八王子JCT (八王子城跡トンネルから高尾山トンネル方面)



高尾山IC

2016年度までに、322kmの高速道路を新たに開通させます。

路線名	区間 (IC・JCT名は仮称のものを含まず)	延長 (km)	完成予定年度	備考
新東名高速道路	海老名南JCT～厚木南	2	2016	
	御殿場JCT～三ヶ日JCT	162	2012	2012年4月14日開通
	浜松いなさJCT～豊田東JCT	55	2014	
中部横断自動車道	六郷～増穂	9	2016	
新名神高速道路	四日市JCT～四日市北JCT	4	2015	
紀勢自動車道	紀伊長島～紀勢大内山	10	2012	
舞鶴若狭自動車道	小浜～敦賀JCT	39	2014	
首都圏中央連絡自動車道 (圏央道)	茅ヶ崎JCT～寒川北	5	2012	中央道、東名、新湘南バイパスが圏央道を介して2014年度に接続
	寒川北～海老名JCT	4	2014	
	海老名～相模原愛川	10	2012	
	相模原愛川～高尾山※	15	2013	
東海環状自動車道	大垣西～養老JCT	6	2012	2012年9月開催の「ぎふ清流国体」までに開通
	東員～四日市北JCT	1	2015	

※相模原ICは2014年度の完成を予定しています。

Topics トピックス

新規事業化区間の概要



東京外かく環状道路

東京外かく環状道路は、東京都心から半径およそ15kmに位置する総延長約85kmの首都圏の環状道路で、都心への交通の適切な分散導入による交通の円滑化、環境改善、災害時の迂回機能の確保などを図る上で重要な役割を担う道路です。

本事業は、「直轄事業と有料道路事業による事業方式」であり、当社は、国土交通省と連携して早期整備に向けて事業を進めていきます。

[完成予定年度 2020年度] ※当社は、中央道～東名間の事業を行っています。



名古屋環状2号線

名古屋環状2号線は、名古屋市の外周部を通る総延長約67kmの環状道路で、名古屋市を中心に放射状に伸びる幹線道路を主要地点で接続し、名古屋都市圏をネットワークする上で重要な役割を担う道路です。

本事業は、「直轄事業と有料道路事業による事業方式」であり、当社は、国土交通省と連携して早期整備に向けて事業を進めていきます。

[完成予定年度 2018年度]

お客さまに感動していただけるサービスエリアへ

「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまをお迎えし、何度でも訪れたいと感じていただけるような感動にあふれたサービスエリアを創造します。

音をテーマとした憩いのスペース

長距離運転の疲れをマッサージチェアやシャワーで癒していただけます



プレミアムなパウダールームもご利用いただけます

新東名の開通にあたり、新たな時代を象徴する「NEOPASA」のブランドを確立します。すでに営業中のサービスエリアについても、これまでのサービスエリアの概念を超えた「EXPASA」を軸に、個性豊かで魅力的なサービスエリアで、お客さまの多様なニーズにお応えします。



新たな“おもてなし”空間



楽しい園地で家族で遊べる

お客さまに自由に選び楽しんでいただける、新鮮で魅力あふれるエリアとして、新東名に新たなブランド「NEOPASA」を展開しています。

各エリアに地域性を考慮したコンセプト・特徴をもたせ、お客さまのニーズにあわせてエリアを選択いただけるように、一から創り込んだサービスエリアです。

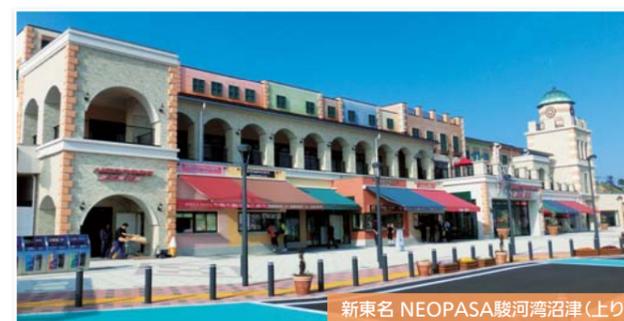
新東名高速道路 商業施設一覧	
NEOPASA駿河湾沼津	上り・下り
NEOPASA清水	上下一体
NEOPASA静岡	上り・下り
藤枝PA	上り・下り
掛川PA	上り・下り
遠州森町PA	上り・下り
NEOPASA浜松	上り・下り



エリアから駿河湾が一望できます



エリアで車・バイクの展示販売も



EXPASA を軸に個性豊かなエリアに

2010年度から展開している「EXPASA」を、2011年度には海老名上りと談合坂下りの2か所でもOPENしました。

その他のサービスエリアにおいても、本物志向の品揃えや地場産品などを充実させるとともに、立地を活かしたさまざまな演出を施すなど、個性豊かで魅力的なサービスエリアを展開しています。

2010年度オープン		
東名	EXPASA足柄	上り・下り
名神	EXPASA多賀	下り
東名阪	EXPASA御在所	上り・下り
2011年度オープン		
東名	EXPASA海老名	上り
中央道	EXPASA談合坂	下り

おもてなしの心でお客さまをお迎えするサービスエリア・コンシェルジュ



地場産品を充実させた「関の刃物」コーナー



展望ウッドデッキから諏訪湖の絶景を独り占め



伊勢神宮の参道の街並みをイメージした「安濃横町」



大規模災害に向けた取組み

NEXCO中日本グループでは、東日本大震災を受け、業務継続計画(BCP)を見直して防災体制をさらに強化し、お客さまに、安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供します。

東北地方・関東地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災では、高速道路ネットワークの整備や耐災性・補完性確保の重要性を改めて認識しました。NEXCO中日本グループでは、この未曾有の大震災の教訓を活かし、「東海・東南海・南海地震」や「首都直下型地震」などに備えるため、業務継続計画(BCP)の見直しを行い、大規模な災害が発生した場合にも国民生活に不可欠な交通の確保をめざして防災体制のさらなる強化に取り組んでいます。

業務継続計画(BCP)

BCPの全社展開

東日本大震災の教訓を活かし、大規模地震や大津波・原子力発電所などによる災害を想定した業務継続計画(BCP)を全社展開し、グループ一体となった防災体制をさらに強化しました。また、大津波を想定した高速道路を走行中のお客さまへの情報提供や、休憩施設のお客さまの避難場所への誘導方法など、詳細な検討を行いました。

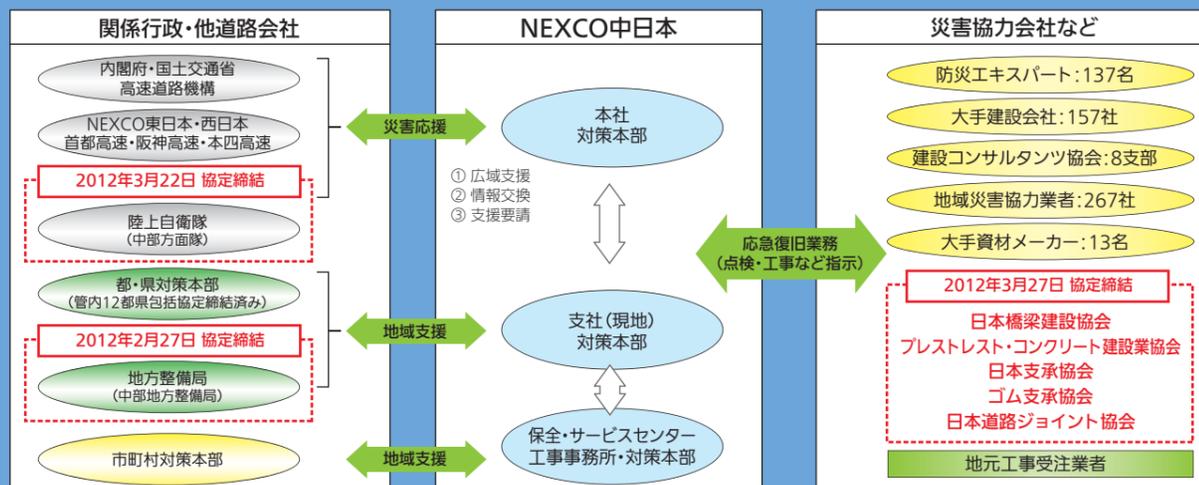


太平洋沿岸部を通過する東名高速道路

応援協力体制の構築

大規模災害時において、重要なインフラとなる高速道路を活用して速やかに東西交通が確保できるよう、陸上自衛隊中部方面隊、国土交通省中部地方整備局、橋梁関係5協会と相互応援

協力に関する協定を締結し、応援協力体制を強化しました。今後もさらなる体制強化に向け、他の関係機関との協定締結並びに連携強化に向け取り組んでいきます。

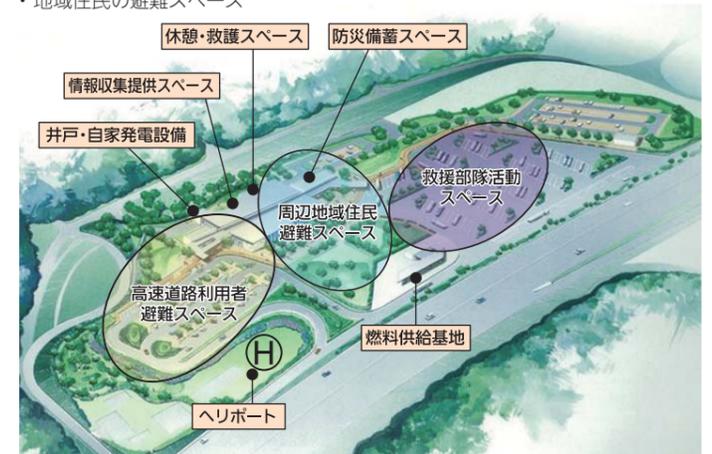


休憩施設の防災拠点化

東日本大震災において、道の駅が防災の拠点として有効利用された事例を受け、高速道路の休憩施設についても防災拠点化を進めます。災害の発生に伴い、各被災地の復旧作業にあたる自衛隊や消防、警察などの支援部隊の進出拠点としてだけでなく、高速道路をご利用になっているお客さま、周辺にお住まいの皆さまの一時避難場所として、必要となる施設及び水や食料などの非常用備蓄品の検討・整備を進めていきます。

防災拠点のイメージ

- ・進出拠点活動スペース
- ・高速道路利用者避難スペース
- ・地域住民の避難スペース



津波による被害想定の見直し

中央防災会議で示されていた3連動地震に伴い発生する津波予測を東日本大震災における津波被害を踏まえて見直しを行い、当社独自の被害想定を行いました。津波被害を受けると考えられる休憩施設や料金所、高速道路本線に関し、ご利用になるお客さまの安全の確保や各施設の機能維持のため、設備の見直しや誘導方法の検討を行いました。

通信手段の強化

大規模災害発生に伴い、情報ネットワークの寸断や一般回線による通話の発信制限などにより、現地からの情報が入手できないおそれが想定されるため、災害時優先電話及び衛星携帯電話を追加配備しました。

原子力被害対応

北陸自動車道が原子力発電所から概ね10km圏内、東名が20km圏内に位置しているため、原子力災害の発生に備え、料金所や休憩施設において、原子力防災備品の配備を完了しました。また、お客さまが被害想定区域の対象となる休憩施設や料金所から避難されることを想定した行動計画書を策定しています。

電力供給不足への対応

電力不足に対する政府方針を受け、夏季の電力需給バランスを考慮した道路照明の消灯、サービスエリアにおける一部機器の使用制限や社屋内の節電と省エネルギー化に取り組みました。また、冬季にはロードヒーティングの効率的な運用を行いました。2012年度においても社会情勢などを踏まえて、安全・安心を考慮したうえで引き続き取り組んでいきます。

ライフラインの長期停止に備えた備蓄強化

大規模な災害発生に伴い、電気・ガス・水道といったライフラインの停止により、災害対策本部が運営できなくなることを防ぐため、グループ会社を含めたグループ全体での備蓄の強化、備蓄燃料タンク容量の増加を進めています。

道路管制システムの相互バックアップ

道路管制業務の相互バックアップを可能とするシステムを構築しています。情報提供装置などの高速道路施設の運用に必要な道路通信ネットワークについて、災害によるシステムダウンに対応するべくバックアップ機能を強化し、高速道路機能の確保を図っています。

グループ一体となった防災訓練

災害が発生した場合、応急活動が迅速かつ適切に行われるよう、グループ会社などの幅広い参加により防災訓練を実施しています。防災訓練を通じて、防災体制の実効性を確認・検証するとともに、一人ひとりの防災に対する意識を高めています。

2011年度は9月1日の「防災の日」に、グループ一体で総合防災訓練を行いました。

また、3月7日～9日

には、すべての休憩施設及び料金所においてお客さま対応訓練を実施するなど、お客さまの安全を第一に考え、地域と一体となった防災体制の強化を図りました。



お客さま対応訓練(広域避難場所へ案内)

CSRマネジメント

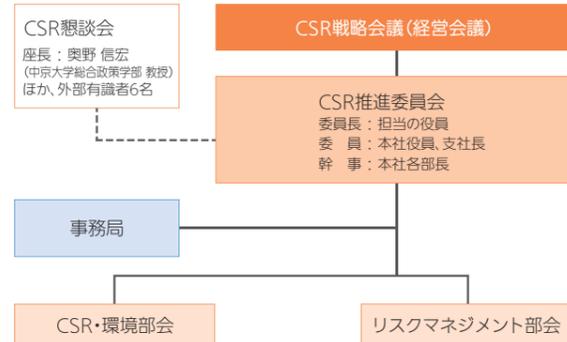
CSR推進体制

NEXCO中日本では、社長が議長を務める「CSR戦略会議」のもと、CSR推進委員会を設置し、当社のCSR活動を戦略的に展開していく体制を構築しています。

CSR推進委員会の設置

CSRに関するさまざまな取組みをグループ全体で推進していくため、「CSR推進委員会」を設置しています。委員会は、各(事業)本部や支社の長から構成され、当社グループにおけるCSRの取組方針、CSR報告書などに関することを多角的に議論、検討しています。また、個別の案件を審議するため、委員会の下には「CSR・環境部会」、「リスクマネジメント部会」を設置しています。

2011年度は、CSR推進委員会を計3回開催し、CSR報告書2011やCSR調達の推進、NEXCO中日本ならではのCSR活動などについて審議しました。



CSR意識の社員への浸透

2011年度はCSRに関する研修をリーダー職層、担当者職層、新入社員に対して、計8回実施しました。また、当社のさまざまなCSRの取組みについて社員が情報を共有し、それぞれの組織が自ら取り組むべき施策を考え行動することを目的とした「CSR報告書を読む会」を全4支社で開催しました。さらに、2011年度からグループ全体の各部署にCSR担当者を配置し、CSR活動を推進しています。



「CSR報告書を読む会」の様子

コーポレートガバナンス

NEXCO中日本では、2006年5月に「業務の適正を確保するための体制に関する基本方針」を策定し、この方針に基づき、各種内部統制システムを整備しています。

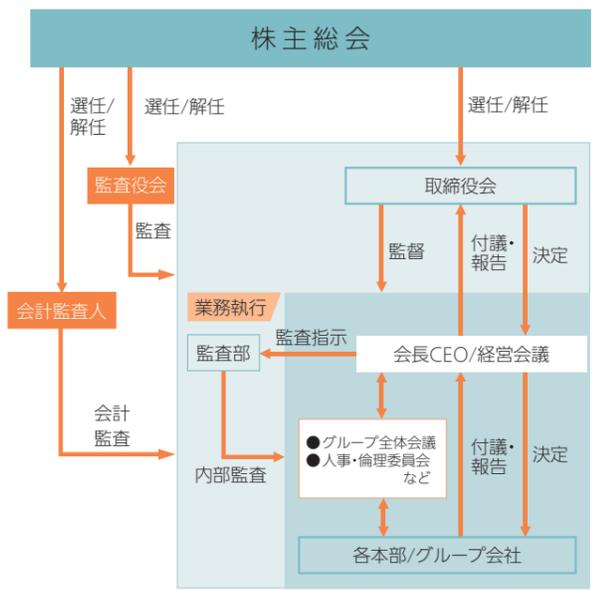
当社は、透明で健全な経営を行い、ステークホルダーの皆さまからの信頼と期待に応えるため、ガバナンスの充実に努めています。

取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

定例の「取締役会」を月1回開催し、重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について決定するとともに、取締役の職務執行状況を監督しています。

あわせて、取締役会の機能強化と経営効率の向上のため、全取締役、執行役員などをメンバーとする「経営会議」を定期に開催し、業務執行上の重要事項(グループ会社の経営に関する重要な事項を含む)について審議しています。

また、2007年6月からはグループ全体に影響する全社執行方針の決定・情報共有、グループ全体として共有すべき情報の伝達、確認などのため、全取締役、執行役員などに、グループ会社の社長などを加えた、グループ全体の会議を定期的で開催しています。なお、監査役はこれらすべての会議に出席し、社内全般の業務執行を監査しています。



2012年4月1日現在

リスクマネジメント

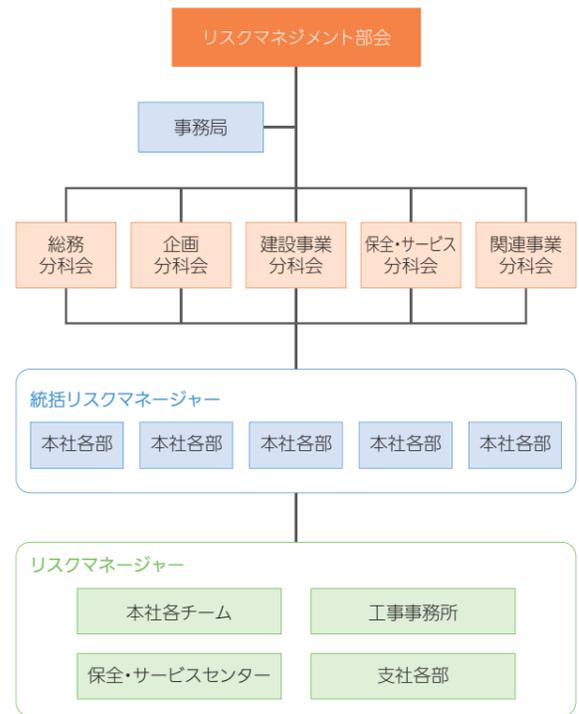
NEXCO中日本グループでは、事業活動に関わるさまざまなリスクに適切に対処するため、内部統制システムの一つであるリスクマネジメントシステムを整備し、グループ全体でリスクマネジメントシステムの確実な運用を図っています。

リスクマネジメント体制

当社が果たすべきミッションの達成を阻害するものをリスクとしてとらえ、全社的視点に立ち、合理的かつ最適な方法で管理するため、「リスクマネジメント規程」や「リスクマネジメント実施要領」を定めています。

また、リスクマネジメントの全社横断的な統括を行うため、「リスクマネジメント部会」を設置しています。

なお、2009年4月からはグループ各社においてもリスクマネジメントシステムを導入し、グループ全体でリスク管理を行っています。



業務継続計画(BCP)

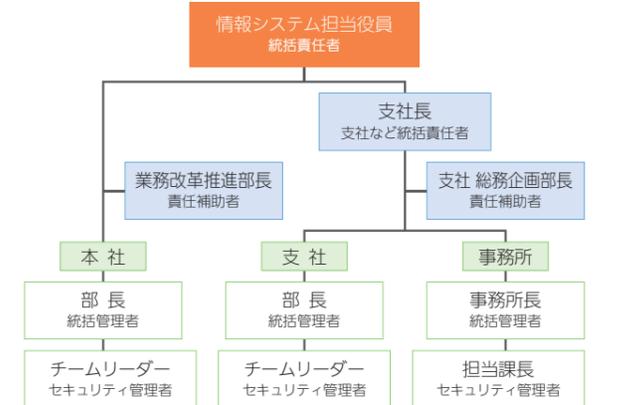
東日本大震災の教訓を活かし、「東海・東南海・南海地震」や「首都直下型地震」などに備えるため、業務継続計画(BCP)の見直しを行い、大規模な災害が発生した場合にも国民生活に不可欠な交通の確保をめざしてグループ一体となった防災体制のさらなる強化に取り組んでいます。

情報セキュリティ

NEXCO中日本グループでは、個人情報をはじめとする情報資産の安全確保のため、情報セキュリティ対策の充実・強化に取り組んでいます。

情報セキュリティの推進体制

情報システム担当役員のもと、業務の効率化に資するシステム開発を行う一方、日々高まるセキュリティリスクに対応してセキュリティ対策のアップデートや最新技術を採用した対策強化の取組みを行っています。特に情報セキュリティ推進体制として、支社・事務所などについては「統括管理者」「セキュリティ管理者」を配置し、各職場レベルまで包括した情報セキュリティ管理体制を構築しています。



情報セキュリティの意識向上と対策

社員の情報セキュリティの意識向上と取組みの課題確認のため、毎年「情報セキュリティセルフチェック」を行うとともに、各職場から代表者(アフィリエイトスタッフ)を集め、最新のセキュリティ動向を伝え、脅威への対策について議論を行っています。

2011年度は、メールマガジンの配信に際し、お客さまのメールアドレスを誤って「宛先」に指定して一斉送信したため、349名のお客さまのメールアドレスが流出する情報漏えいが発生しました。再発防止策として、人為的ミスに起因しないシステムを導入するとともに、社員への周知徹底を図りました。今後、このような事態が発生しないようさらなるセキュリティ強化に努めていきます。

主な情報セキュリティ対策

- ・カード認証(フェリカ)の導入
- ・個人の外記記憶媒体の持込禁止
- ・入退室管理システムの導入
- ・社員教育の実施(セルフチェックなど)
- ・PC操作記録システム(SeP)の導入
- ・暗号化ソフトの導入
- ・ウイルス対策機能をもったUSBメモリの導入

コンプライアンス

NEXCO中日本グループがめざす企業像である「世界一の高速道路会社」の実現に向けてコンプライアンスを徹底しています。高い倫理観に根ざした企業文化へと変革し、社会から信頼される企業グループを実現するため、組織のガバナンスと社員一人ひとりの立場・役割に応じたきめ細かな教育を柱とするコンプライアンス行動計画を策定し、グループ全体でコンプライアンス意識の向上に取り組みます。

コンプライアンス意識の向上に向けた主な取組み

- ・職場ごとに意見交換を行う「コンプライアンスタイム」を実施するとともに、eラーニング、理解度チェックテストなどを継続して行うことにより全社員共通のコンプライアンス意識を高めます。
- ・所長の任用にあたっては、任用前後の研修を強化して管理者としての自覚を高めます。
- ・社員の家族向けリーフレットを配布し、家族も含めたコンプライアンス意識向上策を実施します。
- ・支社の幹部など、コンプライアンス推進の核となる社員に対する教育を拡充するとともに、法令改正の情報を収集・配信するなど、コンプライアンスを推進するためのシステムを充実します。

行動規範の整備と周知徹底

2007年8月に「中日本高速道路グループ倫理行動規範」を制定し、役員、グループ社員一人ひとりが高い理念と規範に基づき行動することを認識して、さまざまな局面で実践することとしています。そして、グループ全体の高い倫理観の醸成を図るために、倫理行動規範やコンプライアンスの内容について、社内電子掲示板への掲載や、携帯用カード・マニュアル冊子の配布などにより周知徹底しています。



コンプライアンス・マニュアル/「法令の遵守」のみならず「社会的要請への適切な対応」が重要であることを分かりやすく事例で解説したコンプライアンス・マニュアルを、グループのすべての社員に配布しました。

人事・倫理委員会の設置

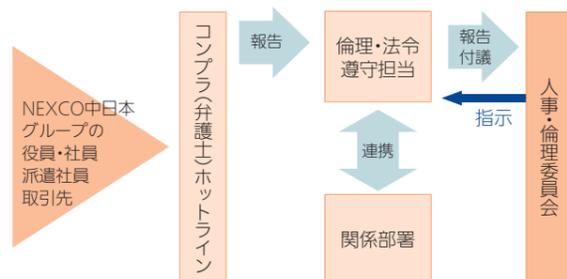
役員及び社員の高度な倫理観の確立のために必要な事項や不祥事の原因究明及び未然防止のために講ずべき措置について検討することなどを目的として、外部有識者を委員とした「人事・倫理委員会」(委員長:杉田 和博氏 JR東海(株)顧問)を2005年11月に設置し、2011年度は3回(7月、11月、2月)開催しました。

社内外相談窓口の設置

社内相談窓口として「コンプラホットライン」を開設し、コンプライアンスに関する通報・相談を通じて、社内秩序・規律の保持、不祥事の未然防止などを図っています。

このほか、セクハラに関する社内相談窓口やグループ全体を対象とした社外相談窓口である「コンプラ弁護士ホットライン」など、社員の相談に対する窓口体制の充実を図っています。

● コンプラホットライン



社員研修・外部講師による セミナーなどの実施

当社グループでは、コンプライアンスに関する社内研修を、全社員を対象に実施しています。新入社員から役員まで、それぞれの階層に応じた研修を実施しており、2011年度は延べ300名が受講しました。

また、Webを用いたeラーニングを、グループ社員5,000名が実施するとともに、「知的財産権」、「危機管理」、「不当要求対応」などに関する外部講師のセミナーを開催しています。



外部講師のセミナー

目次

お客さまとともに	P25
地域社会とともに	P33
国際社会との関わり	P39
国民(株主)の皆さまとともに	P41
取引先の皆さまとともに	P43
社員とともに	P44

http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/social_report/

社会的報告

私たちは、あらゆるステークホルダーの皆さまとのパートナーシップを大切に事業活動を展開しています。日本の基幹交通を担う高速道路の建設・管理などを通じて、社会の一員としての企業の社会的責任を果たしていくために、これからも社員一丸となってCSR活動の充実に努めていきます。



新東名 南松野高架橋

お客さまとともに —お客さま満足から感動へ—



お客さま第一経営

「道を通じて感動を人へ、世界へ」というコーポレート・スローガンのもと、お客さま第一経営の実現のため顧客満足度指数(CSI)に加え、新たな指標として感動指数(CDI)を策定しました。お客さまの期待を超え、感動を呼ぶサービスを提供し、感動と信頼のNEXCO中日本ブランドをめざします。

感動指数の策定

感動を「見える化」するため、2011年度に感動指数を策定しました。お客さまが高速道路をご利用された時に感じる、うれしい・楽しいといった「歓喜」と、ありがとう・助かったなどの「安心」の気持ちを感動の因子と考え、それぞれの影響度を考慮して数値化しています。

2011年度のCDIは38.6点でしたが、2012年度には40.7点、2015年度には47.1点を達成すべく、さまざまな取組みを進め、すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けします。

お客さまの声にお応えする

世界一の高速道路会社を実現するため、KPIとして設定したCSI(CS調査値)は、2015年度の目標74.0点に対し、2011年度の実績は60.9点でした。

お客さまの声を真摯に受けとめ積極的に改善・改修を行うとともに、完了までの目標日数を7日以内と定め、迅速な対応を心がけています。また、サービスエリア・パーキングエリア及び料金所での接客品質の向上や渋滞緩和対策を促進しています。さらに、お客さまの声を反映した改善事例をHPで公表することにより、CS向上と感動を得ていただけるよう努めています。

お客さまの声に対する取組み
<http://www.c-nexco.co.jp/contact/voice/>

ISO10002自己適合宣言

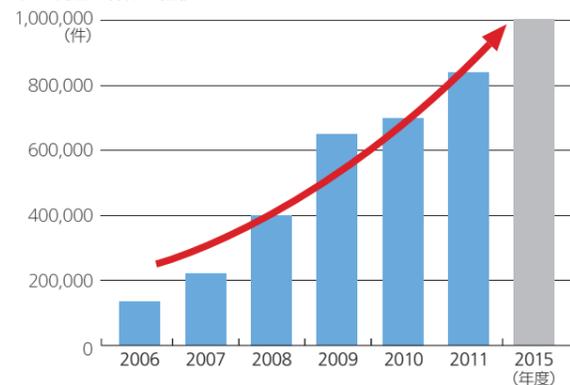
お客さま対応品質と社内のCS意識の向上をめざして2012年4月1日にISO10002(苦情対応マネジメントシステム)の自己適合宣言を行いました。お客さま対応に関する規程を遵守し、会社全体で積極的に取り組むとともに、社員への研修や対応プロセスの継続的な改善により、お客さまのお申出に迅速・適切・誠実に応じます。

お客さま対応の品質向上

より多くのお客さまからのご意見を事業に反映するため、サービスエリアのハイウェイポストを増設するとともに、記入用紙の郵便ハガキ化やハイウェイポスト@携帯メールの活用など、「どこでも」「気軽に」ご意見をいただく仕組みづくりを進めています。

また、お客さまセンターにおいては、すべてのお客さまからのお問合せに対応できるように、季節や曜日特性を踏まえた適切な人員の配置や対応処理時間の短縮、オペレーター研修・教育の充実により、2010年度は平均90%であった着信率が2011年度は94%に向上し、対応品質は、2015年度の目標70点に対し66点となりました。

● お問合せ件数の推移



TOPICS お客さまの声の反映事例

案内標識の改修

名古屋第二環状自動車道(名二環)案内標識の矢印方向が、道路の進行方向イメージと異なるためわかりにくいのご意見を受け、矢印の方向を修正しました。



お客さまとのコミュニケーション

お客さまにNEXCO中日本グループをより一層理解していただくために、グループ一体となって、統一的で効果的な広報・広告活動を展開しています。また、各種イベントなどを通じて、お客さまと直接ふれあうコミュニケーションも大切にしています。

メディアを活用した広報・広告

2011年度は、安全・安心・快適な高速道路の価値と、それを支える当社グループの姿勢を広く皆さまに知っていただくために、メディアを活用した広報を展開しました。

さらに2012年度は、高速道路を使った旅の魅力を各種メディアを通じて発信していく予定です。



上戸彩さんにもご出演いただき、Webサイトと連動し、高速道路を使った旅の魅力を伝えるテレビCMを制作

ホームページの利便性の向上

2011年7月にコーポレートサイト、高速日和、プレミアムドライバースカード、サービスエリア情報ガイドのWebサイトを統合し、より使いやすく、魅力的なコンテンツが充実したサイトにリニューアルしました。

また、積極的な情報開示のため、ホームページを活用し、地域情報、企業情報、IR情報、契約情報などの迅速な掲載を行っています。

NEXCO中日本公式Webサイト
<http://www.c-nexco.co.jp/>



NEXCO中日本 公式Webサイトのトップ画面

お客さまとのコミュニケーションの充実

当社グループの事業を紹介するとともに、お客さまとのコミュニケーションを図るため、2011年度はお客さま感謝イベント「ゴーイング☆ハイウェイ2011」などを多数開催しました。また、名古屋モーターショーや新東名高速道路(新東名)開通イベントを通じて、多くのお客さまに新東名の魅力をPRしました。

さらに、双方向コミュニケーションの拠点として、2012年4月、「コミュニケーション・プラザ」を川崎市と富士市の2か所に設置しました。

● 主なお客さま感謝イベントなど

イベント名	期間	場所
ゴーイング☆ハイウェイ2011	2011/10/1~10/16の間の土日	サービスエリア17会場
ハイウェイテクノフェア	2011/10/27~28	東京ビッグサイト
メッセナゴヤ	2011/11/9~12	ポートメッセなごや
名古屋モーターショー	2011/12/22~25	ポートメッセなごや
ラストチャンスウォークツアー in 新東名	2012/2/26	新東名 新富士IC~駿河湾沼津SA



ゴーイング☆ハイウェイ2011 in 有磯海SA



名古屋モーターショーでの新東名プレゼンテーション



コミュニケーション・プラザ川崎の高速道路体感シアタラム

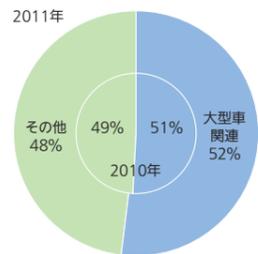
交通事故対策

お客さまに安全で安心してご利用いただける高速道路空間を提供するため、事故多発箇所や重大事故発生箇所における対策の実施、逆走事故防止対策などを進めています。また、事故防止には、ドライバーの皆さまの協力が不可欠であると考えており、高速道路の安全走行ガイドの配布や交通安全セミナーの実施など安全啓発活動に取り組んでいます。

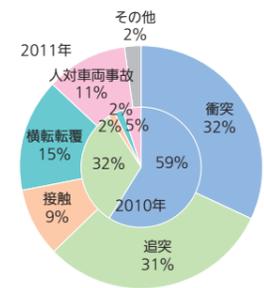
2011年度の事故の傾向

当社管内での死傷事故の発生件数は、2005年度から減少傾向にありましたが、2009年度からは増加に転じました。特に、2011年度は大型車が関係する死亡事故が多く、高速道路上での人対車両の死亡事故が多発しました。事故が多発する箇所や重大事故の発生箇所について、事故の発生状況や原因などの事故データを分析し、事故・安全対策を実施してさらなる安全性の強化に努めています。

● 大型車関連死亡事故発生状況
当社調べ(暦年)



● 事故形態別死亡事故発生状況
当社調べ(暦年)



事故多発箇所における対策

事故多発箇所や重大事故発生箇所の事故防止対策効果の検証や状況調査を行い、速度抑制レーンマーク、減速ベルト、薄層舗装(凹凸のある舗装)、高輝度レーンマーク、道路管理用カメラ、渋滞末尾警告システム、逆走防止装置などの必要な対策を、関係機関と協議しながら実施しています。



薄層舗装 逆走防止装置

ITSスポットによる情報提供

ITSスポットを活用したリアルタイム情報により、安全運転支援や渋滞時などの経路選択支援を実施するとともに、ITSシミュレーターによるITSスポットサービスのPRを行い、ITS車載器の普及を促進します。

また、道路保全の視点からの安全運転支援システムの展開として、次世代交通管制システムの構築、路車間の連携強化、画像処理技術の活用、維持管理車両への最先端の車両技術の応用などを図ります。



ITS対応カーナビ画面



ITSスポット体験シミュレーター

交通安全の啓発活動

高速道路の「要注意箇所」や安全走行のアドバイス、各種事故対策などをご紹介した「気をつけガイド」をお客さまに継続して配布しています。また、新たに「高速道路マナーガイド」を作成しお客さまに配布するとともに、交通事故の発生状況や安全走行のポイントなどをお客さまに直接お伝えする交通安全の学習会「交通安全セミナー」を2011年度までに約11万名の方々に受講いただきました。また、2011年度の死亡事故の傾向を踏まえ、トラック協会との協働による安全啓発や各種情報提供機器による高速道路上での人対車両の事故に対する啓発などを行いました。

引き続き、交通事故の要因分析、対策立案、効果検証を行い、各種交通事故対策の計画を策定するとともに、2012年11月発効予定の道路交通安全マネジメント(ISO39001)導入に向けた検討を実施します。



高速道路マナーガイド

交通渋滞対策

安全・渋滞対策の推進のため、2車線の一部区間を3車線化する暫定運用や、付加車線の設置を行うとともに、既存高速道路ネットワークの機能強化の推進のため、LED標識による情報提供、モバイルを活用した渋滞予測の配信などを実施し、渋滞緩和に向けた取り組みを行っています。

東名・岡崎地区の3車線(暫定)運用

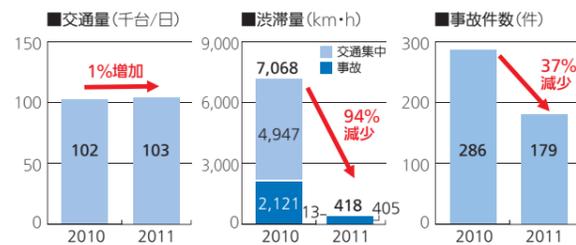
渋滞量が全国最大規模の東名高速道路(東名)・岡崎地区の渋滞・事故対策として、2011年10月21日より新東名(愛知県区間)開通までの間、現在の2車線を暫定的に3車線とする運用を開始しました。運用後、この区間の交通量は微増でしたが、渋滞は大幅に減少し、事故も減少しました。

また、渋滞の激しい東名阪自動車道(東名阪)・四日市地区についても、並行する新名神高速道路(新名神)が開通するまでの間、東名・岡崎地区と同様に暫定的な3車線運用を、2012年5月のリフレッシュ工事後から着手し、2012年末の運用開始をめざします。



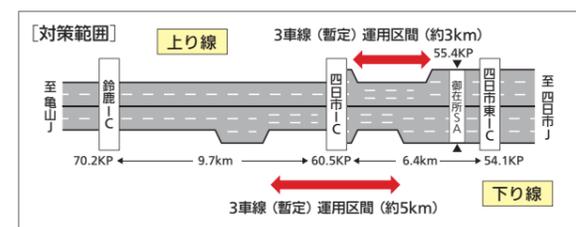
運用前 運用後

● 東名・岡崎地区の3車線(暫定)運用の効果



■期間
2011年[上限1,000円終了後]: 10月22日(土)~3月18日(日)の149日間
2010年[上限1,000円適応中]: 10月23日(土)~3月20日(日)の149日間

● 東名阪・四日市地区の3車線(暫定)運用予定区間



元八王子地区付加車線の運用

渋滞・安全対策や既存高速道路ネットワークの機能強化のため、付加車線の設置を進めています。

中央自動車道(中央道)下り線元八王子BS付近の付加車線事業の運用と、上り線小仏TN手前の付加車線区間において3車線運用方式への切り換えを2012年3月14日から開始しました。さらに東名の海老名地区の付加車線事業を進めています。

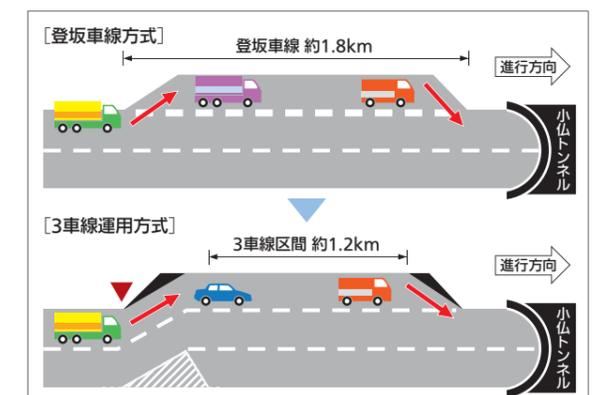


元八王子付加車線運用前



元八王子付加車線運用後

● 中央道 小仏TN付加車線の運用イメージ



LED標識やベクション効果による渋滞対策

サブ部などの速度低下に起因する渋滞多発箇所にはLED標識板を設置し、お客さまへ速度低下を注意喚起する情報提供を行うことにより、渋滞規模の軽減を図っています。また、東名下り線宇利TN付近を先頭とした渋滞対策としてベクション効果による速度回復を促す対策を実施します。

※ベクション効果とは、自分の周囲のものが移動するときに、視覚から受け取る情報によっては自分が移動しているように感じる効果のことです。この効果を利用すると、道路端に設置した発光器を流れる光の速度を制御することで、ドライバーには走行速度が変化したように感じられ、速度の抑制や回復を促すことができます。

次世代高速道路空間の創出

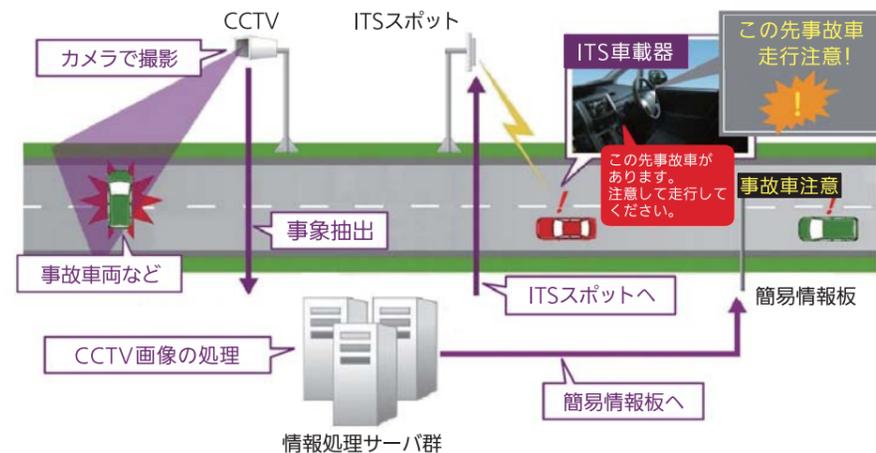
新東名リーディングプロジェクトにおける実証実験を踏まえ、「世界をリードする高速道路システム」を構築しています。

世界をリードする高速道路システム

新東名リーディングプロジェクトで実施した各種サービスについて、新東名(御殿場JCT~三ヶ日JCT)の開通後の効果を検証し、その結果を踏まえて建設中の新東名やその他の路線へ展開します。また、東名や中央道など営業中の路線へ導入します。

- ・路車間通信などのITS技術の導入により、事故や渋滞を削減します。また、ITS技術を運用する次世代交通管制システムを構築します。
- ・携帯通信などの新たな無線通信技術の導入により、地域と一体となって情報発信できる機能を有した防災拠点の強化を図ります。
- ・トンネル清掃車両などの高度化により車線規制を削減し、快適な走行空間を提供します。また、CO₂を排出しない電気自動車の維持管理車両を開発します。
- ・大学や企業などと連携を図りながら最新の技術動向を把握し、社会やお客さまのニーズに応えることができる新たなサービスの検討を行います。

● 突発的な事象を自動的に検知して後続車に知らせます。



● トンネル照明に、プロビーム方式で走行しやすく、環境負荷も小さい新たな光源を採用しました。



新東名リーディングプロジェクトの概要

■基本コンセプト

人、車、道路が協働する「世界をリードする高速道路システム」を構築し、地域の活性化と暮らしの向上、ひいては日本全体の発展に貢献することをめざす。

■めざすべき方向性

21世紀を迎え、人口減少や少子高齢化の進展、地球環境問題の深刻化、経済のグローバル化、地域間格差の顕在化など、わが国を取り巻く社会経済情勢は大きく変化している。今後、持続的な発展を図るには、こうした複雑かつ多様なテーマに的確に対応していく必要があり、下に記載しているテーマに重点的に取り組むこととしている。

視点	長期目標(新東名の全線開通時(2020年)以降)
安全・安心の実現	・交通事故死者限りなくゼロをめざす ・交通事故件数、負傷者数半減をめざす 特に、大型車に起因する悲惨な事故撲滅をめざす
環境への配慮	・二酸化炭素排出量半減をめざす
多様なライフスタイルの実現	・SA・PAなどでのユニバーサル対応、環境保全※1、情報アクセス完備※2をめざす ※1 太陽光発電の導入など ※2 無線LANの全施設整備(本線含む)など
活力ある社会実現	・幹線部の自動車貨物輸送コスト半減をめざす ・安定した速達性、定時性確保をめざす

感動を呼ぶ高速道路空間をめざして

お客さまの多様なニーズにお応えし、「お招き」と「おもてなし」の心でお客さまの期待を超える感動にあふれた高速道路空間の創造をめざします。

「お招き」と「おもてなし」の心で対応します

「お招き」と「おもてなし」の心で、お客さまの期待を超える対応をめざして、サービスエリアのスタッフ一人ひとりを対象にCS講習会や接客研修を実施します。



サービスエリアコンシェルジュ

お子さまや愛犬にもやさしいサービスエリア

家族やペットとゆったりとリラックスできるサービスエリアをめざし、お子さま向け施設やドッグラン・ドッグカフェの整備を進めています。



キッズ遊具(EXPASA御在所(上り))



キッズコーナー(NEOPASA浜松(上り))



ドッグラン(EXPASA談合坂(下り))

お手洗いの美化など

お客さまの期待を超えた清潔で快適なお手洗い空間の実現をめざし、お手洗いの美化や女性トイレ、多機能な洋式トイレの増設を積極的に進めています。さらにお手洗いを快適

にご利用していただけるよう設備故障への迅速な対応や心のこもった清掃に努めるとともに、情報収集や待合せができるロビー空間の整備を行います。



女性トイレ



女性用トイレのパウダーコーナー



トイレのロビー



ロビーに設置した情報提供設備

美しい景観を望める高速道路空間の整備

日本は緑豊かで地形の変化に富み、明瞭な四季があります。高速道路を走行することで、通過する地域の自然や町並み、彩りがダイナミックに変化する姿を楽しむことができます。

富士山など美しい景観を望める区間では、透明な遮音板を設置することで、眺望を確保しています。また、休憩施設では地域特有の景観を意識した施設配置を行っています。



新東名・新富士高架橋

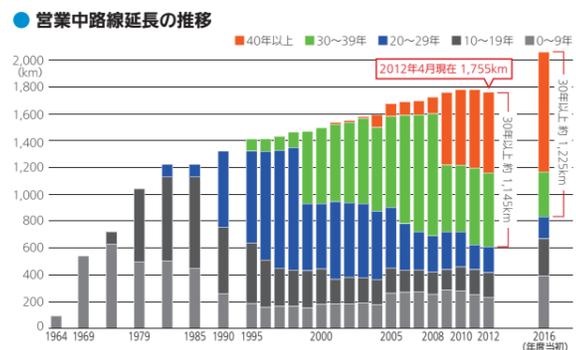


恋人の聖地(有磯海SA(下り))

「百年道路」計画の推進

お客さまに安全で安心してご利用いただける「百年道路」をめざして、道路構造物の老朽化、車両の大型化、交通量の増加などの環境変化に対応し、良好な道路資産の維持に向け、効率的かつ効果的な道路機能保全対策を推進します。

高齢化した高速道路ストックの現状



当社グループが管理する高速道路(1,755km 2012年4月現在)のうち、供用後40年を経過する東名・名神高速道路(名神)をはじめ、供用後30年を経過する道路が全体の約7割を占めます。4年後の2016年には、経過30年以上の高速道路はさらに80km増加することになり、高齢化する高速道路ネットワークの長期的な保全事業(適切な点検と集中的な補修・補強)の推進が急務となっています。

高齢化した道路構造物(橋梁、舗装、施設設備)の損傷事例



橋梁の損傷事例/
床版下面亀甲状ひび割れ



舗装の損傷事例/
舗装路盤面のひび割れ



施設設備の損傷事例/
道路照明の腐食



施設設備の損傷事例/
情報板の機能低下

「百年道路」計画の着実な実行

国民生活に必要な不可欠な高速道路を健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産を継承するため、対症療法的な「事後保全」から「計画保全」への転換を推進しています。

「百年道路」計画の着実な実行に向けて、ダブルネットワークを活かして、橋梁や舗装の大規模修繕を計画的に行います。

また、施設設備の計画的な補修を行い、設備の延命化と効果的な更新を行います。



床版増厚



断面補修



床版取替施工



桁端部表面被覆

重要交差箇所の対応

道路の異常を早期に発見し、安全で快適な走行環境を確保して、お客さまへの被害を未然に防止するため、道路構造物や施設設備(道路照明など)の点検を日常的、定期的に行っています。

2012年1月に発生した橋梁付属物の一部垂れ下がり事故により鉄道の運行に重大な支障を及ぼす事態となったことから、特に鉄道との交差箇所や並行箇所の付属物点検を徹底し、今後2年以内に点検を完了するよう鉄道事業者と協議・調整を進めています。

また、橋梁のコンクリート片のはく落、橋梁付属物の落下などによる第三者被害防止に向け、他の道路や鉄道との交差箇所などの定期的な点検を実施できる体制を構築するとともに、点検結果に基づく対策を計画的に実施し、構造物の適切な管理を行います。



橋梁の点検

新たな事業領域への挑戦

NEXCO中日本グループでは、お客さまに高速道路をより楽しくご利用いただくためのサービスとして、旅行業やカードサービス事業などを推進するとともに、地域・社会に貢献できる新たな事業領域に挑戦しています。

当社オリジナルのバスツアー

2011年度は、開通直前の新東名と道路管制センターの見学ツアーや、道路の施設見学と地域の観光を組み合わせた企画など、当社ならではのバスツアーを実施し、約620名のお客さまに高速道路事業へのご理解と親しみを深めていただきました。



新東名の建設現場やJAF救急車の実演などの見学バスツアー

観光プロモーション事業の促進

サービスエリアの広告媒体などを活用した広告商品やイベントを企画・提案し、地域への旅行を促進する観光プロモーション事業に取り組んでいます。2011年度は、サービスエリアにおいてお客さまの旅行に役立つ、地域観光情報を提供する取組みを強化しました。

カードサービスの充実

プレミアムドライバーズカード会員の皆さまに、よりお得なカードとして利用していただくため、一定額以上のカードのご利用に対する特典や、サービスエリアにおける特別優待などを実施しました。また、ロードサービスを付帯するなど新サービスの充実を図りました。



ニューデザインの
プレミアムドライバーズカード

占用施設活用事業の実施

高速道路のスペースを有効活用した事業として、東名や中央道などの高架下で33か所の駐車場を営業しています。また、無人パーキングエリアなど35か所に地域貢献型自動販売機(平時は文字ニュースで情報発信、災害などの発生時には遠隔操作で飲料を無償提供)を設置しています。



高架下駐車場

新商品の開発

「資源の3R(リデュース、リユース、リサイクル)」推進の一環として、高速道路で使用された「横断幕」を使い、ゴルフ関連商品を開発しました。また、名古屋市内の専門学校と連携し、当社が提供した「横断幕」でトートバッグなどを製作し、学校の文化祭で販売のうえ、収益金を東日本大震災の義援金として寄付しました。



専門学校の生徒による作品

ゴルフ関連商品

新たなビジネスモデルの構築

グループ内で培った技術・ノウハウ・サービスを活用し、コンクリート構造物を中心に点検・補修など総合メンテナンス業の展開や、国や自治体などが管理する道路の運営管理業務を支援するなど、国内外の道路や他のインフラにも活用できる新たなビジネスモデルを構築します。



中日本高速技術マーケティング(株)が販売する「アルファテック380」は、コンクリートのひび割れなどの補修用接着剤です。塗布するだけで浸透するため、シーリングして注入圧をかける必要がありません。

地域社会とともに



地域に密着したサービスエリアづくり

サービスエリア周辺のより多くの地域の皆さまにサービスエリアをご利用いただけるよう、「ぶらっとパーク」の整備を進めるとともに、サービスエリアが地域交流や地域活性化の拠点となるよう地域に根ざした店舗や地域特産品の開発・販売などを進めています。

地域情報を積極的に発信する「DAN-GO ツーリストガイド」

高速道路初の情報スポット「DAN-GO ツーリストガイド」では、旬なイベント・観光情報を自治体と連携して提供することにより、その地域への立寄りを増やし、地域の活性化に貢献しています。



DAN-GO ツーリストガイド (EXPASA談合坂(下り))

地域の祭事のサテライト会場

サービスエリアを地域の祭事のサテライト会場として活用することによって、地域の祭事を知っていただく機会とともに、地域への関心を高めています。



万灯祭 (EXPASA多賀(下り))

「ぶらっとパーク」の整備

サービスエリアの周辺にお住まいの皆さまにより便利にご利用いただけるよう、駐車場の拡張や案内看板の新設など、ぶらっとパークの改良を実施しています。

新東名においては、NEOPASAでは60台規模、その他のパーキングエリアでも30台規模の駐車場を確保しています。



EXPASA談合坂(下り)



NEOPASA浜松(下り)

地産地消などの推進

地域との交流イベントとして、サービスエリアで販売している地域に根ざしたグルメメニューを市中で食べていただく「ハイウェイぐるめまちなかグランプリ」を名古屋市内で、「ハイウェイまちなかラーメンフェスタ」を東京都内で開催しました。

また、東名 富士川SAでは、「ふじのくに地産地消週間」にあわせて、優良生産者による直売「農匠マーケット」を開催するなど、地域との連携を深めながら、地産地消を推進しています。



農匠マーケット(富士川SA)



ハイウェイまちなかラーメンフェスタ



ハイウェイぐるめまちなかグランプリ

スマートICなどの整備

お客さまの利便性の向上、さらには地域間の連携の強化、地域生活や産業の活性化などを目的に、スマートICなどの整備を進めています。

スマートICの整備

スマートICは、現在14か所で運用しています(2012年4月14日に開通した2か所を含みます)。現在事業中の14か所について、地域との連携やコスト縮減を行いながら着実に整備します。

●スマートIC一覧(運用中)

運用開始年度	路線：スマートIC名称
2006	北陸道：①入善、②徳光 中央道：③双葉
2007	東名：④富士川、⑤遠州豊田 東名阪道：⑥龜山PA
2009	東海北陸道：⑦ひるがの高原 東海環状道：⑧鞍ヶ池 北陸道：⑨南条、⑩安宅、⑪流杉
2010	長野道：⑫梓川

●スマートIC一覧(事業中)

完成予定年度	路線：スマートIC名称(仮称のものを含みます)
2012	新東名：⑬静岡SA、⑭浜松SA (2012年4月14日開通) 東海環状道：⑮五斗峠
2013	新東名：⑯遠州森町 名神：⑰湖東三山
2014	中央道：⑱富士吉田北、⑲府中 東海北陸道：⑳南砺 北陸道：㉑高岡砺波
2015	東名：㉒大井川藤枝、㉓愛鷹 中央道：㉔笛吹
2016	北陸道：㉕小谷城 舞鶴若狭道：㉖敦賀南
2017	東名：㉗守山
2018	新名神：㉘鈴鹿PA



追加JCT、ICの完成

高速道路の利便性を向上するため、高規格幹線道路や地域高規格道路と接続する追加JCTや追加ICを整備します。

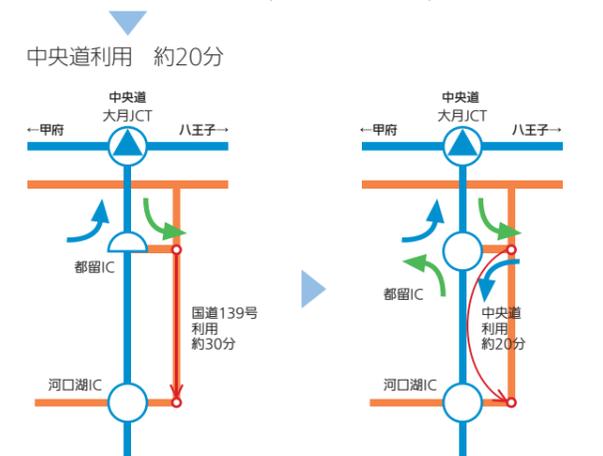
名称(仮称のものを含みます)	接続道路	整備予定年度
北陸道 白山IC ※2012年4月21日開通	県道松任宇ノ気線	2012
北陸道 福井北JCT	中部縦貫自動車道	2014

整備効果事例 中央道富士吉田線 都留ICフル化

都留ICにおいて、河口湖方面への出入口が追加されました。これにより都留市街地と富士吉田市街地間の所要時間が、大幅に短縮しました。また、都留市周辺の開発や魅力に富んだ回遊型観光地の形成に寄与しています。さらには、医療や防災などの緊急時や道路混雑時の代替路として地域の人々が安全かつ安心して暮らせるまちづくりを支援します。

【所要時間短縮】

都留市街地⇄富士吉田市街地(約15km)
国道139号利用 約30分(混雑時は約40分)



災害発生時における 迅速な復旧・救援対応

災害発生時の被害拡大を防ぎ、早期に道路交通を確保するために、グループ一体で防災体制を強化するとともに、国や自治体などと緊密な連携を図りながら、迅速な復旧・救援に向けた対応を行います。

異常降雨時の交通確保

異常降雨による災害が発生した場合は、安全確保のため交通規制を実施し、早急に応急復旧を行い、速やかに交通を確保します。

災害対応事例1

2011年7月20日に台風6号による大雨のため中央道 藤野PA(上り)付近で切土の法面が崩落しました。迅速に応急復旧工事を開始し、約16時間後には通行止めを解除しました。



法面崩落状況
中央道 藤野PA(上り)付近

災害対応事例2

2011年7月25日に異常降雨により東名阪道 四日市JCT(上り)付近で切土法面が崩落しました。迅速に応急復旧工事を開始し、約24時間後には通行止めを解除しました。



法面崩落状況
東名阪道 四日市JCT(上り)付近

冬の確実な交通確保

2011年度の雪による通行止めは173時間となり、2010年度の230時間と比べ、約2割減少しました。

雪による通行止めや交通規制を最小限に留めるために、道路に積もった雪を取り除く除雪作業、路面が凍結するのを防ぐための凍結防止剤散布作業などの雪氷対策を行い、冬の安全で確実な交通を確保します。

また、大雪が予想される時には、大雪により走行不能となった車両をを早期に救出するためにレッカー車両を事前に配備するなど、対策を強化しています。



除雪作業状況

また、ドライバーの皆さまにも冬用タイヤの装着や安全走行にご協力いただくために、広報活動による安全啓発を行うとともに、気象・道路状況に関する情報提供を行っています。



トラクターショベルによる
大型車の救出状況

被災地への支援

福島県相馬郡新地町への復興支援

福島県相馬郡新地町より、現地の復興支援の要請を受け、当社グループ一体となり、延べ約100名が、2011年9月5日から10月20日までの約1カ月半の間、浸水地域の町道などの沿道の草刈り、側溝の土砂やガレキの撤去などを行いました。



草刈りの状況

松本市への災害復旧支援

2011年6月23日の豪雨による土砂流出により、長野県松本市の県道上高地公園線が通行止めとなりました。

当社では、長野県の要請を受け、上高地地区に取り残された観光客の早期避難のため、県道に流出した土砂や流木の撤去作業を行いました。



災害復旧支援作業状況

三重県南牟婁郡紀宝町への給水支援

2011年9月に上陸した台風による異常降雨により、甚大な被害が発生した三重県からの要請を受け、三重県南牟婁郡紀宝町に、給水用の車両5台を9日間派遣し、給水支援を行いました。



紀宝町における給水支援状況

地方公共団体との協定締結

東日本大震災による津波被害を受け、太平洋沿岸の地方公共団体から東名の盛土区間を沿線住民の避難場所として活用する要請を受け、静岡県静岡市や焼津市と2011年11月に協定を締結しました。12月には津波避難の訓練も実施するなど、効果的な設備のあり方について協議調整を進めています。



高速道路法面への避難訓練状況

広域被害に備えた防災訓練の実施

広域かつ甚大な被害が予想される大規模災害に備え、「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」の参加機関として開通前の新東名を利用した総合的な防災訓練を実施しました。休憩施設のエリアを利用した防災ヘリコプターの離着陸訓練や衛星通信車による現地からの映像伝送訓練のほか、新東名及び国道23号において、災害対策車両が参集して道路啓開訓練などを実施しました。今後も、迅速かつ的確な応急活動の実施に向け、連携体制の確立や防災力の向上をめざし取り組んでいきます。



防災ヘリコプター離着陸訓練



衛星通信車を用いた映像伝送訓練状況

大学との連携

地域の拠点となる大学との連携を通じて、研究開発や人材育成に取り組んでいます。

橋梁点検技術の研さん・研究用施設「N²U-BRIDGE(ニュー・ブリッジ)」の設置と活用

建設後の経過年数が長い橋梁が増えており、適切な補修・補強を行うことにより、長寿命化を図っていく必要があります。そのためには、的確な点検・診断技術の確立と、それを行う技術者の育成が不可欠です。また、点検・診断技術の習得には、実際の橋梁に生じている現象をじかに観察し、学ぶことが有効です。

こうしたことから、名古屋大学との包括的連携推進協定に基づく事業の一環として、名古屋大学構内に「N²U-BRIDGE(ニュー・ブリッジ)」を設置しました。これは、日本各地の道路で使用され、更新に伴い撤去された橋梁を再利用した施設です。

この施設を活用して、主に以下の事業を行うことにより、大学や関係機関との連携を深め、研究開発や人材育成に貢献します。

- ・名古屋大学常設の公募型研修
- ・大学の授業、研究
- ・関係機関が主催する研修での利用



ニュー・ブリッジ全景



PC中空床版橋の断面



ロープアクセスによる点検実技

注)N²U-BRIDGE:
NEXCO-central and Nagoya University-Bridge model with Restoration and Integrated Deterioration for Global Engineers
(グローバルな技術者のために名古屋大学とNEXCO中日本が共同で復元した多様な劣化パターンを有するモデル橋)

地域・福祉への貢献

NEXCO中日本グループは、地域社会の一員として、地域の活性化や福祉に貢献する活動を地域の皆さまとともに進めています。

新東名沿線での農山村活性化の取組み

さらなる「地域連携の強化、地域社会・経済への貢献」を進めるため、2011年度より、「NEXCO中日本ならではの」新たなCSR活動として、新東名のサービスエリアの近隣地域3地区で農山村の課題解決のため、地域の方と当社グループ社員が協働で農村整備作業などを行う活動を開始しました。

2011年度は、3地区で合計9回の活動を行い、延べ約160名のグループ社員が参加しました。

休耕地での草刈作業や急な斜面での植栽作業、みかんの収穫作業など、農山村の課題解決に取り組みました。



みかんの収穫作業



植栽作業



葦原の草刈り

※活動の詳細な内容は当社ホームページで紹介しています。

<http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/>

地域清掃活動への取組み

金沢支社では、2011年5月、北陸自動車道(北陸道) 徳光PAに隣接する白山市徳光海岸で行われた清掃活動にグループ社員約110名が参加しました。

また、東京支社浜松保全・サービスセンターでは、2011年6月、1978年より継続して今年で33回目の参加となる浜名湖の清掃活動にグループ社員とサービスエリアのスタッフ約70名が参加し、東名 浜名湖SA周辺の浜名湖湖岸2kmのごみの回収を行いました。



徳光海岸の清掃作業



浜名湖湖岸の清掃作業

障がい者団体への就労支援の取組み

当社グループでは、地域や福祉への貢献として、障がい者団体の就労支援に積極的に取り組んでいます。

東京支社御殿場保全・サービスセンターでは、静岡県御殿場市の福祉団体と連携し、「CS向上ワッペン」の制作を委託しました。障がいをもつ皆さまに一生懸命作っていただいたワッペンを2011年8月の交通混雑期に当社グループ社員が着用し、CS向上をめざしました。

八王子支社甲府保全・サービスセンターでは、2011年6月、山梨県甲斐市の福祉団体と連携し、中央道 双葉SA内のハーブガーデンの除草作業を委託しました。

名古屋支社羽島保全・サービスセンターでは、2011年6月、岐阜県養老町の福祉団体と連携し、名神 養老SA内の花壇の除草作業を委託しました。



CS向上ワッペン



双葉SAの除草作業



養老SAの除草作業

教育への貢献

小・中学生、高校生など未来を支える子どもたちへ高速道路事業を通じて教育支援をしています。

高校生を対象に「ハイウェイスクール」

東京支社では、2011年5月、静岡県立科学技術高校の2年生約40名を対象に、高速道路の建設現場を活用した課外授業「ハイウェイスクール」を開催しました。高速道路の役割、環境への取組みなどの講義や新東名建設現場の見学を通じて、高速道路についての理解を深めてもらい、社会インフラ整備の大切さを学んでいただきました。



新東名建設現場の見学

地元高校生が職場見学

名古屋支社豊田保全・サービスセンターでは、2011年8月、愛知県立豊田西高校の1年生3名の職場見学を行いました。高速道路の保全・サービス事業に関心をもつ生徒の皆さんに、道路管制センターや防災対策室を見学していただき、当社グループ社員との意見交換を通じて、高速道路事業について理解を深めていただきました。



道路管制センターの見学

地域小学校の社会見学

2011年6月、敦賀市立咸新小学校の2年生約20名が金沢支社敦賀保全・サービスセンターに、社会見学にきました。防災対策室や道路パトロールカーなどを見学した児童からはたくさんの質問もいただきました。



防災対策室の見学

高速道路関連社会貢献事業の推進

当社は、高速道路関連社会貢献協議会と協力して、安全性や信頼性、サービス向上を図るため、高速道路の有効活用に関する支援事業を進めています。

2011年度の主な実施内容	支援などの実績(中日本)
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> SAなどにおける防災用救援物資の備蓄【大型発電機19か所】 【防災テント、LED照明、太陽光蓄電装置、簡易トイレ、マンホールトイレ、小型発電機19か所】 ・災害支援用井戸水の調査【金沢支社管内14休憩施設】
交通事故防止	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の高速道路利用の教育支援
救急救命	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクターヘリのヘリポート整備【名古屋支社管内のICなど22か所】 ・AEDの整備【全370か所(休憩施設など:170か所、料金所:200か所)に設置済み】
自然エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・風力発電設備の整備【北陸道 徳光PA】 ・太陽光発電設備の整備【東名 足柄SA、浜名湖SA、中央道 談合坂SA、双葉SA、北陸道 徳光PA】
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車対応の急速充電器の設置【東名などの休憩施設21か所】 ・BDFプラント設備工事【新東名 静岡SA】

ステークホルダーからの声 NEXCO中日本との協働活動を通じて

浮島地区環境保全推進会 会長 三橋 幸利 様

新東名が開通し、NEOPASA駿河湾沼津を訪れる多くの方が駿河湾の大海原と当浮島地区を望む絶景に心を癒されています。この度、静岡県の「一社一村しずおか運動」を通じて、NEXCO中日本とご縁があったことを大変うれしく思っています。2011年の秋から協働の活動がスタートしましたが、稲刈りに始まり、休耕地の草刈りや葦刈り、県道の清掃など、すでに多くの活動を行っています。NEXCO中日本の皆さんが、当初から地域に溶け込み、親身になって地域の者以上に作業に没頭する姿に、当会のメンバーからも「一緒に活動を始めて本当に良かった」という声が出ています。これからの課題は、「浮島地区の地域づくりの方向性」を示すことです。高速道路という国の動脈づくりに携わる方々との活動を通じて、大きなエネルギーや地域づくりのヒントをもらっています。今後もより美しい浮島をめざし、NEXCO中日本と活動を続けていきたいと思います。



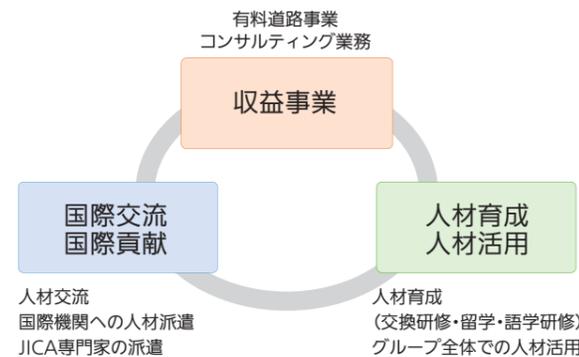
国際社会との関わり

海外への展開

NEXCO中日本グループがこれまで蓄積した高速道路に関するさまざまなノウハウ・技術力を、国内だけでなく、海外にも展開していきたいと考えています。海外道路事業者との情報ネットワークの強化や積極的な国際貢献を行うとともに、グループ全体の人材を活用し、アジア地域を中心とした海外の道路事業へ参画していきます。

NEXCO中日本の海外事業展開方針

3つの要素を柱として海外事業を展開しています。



収益事業

ベトナムで有料道路事業を実施すべく、現地パートナーと協議を進めています。

また、コンサルティング業務は、2011年度にベトナムでの案件を5件受注しました。今後も、当社グループのもつマネジメント能力や技術力を活かし、有料道路事業への参画やコンサルティング業務を進めていきます。



ベトナム カントリー橋技術移転アドバイザー業務

国際交流・国際貢献

海外道路事業者との関係強化を図るとともに、情報収集や相互の人的交流を深めています。国際会議・セミナーなどへの参加やJICAなどを通じた各国からの研修や視察を受け入れることにより情報発信を行っています。また、当社社員を高速道路専門家として各国に派遣することで、国際社会に貢献しています。

ベトナムとの交流

2008年12月に、当社初の海外拠点となるベトナム事務所を開設しました。現地事務所では情報の収集や現地機関との関係強化に努めています。

2012年1月には当社グループ社員が現地におもむき、高速道路運営会社を対象に高速道路の維持管理セミナーを実施しました。また、同年3月には交通運輸省副大臣が来日し、当社との意見交換や新東名の視察を実施するなど、幅広い交流に努めています。



ベトナムでの高速道路の維持管理セミナー

マレーシアとの交流

2009年2月に、マレーシアの高速道路事業者であるPLUS社と交換研修や情報交換などを目的とした覚書を締結し、これに基づいて2009年と2010年に交換研修を実施しました。

2011年7月には、将来の共同事業を視野に入れた新たな覚書を締結し、共同事業の準備に向けたワークショップを開催するなど、両社の結びつきを一層強くしています。



PLUS社との覚書締結式

各種国際会議への参加

2011年度は計10回の国際会議に社員が出席し、論文の発表やブース展示などにより、当社のPRを行いました。

今後も国際会議への積極的な参加を通じて、各国の道路事業者との交流や情報収集に努めていきます。

● 主な国際会議への出席(2011年度)

会議名	開催国	時期	テーマ
IBTTA	ドイツ	2011年9月	世界の有料道路事業者間の情報交換
PIARC	メキシコ	2011年9月	道路技術全般に関するディスカッション
ITS世界大会	アメリカ	2011年10月	高度道路交通システムに関するディスカッション



メキシコPIARCポスターセッションで説明する当社社員

各国からの研修・視察の受入れ

2011年度は24カ国の方々当社の建設や維持管理の現場、サービスエリアなどの視察に訪れました。

● 主な視察受入れ(2011年度)

相手方	時期	視察内容
ベトナム交通運輸省	2011年6月	新東名建設現場 ほか
フランス国土整備省 ほか	2011年11月	東名、サービスエリア
エチオピア道路公社 ほか	2011年12月	桑名保全・サービスセンター管内



ベトナム交通運輸省



エチオピア道路公社

途上国への専門家派遣

高速道路の整備が遅れている発展途上国に社員を派遣し、計画、設計、施工、維持管理などについて専門的なアドバイスを行っています。

2011年度は計9名の社員がそれぞれの国で活躍しました。

対象国	期間	派遣先
スリランカ(1名)	2008年5月～2011年5月(3年)	道路開発庁
ベトナム(1名)	2010年5月～2012年5月(2年)	交通運輸省
エチオピア(1名)	2010年3月～2013年2月(3年)	大使館
キルギス(1名)	2011年5月～2013年5月(2年)	運輸通信省
スリランカ(2名)	2011年12月(約1カ月)	道路開発庁
ベトナム(2名)	2012年1月(約1週間)	交通運輸省
スリランカ(1名)	2012年2月(約1カ月)	道路開発庁



スリランカ道路開発庁で交通管理について説明する当社社員

人材育成・人材活用

海外事業で活躍する人材を育てるため、海外の道路機関との交換研修、留学、語学研修、セミナー、社内TOEICテストなど、語学力の向上とグローバルな視点をもった社員の育成に努めています。



社内でのTOEICセミナー

社員の声 キルギスの道路行政支援

関連事業本部 海外事業チーム 大橋 岳
(JICA専門家としてキルギスに駐在)

JICA長期専門家として、キルギス共和国運輸通信省に勤務しています。キルギスには、約34,000 kmの道路がありますが、1991年のソ連からの独立以降、適切な道路維持管理が行われていません。現在は、道路行政アドバイザーとして、キルギスの道路技術者と協力しながら道路開発戦略の策定や日本に支援を要請するプロジェクトの形成などに取り組んでいます。



国民(株主)の皆さまとともに



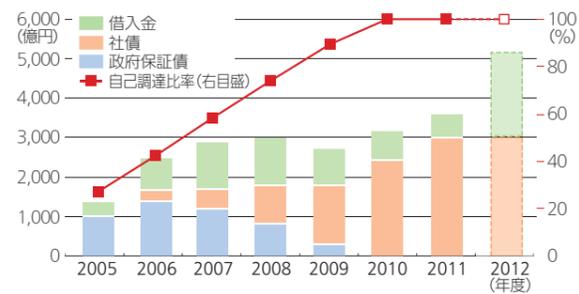
資金調達とIR活動

NEXCO中日本グループでは、投資家・金融機関の皆さまとの「ONE on ONEミーティング」や建設現場見学会などの積極的なIR活動を通じ、事業活動への理解を深めていただき、長期的・安定的な関係を築いていくことにより、柔軟な資金調達を行っています。

低利で安定的な調達

政府保証債の発行は、2009年度を最終としており、2010年度以降は必要資金の全額を自己調達により確保しています。2012年度以降もマーケット動向を注視しながら、社債を主軸とした低利で安定的な資金調達を行います。

● 資金調達額と自己調達比率の推移



情報開示

「金融商品取引法」などの各種法令・規則に沿って作成する有価証券報告書などはもとより、投資判断に重要な企業情報を積極的かつ公正に開示しています。また「IR情報」サイトを開設し、タイムリーで充実した情報を発信しています。

WEB IR情報 <http://www.c-nexco.co.jp/corporate/ir/>

社債の格付け取得

当社への投資にあたっての客観的な評価の拡充のため、以下のとおり格付けを取得しています。なお、いずれも日本国債と同じ高い格付けとなっています。

● 格付投資情報センター(R&I)/長期個別債務格付け 2006年12月20日取得

AAA	AA	A	BBB	BB	B	CCC	CC	D
+	-	+	-	+	-	+	-	+

● ムーティーズ・ジャパン(Moody's)/発行体格付け 2008年4月23日取得

Aaa	Aa	A	Baa	Ba	B	Caa	Ca	D
1	2	3	1	2	3	1	2	3

高 ← 信用力 → 低

健全な高速道路事業の運営

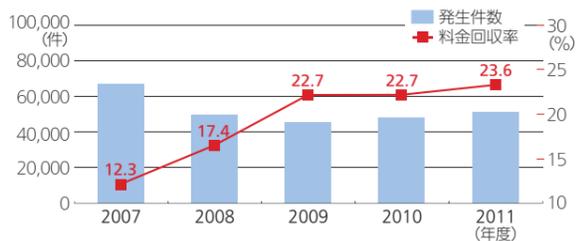
お客さまに、公平に通行料金をご負担いただくため、「不正通行は許さない」との強い姿勢で、グループ一体となり、不正通行車両対策の強化に取り組んでいます。また、事故などにより必要となった復旧工事などの費用については、原因者(その原因を生じさせた者)に負担を求めることで、お客さまにご負担いただく通行料金の適正化を図っています。

高性能カメラ、開閉バーの設置

料金所に高性能カメラや開閉バーを設置し、未課金車両を確実に捕捉し対応することにより、不正通行車両の特定や抑止に努めています。

2011年度は、未課金車両のうち、約13,000件について適正料金を回収しました。このほか、通行料金の支払いに際していただけない場合は、支払請求訴訟も実施しています。警察機関とも連携して、不正通行ゼロをめざし、引き続き対策を行います。

● 未課金通行発生件数と適正料金回収率の推移



原因者負担金の回収

原因者負担金制度とは、事故などにより追加が必要となった道路に関する工事(復旧工事や清掃など)に要した費用を、原因者(その原因を生じさせた者)に負担してもらうことをいい、道路法に規定されています。

維持管理費の増加分を公平にご負担いただくため、確実な原因者負担金の回収に努めており、約97%という高い回収率を維持しています。

● 原因者負担金回収率の推移



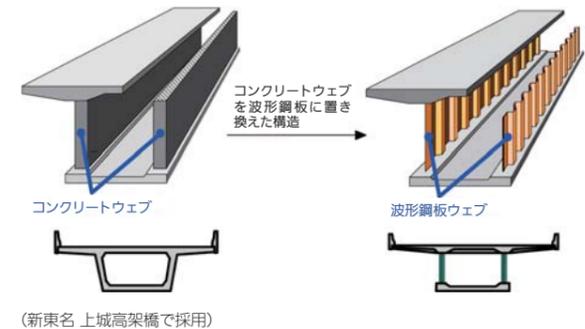
コスト削減とインセンティブ助成金

事業の実施にあたっては、ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)の活用による新技術・新工法の積極的な採用、資機材調達の工夫などにより不断のコスト削減を進めています。

これらの成果に基づき、事業の実施段階に応じたインセンティブ助成金の交付申請を行っています。

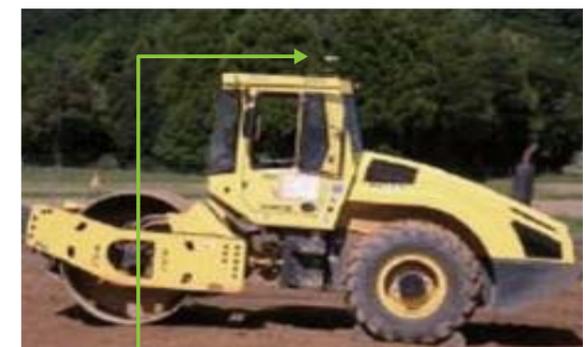
コスト削減の事例

PC箱桁断面のうち、ウェブ部分に軽量の「波型鋼板」を用いることで、主桁の重量を低減し、コスト削減を図りました。



ICTの事例

新東名及び舞鶴若狭自動車道の土工工事においては、ICTを活用した効率的な現場施工として、GPSと加速度計搭載振動ローラーによる盛土の締め管理を行っています。これにより精度の高い施工や品質向上につなげています。



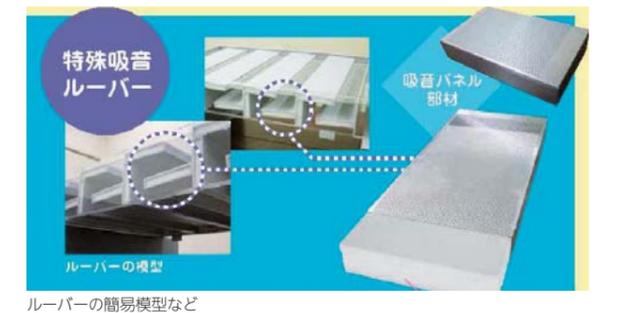
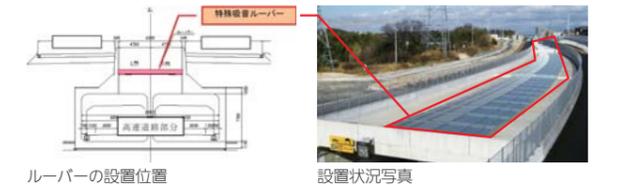
インセンティブ助成金

当社の経営努力により高速道路の新設、改築又は修繕に関する工事に要する費用を削減した場合、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対してインセンティブ助成金(削減額の一定額)の交付を申請することができます。

交付された助成金を活用してさらなる合理化・効率化に取り組むとともに、社会貢献活動などを通じて地域の皆さまにお客さまに還元しています。

事例 インセンティブ助成申請

2010年度に開通した名二環(名古屋南JCT~高針JCT)の掘削構造区間の環境対策として、模型実験・性能確認試験を経て、新型の特殊吸音ルーバーを開発し、建設コストの削減を図り、現在インセンティブ助成金の交付を申請中です。



技術・ノウハウの活用

NEXCO中日本グループがこれまで蓄積した高速道路の建設、管理に関する技術・ノウハウを活用し、コンサルティング業務を行います。

新直轄事業への参加

高速道路ネットワークの円滑かつ効率的な構築のため、新直轄区間において工事監理などの技術的支援に積極的に参画しています。

・中部横断自動車道 富沢~六郷(28km)

取引先の皆さまとともに

調達活動を通じたCSRの実践の推進

お取引先の皆さまに私たちのCSR活動へのご理解とご協力をいただき、よきビジネスパートナーとして、お取引先の皆さまと一緒に事業活動を展開するため「NEXCO中日本グループ お取引先CSR推進ガイドライン」(2012年1月4日公表)を定めました。自らはもとより、お取引先に対する啓発に努め、地域・社会の持続的な発展のために企業としての社会的責任を果たしてまいります。

お取引先に対する啓発活動

お取引先の皆さまに対して、当社グループのCSRの考え方や「NEXCO中日本グループ お取引先CSR推進ガイドライン」の内容をご説明させていただき、ご理解を得るとともに、各社での自主的な取り組みをお願いすることを目的として下記のとおり東京・名古屋・金沢の3会場で開催しました。当社グループのお取引先企業から約550名の方々にご参加いただきました。今後も、お取引先にSAQ(自己診断)をお願いするなど啓発に努めます。

会場名	開催日時	参加者数
名古屋会場	2012年3月13日(火)	約200名
東京会場	2012年3月16日(金)	約300名
金沢会場	2012年3月30日(金)	約50名

私たちの調達活動

NEXCO中日本グループは、公正・透明な手続きのもと、「より安全なものより確実に、より良いものをより安く」を基本とし、「調達の基本方針」として以下の5つの方針を定め、調達を実施しています。

公正な取引の推進

公正かつオープンな取引を推進し、お取引先の選定は、品質、経済性、納期の確実性、技術的能力などを勘案して行っています。

法令・社会規範の遵守

法令に則った調達活動

「独占禁止法」「建設業法」「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」「WTO政府調達協定」など、調達に関

する法令を厳格に遵守しています。

入札監視委員会の設置

入札及び契約の適正化を確保するため、外部有識者によって構成される「入札監視委員会」を設置し、入札及び契約手続きについて審議をいただき、意見の具申又は勧告が行われた場合には、是正を図ることとしています。

入札・契約情報の積極的な開示

契約手続きの透明性を確保するため、工事の年間発注見通しや入札結果などを積極的に情報開示しています。

 <http://www.c-nexco.co.jp/corporate/contract/>

環境への配慮

グリーン購入法に基づく物品調達に加え、工事発注においては、環境負荷低減(CO₂排出抑制、騒音防止、振動防止など)の実施計画やISO14001の取得状況を評価項目とする「総合評価方式」を実施しています。

お取引先との信頼関係

お取引先の皆さまとは、公正かつ誠実な取引を通じて、より確かな信頼関係を築き、「NEXCO中日本グループ お取引先CSR推進ガイドライン」に基づき、協働して社会の発展に貢献しています。

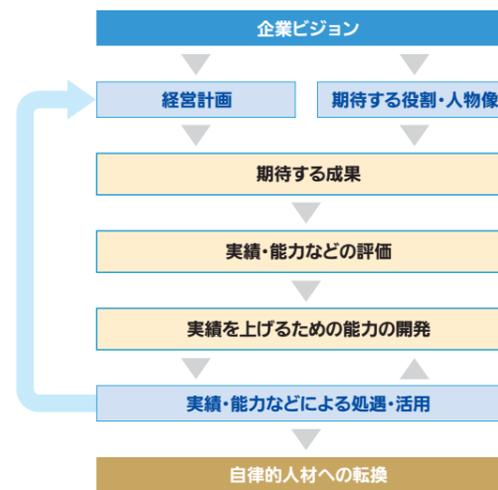
「NEXCO中日本グループ お取引先CSR推進ガイドライン」 ～一部抜粋版～

1. 法令・社会規範の遵守
国内外を問わず、事業活動をおこなっている各国・地域すべての関連法規・基準、ならびに社会規範を遵守します。
2. 公正な取引
公正・透明な手続きのもと、誠実かつ公正でオープンな取引をおこないます。
3. 人権・労働
従業員の基本的な人権を尊重し、適切な労働条件の確保を図ります。
4. 安全・衛生
安全で快適な職場環境の確保に努めます。
5. 環境
「地球温暖化の抑制」、「資源3R推進」、「地域環境への配慮」に取組み、環境に与える負荷低減を継続的に図ります。
6. 品質の確保
お客さまにご満足いただけるよう、製品・サービスの品質の確保を図ります。
7. 情報公開
ステークホルダーに対して、適時・適切に情報提供・開示をおこないます。
8. 情報セキュリティ
業務に関連して取り扱う機密情報の管理はもとより、個人情報、顧客情報の保護に十分配慮しつつ、情報セキュリティの確保に努めます。
9. 社会貢献
地域・社会の発展に貢献できる活動を自主的に図ります。
10. 危機対応
災害・事故等の緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応をすることにより、企業活動の継続性を確保します。

社員とともに

人事制度

当社の人事制度は、「企業ビジョン」をもとに、社員に期待する役割や成果を明確にするとともに、目標の達成度や行動、能力などを公正に評価することで、社員がモチベーションを高め、成長し続けるための変革への強い意志をもち、主体的にキャリア形成に挑戦することを目的としています。



ダイバーシティ・マネジメント

多様な人材を活かす企業経営をめざし、女性や障がい者などがいきいきと働ける職場環境づくりを進めています。

多様な人材の確保

長期的な経営環境に配慮しつつ、リーダーシップを備えた多様な人材の獲得に努めており、2012年4月には、新卒で36名を採用しました。日本国内の高速道路事業に加えて、海外事業や今後の新たな事業領域の拡大・成長を支えるグローバル人材として、外国人留学生も採用しています。



2012年4月の入社式

女性社員の積極的な採用

全社員のうち、女性社員は約1割ですが、2012年4月の新卒採用36名の内、女性社員は約4割の13名となっており、引き続き女性社員の採用に積極的に取り組めます。

女性社員の活躍の支援

女性社員の大部分を占める地域限定職から、基幹職・ブロック基幹職へのコース転換制度を設けており、2012年4月には10名が転換しました。

女性社員間の情報交換の活性化、異業種交流の機会の提供、上司向け講演会の開催など、女性社員の活躍を支援する取り組みを行っています。

女性・若手社員の「視点」を活かした事業

女性・若手社員による自由に活発な発想をもとに、「女性」や「若手」の視点をさまざまな事業で取り入れています。

女性が本当に欲しいものは何かを追求した新商品として、高速道路の新しい食のスタイルを提案する「Pecoliano Deli(ペコリアーノ・デリ)」というワンハンドフードシリーズを企画・開発しました。

商業施設のリニューアルでは、女性トイレやキッズコーナー、ドッグランなどを女性ならではの視点で、より女性がいやすい快適な空間としてプロデュースしています。

また、当社公式



ペコリアーノ・デリ

公式ブログ

ブログ「NEX子中日本 HAPPY☆ドライブ」では、女性社員が自らの体験を通して、新東名の開通情報やサービスエリア情報を発信しています。

障がい者雇用の拡大

障がい者の自立を支援するため、積極的に障がい者の採用を進めています。

当社個別では、法定雇用率(1.8%)を達成しており、2013年度までにグループ全体で法定雇用率の達成をめざします。

社屋のバリアフリー化など、障がい者が働きやすい職場環境づくりにも積極的に取り組んでいます。

人材育成の充実

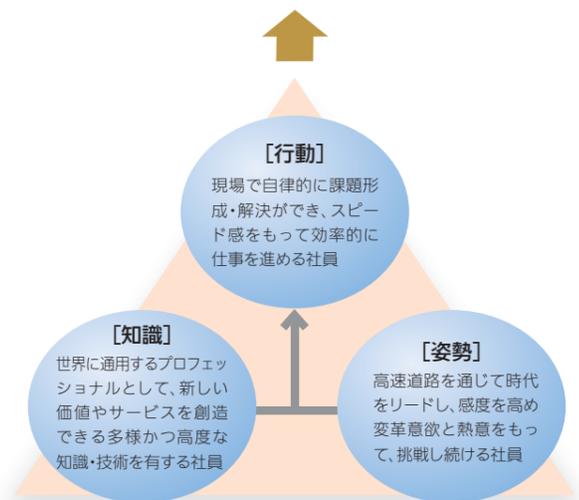
“社員は会社にとって、最大の『財(たから)』である”との考えのもと、当社の求める社員像に基づき、リーダーシップを発揮することで、環境変化への感度が高く、自律性を発揮できる「強い現場力をもった社員」を育成します。OJTを基本に、階層別・専門研修などの集合研修や自己啓発などのOFF-JTと連携し、社員がめざすべきキャリアの実現を支援しています。

また、海外機関や他企業への派遣研修、博士号取得補助、資格取得補助など、社員の能力や専門性をより高めるための支援を拡充しています。

● NEXCO中日本の求める社員像

道を通じて感動を 人へ、世界へ

私たちはお客さまに私たちのサービスを通じて、感動を得ていただけるように常に努めています。この感動を、より幅広くさまざまな人へ、さまざまな国へ広げていきます。そして未来につないでいきます。



人材開発センター(所在地:川崎市宮前区)を積極的に活用することで、社員の育成のみならず、グループ一体感の醸成やグループ総合力の向上などを図ります。



人材開発センターでの研修

社員自らがめざすべきキャリアを実現するため、節目ごとに、研修を通じて、キャリアデザインの啓発と開発を行っています。また、キャリア開発の支援として、キャリアカウンセリングやコーチングの専門知識を有した社員による相談体制を構築しています。

ワークライフバランスの促進

仕事と家庭の調和、社員一人ひとりのライフステージに応じた時間の充実と、次世代育成支援のため、さまざまな取り組みを行っています。

ワークライフバランスと職場コミュニケーションの促進

仕事と家庭の両立を推進し、次世代の育成を支援するため、時間外労働の削減や休暇取得の促進に取り組んでいます。なお、2011年度の育児休業取得者は28名となっており、そのうち男性は8名でした。

■ 「くるみん」の取得

男性社員の育児休業や年休取得促進などを定めた「次世代育成支援行動計画(2008年6月策定)」を達成し、くるみんマークを取得しています。(2010年7月:愛知県労働局認定)



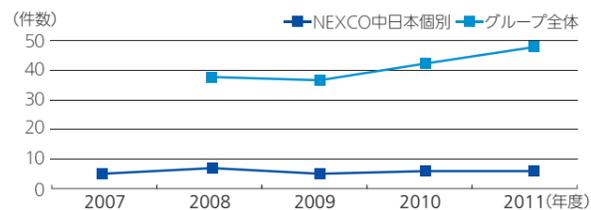
■ 職場懇談会の実施

社員の勤労意欲の向上や職場活性化のため、すべての職場で職場懇談会を実施しました。

労働災害ゼロをめざして

労働災害ゼロをめざして、安全衛生に関する委員会を定期的に開催し、職場環境の安全確認や労働災害の分析を行い、その結果を安全対策に反映しています。

● 労働災害事故件数



健全な労使関係の深化

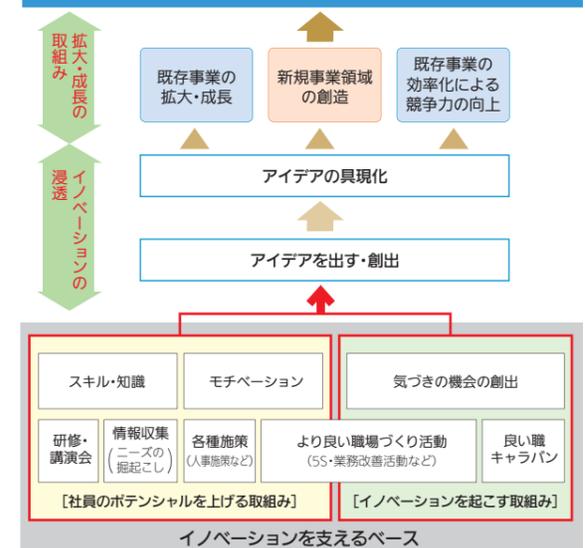
経営環境が大きく変化中、雇用の安定を第一に、労使相互の信頼関係の維持に努めています。

職場のコミュニケーションと社員相互の信頼関係が健全な労使関係の基本と考え、意見交換を行うため、労働組合と定期的に「労使懇談会」を開催(2011年度は3回)し、相互理解を深めています。

イノベーションの推進

企業が拡大・成長していくためには、社会情勢の変化に的確に対応し、企業として変化・変革していくことが必要であり、イノベーションをさらに加速させることが不可欠であると考えています。NEXCO中日本グループのさらなる飛躍のため、社員一人ひとりからのイノベーションを推進しています。

『拡大・成長』の実現



企業ビジョンキャラバン

「拡大・成長」の実現に向け、イノベーションのさらなる加速が必要であることを全グループ社員が真に共有するため、役員が各職場で行う企業ビジョンキャラバンを春秋にそれぞれ78回実施しました。

イノベーション・ポスト

社員が気軽に提案できる創意工夫制度として、2010年10月に「イノベーション・ポスト」を創設しました。2011年度の提案件数は、目標1,000件を大きく上回る2,123件となり、ポストでの提案をきっかけに具現化したものが16件ありました。

2012年度以降も提案件数のさらなる増加をめざすとともに、社員アイデアの具現化に取り組みます。

具現化した主な事例

- ・車両管理業務を一括して行う会社の設立
- ・iPadを利用したコンシェルジュサービス
- ・ドライブルートコンパス(料金ルート検索)の表示改善
- ・過去記事閲覧のため社内報・グループ報を電子掲示板に掲載
- ・印紙の貼付もれ防止対策



iPadを利用したコンシェルジュサービス

イノベーションタイムの導入

イノベーションの価値を高め、自由闊達で横断的なコミュニケーションを活発にし、新たなアイデアを提案する「イノベーションタイム」を2011年度から導入しました。

各職場で、毎月「イノベーションタイム」の時間を設け、延べ18,000名(2011年度)が参加しました。

また、議論を活発にする推進役となる人材を育成すべく、ファシリテーター研修を実施しており、今後も継続して、ファシリテーターの育成をしていきます。



イノベーションタイム(オフサイトミーティング)風景

イノベーション・フォーラム

当社グループでは、日頃の業務成果を共有し、今後の改善につなげていくために、「業務研究発表会」を開催しています。2011年度は、業務成果をイノベーションに直結させることを目的に、「イノベーション・フォーラム」と改名し開催しました。

2011年9月5～6日に予選会を勝ち抜いた論文を対象にした「業務研究発表会」、他企業10社の方々を交えた「異業種オフサイトミーティング」、CS・技術の向上をテーマとした講演会などを開催しました。

2012年度も、イノベーション活動の情報共有の場として「参加型のイノベーション・フォーラム」を開催する予定です。



異業種オフサイトミーティング風景

社員の声 NEXCO中日本グループ社員の日頃の業務におけるCSRへの取り組み

中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋(株)
彦根事業所

苗田 弘子



お客さまからの「ご苦労さま」「ありがとうございます」「体に気をつけてがんばってください」といただくお心づかいに、「ありがとうございます。お気をつけて行ってらっしゃいませ。」と答えています。私の仕事は、きれいがあたりまえのトイレ、休憩施設の清掃作業と、お客さまと直接接するエリアキャストを担当しています。お客さまに気持ちよく使っていただきたい、次も私たちのサービスエリアで休んでいただきたいと思いを込めて、お客さまの励ましの言葉と、一緒に働いているメンバーと、周りの関係者の力を借り、安心して快適に過ごせるエリアをめざし日々がんばっています。

中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
飯田道路事務所 土木管理課長

勝野 正史



私たちエンジニアは、高速道路の道路保全・点検業務を実施しています。安全で安心な高速道路を維持していくためには、確実な点検、適切な補修計画及び施工が必要となります。私たちは常に路面や構造物の状態に目を配り、損傷状況を把握し、補修・補強などの対策方法を提案しています。今後も、お客さまが安全で安心してご利用いただける高速道路空間の提供と、快適な走行の実現に向けて、日々高速道路の保全管理業務を進めています。

中日本エクシス(株)名古屋支店
EXPASA多賀オフィス 総支配人
(兼)羽島・彦根地区 マネージャー

立山 秀康



エリアで働くマネージャーとして心掛けていることは、まず私たち自身が現場で働くスタッフに対して「笑顔で挨拶」ということです。お客さまの状況や店内外の環境を確認しながら、店頭にいるスタッフの方々に明るい笑顔で「おはようございます」「お疲れさまです」と挨拶することで、スタッフの方々はお客さまに「お招き」と「おもてなし」の心に笑顔を添えた接客を実践し続けてくれると信じています。また、EXPASA多賀では地域交流の取組みとして「フリーマーケット」を昨年から月1回の頻度で開催しており、今ではそれを目当てに地元のお客さまがエリアにお越しいただけるイベントのひとつになっています。今後も、サービスエリアを地域の拠点として交流を促進していきたいと考えています。

中日本ハイウェイ・パトロール東京(株)
新東名富士基地 主任

西川 清人



2012年4月14日、待ちに待った新東名が開通しました。私は開通当日の通り初め先頭役と初の巡回を担当。沿道から多くの方々の手を振る姿や、NEOPASAがあっという間に満車になるなど、「新東名」に対する期待の大きさが感じられ、身が引き締まりました。私は日頃から、必ず大きな声と笑顔で挨拶するよう心掛けています。最初の挨拶で相手の方への印象を大きく変えたいと感じているからです。世界一の高速道路会社をめざし、今まで以上に気持ちのよい挨拶で、すべての人に好印象を与え、不安を取り除き、信頼される交通管理隊をめざしていきます。私たちが、新東名、東名の安全を守ります。

NEXCO中日本サービス(株)
NEXCO中日本お客さまセンター

服部 邦加



私たちオペレーターは、お客さまのお顔は拝見できませんが、お客さまからの電話や電子メールに対応する、お客さまと接する最前線にいます。私たちは、どのオペレーターが対応しても、迅速に、そして正確に情報を提供し、お客さまに満足していただき、感動を与えることができるよう日々頑張っています。私たちは、NEXCO中日本グループの一員として、これからも「お客さまを第一にする」という基本姿勢のもと、さらなるお客さまサービスの向上に努めていきたいと考えています。

中日本エクストール名古屋(株)
亀山料金所 副所長

岸田 美穂



お客さまを大切にする基本姿勢である「お招き」と「おもてなし」の心をもって、お客さまに接することができるように、料金収受技能コンテスト(マイスター)やサービス接遇実務検定資格を積極的に取得し、正確かつ丁寧な収受はもちろんのこと、ETCトラブルや道案内などで不安を感じられているお客さまに安心してご利用いただけるよう、日々笑顔でお客さま対応を行えるように心掛けています。また、2012年2月より副所長という大役を務めさせていただき、チーフやサービススタッフの意見を十分取り入れながら、料金所長とともに明るくチームワークの良い元気な料金所をめざして奮闘中です。これからもお客さまからより一層の信頼と好感をいただけるよう努力していきます。

目次

環境方針 P49

環境活動

地球温暖化の抑制 P50

資源の3Rの推進 P55

地域環境への配慮 P57

環境技術 P61

環境マネジメント P63

環境会計 P65

 http://www.c-nexco.co.jp/corporate/csr/environmental_report/

環境報告

私たちは、事業活動による環境への影響や道路利用によるCO₂排出の負荷を常に念頭に置き、地球環境との共生に取り組んでいます。日本の基幹交通を担う高速道路の建設・管理などを通して、美しい地球と地域を未来に残すために、これからも社員一丸となって、環境活動の充実に努めます。

紅葉に染まる安房峠道路

環境方針

— 環境方針と推進体制 —

環境方針

中日本高速道路株式会社は、常に変革と向上を求め、安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を創出し、地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長に貢献します。

当社の事業は、多くの方々のご協力とお客さまにご利用をいただき、広く環境と関わりを持っています。このため、当社の事業活動を通じて地球温暖化の抑制や、資源の3R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用)・リサイクル(再生利用))の推進、地域環境への配慮に取り組めます。

これらの実現のため、環境マネジメントシステムを構築し、環境の目的・目標を明らかにし、環境法令及び当社が約束した事項の遵守ならびに環境影響の予防に努め、継続的な改善に取り組めます。環境マネジメントシステムの運用に当たり、その基準、手順等を定めて文書化し、定期的に見直します。

当社は、世界一の高速道路会社をめざして、環境に関わる活動や技術開発に挑戦し、次に掲げる経営上の重点施策等を実施しています。

<環境に関わる経営上の重点施策>

●地球温暖化の抑制

高速道路ネットワークの整備や渋滞緩和、省エネルギーなどの取組みにより、地球温暖化の抑制に貢献します。

●資源の3R推進

廃棄物の発生を抑制し、事業活動により発生した副産物の有効活用に努めます。また、「百年道路(健全な状態で百年以上維持し、後世に優良な資産として継承する高速道路)」計画の実施などにより環境負荷を低減します。

●地域環境への配慮

地域環境への貢献や動植物の生息・生育環境への負荷を低減する「エコロード(自然環境に配慮した道)」づくりを推進します。

この環境方針は、全ての従業員に周知するとともに公開します。

2011年4月28日
中日本高速道路株式会社
代表取締役会長 兼 社長CEO 金子 剛一

CO₂の排出削減の環境目標

NEXCO中日本グループでは、長期的なビジョンに立ち、温室効果ガス削減など、世界的な環境負荷低減に向けた動向を踏まえながら、政府目標を考慮して、CO₂排出削減の目標を設定し、施策を着実に実行します。

中・長期目標

世界レベルで温室効果ガス削減に関する議論がなされています。

NEXCO中日本グループは、「環境・持続可能社会への貢献」をCSR重点領域の一つとして掲げ、高速道路ネットワークの整備や「百年道路」計画の推進、資源の3Rなどのあらゆる事業活動を通じて環境負荷を低減し、政府の環境目標達成へ積極的に貢献します。

※地球温暖化対策基本法案
・2010年10月8日閣議決定
・温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など)の中・長期的な目標。
→2020年までに、1990年比排出量に25%の割合を乗じて計算した量を削減。
→2050年までに、1990年比排出量に80%の割合を乗じて計算した量を削減。

短期目標

2012年度の短期目標を以下のとおり設定しています。設定にあたっては、現状値を適切に把握するとともに、経営計画で示されたCO₂削減のための施策による効果を考慮しています。

指標	単位	2011年度目標	2011年度実績	2012年度目標
CO ₂ 排出量 (オフィス活動)	t-CO ₂	8,360	7,112	7,041
CO ₂ 排出量 (保・サ事業、関連事業及び走行車両)	t-CO ₂ /km	5,241	5,240	5,275

※環境省が公表した2010年度の排出係数で算出しています。

環境活動推進体制

当社では、環境方針の趣旨に従い、CSR戦略会議(経営会議)において、環境活動推進のための計画・施策の審議を行います。具体的な施策の検討や企画・実施計画の立案は、CSR推進委員会で行っています。また、より実務的な議論を行う場として、CSR・環境部会を設置しています。



環境活動

— 地球温暖化の抑制① —

地球温暖化抑制の取組み

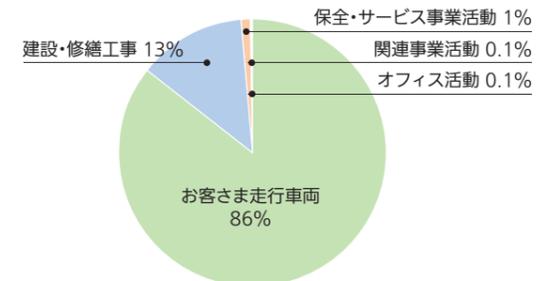
NEXCO中日本では、高速道路ネットワークの整備や「百年道路」計画の推進、資源の3Rなどを通じて、地球温暖化の抑制に取り組んでいます。

高速道路事業に係るCO₂の排出量

当社の事業活動により排出されるCO₂は、2011年度の集計では約1,060万t-CO₂となりました。

その構成は、高速道路をご利用いただくお客さまの車両から排出されるものが約86%、高速道路の建設・修繕工事によるものが約13%、保全・サービス事業活動と関連事業活動・オフィス活動によるものが残り約1%となりました。

●要因別CO₂排出量の割合(2011年度)



取組み項目

CO₂排出削減の短期目標を達成するため、2011年度は以下の項目について取組みを実施しました。

- ・高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制
- ・ETCの普及、利用促進
- ・高速道路法面の樹林化
- ・省エネルギーへの取組み
- ・再生可能エネルギーの活用
- ・「エコ・エリア」の推進



エコーエリアの推進(EXPASA海老名)

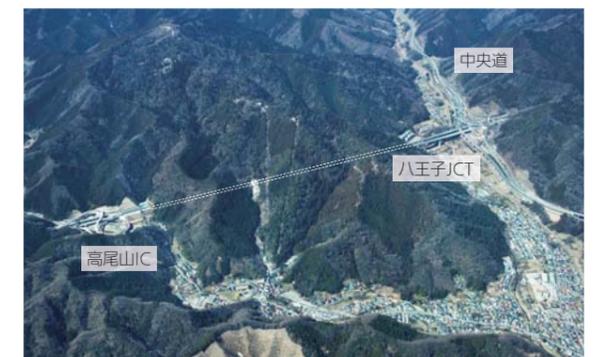
高速道路ネットワークの整備

NEXCO中日本では、大都市圏の通過交通や都市内の交通集中などに起因して発生する交通渋滞の緩和・解消をめざして、高速道路ネットワークの早期整備を進めています。この整備により、渋滞の少ない道路空間を確保し、一般道から高速道路利用へと交通の転換を図ります。

高速道路ネットワークの整備による環境負荷物質の排出抑制

交通渋滞の発生は、走行の定時性が損なわれることによる経済的損失に加え、走行速度の低下や停止・発進を繰り返すことにより、自動車から排出される環境負荷物質(二酸化炭素(CO₂)や窒素酸化物(NOx)・浮遊粒子状物質(SPM)など)の排出増加につながります。

高速道路ネットワークの早期整備、ボトルネック箇所の改良、ETCの利用促進などを行うことにより、高速道路の利用を拡大し、円滑な走行を確保することで、自動車からの環境負荷物質の排出抑制に取り組んでいます。



新規に開通した圏央道 高尾山IC~八王子JCT



名古屋高速につながる伊勢湾岸道の東海JCT

2016年度までの整備計画

2012年度～2016年度までの5年間で322kmの高速道路ネットワークの整備を計画しています。

2011年度は首都圏中央連絡道路(圏央道) 高尾山IC～八王子JCTの約2kmが開通しました。開通により、鶴ヶ島JCTから高尾山ICまでの間で15分程度の時間が短縮され、周辺を並行する国道16号・国道129号などの混雑が緩和されます。

また、伊勢湾岸自動車道 東海JCT、中央自動車道(中央道) 都留IC(フル化)を新たに整備し、交通環境を向上しました。

2012年4月14日に開通を迎えた新東名高速道路(新東名)では、東京～名古屋間の走行距離を10km短縮することができ、さらにダブルネットワークにより東名高速道路(東名)の渋滞が緩和されます。



つながる新東名

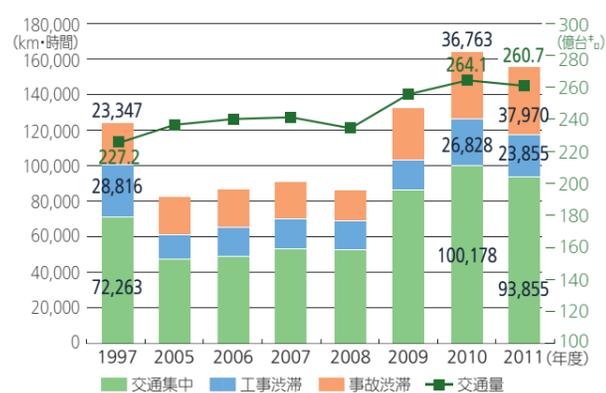
交通渋滞の状況

当社では、「時速40km以下で低速走行または停止・発進を繰り返す車列が1km以上かつ15分以上継続」した状態を渋滞と定義しています。

2011年度の渋滞量(km・時間)は前年比約5%減少しました。高速道路通行料のETC休日特別割引の地方部上限料金の廃止に加え、無料化社会実験施策の凍結により交通量が減少したこと、また、東名 豊田JCT付近の暫定的な片側3車線化による運用などで、渋滞量は昨年度を下回る約155,700km・時間となりました。特に、交通集中による渋滞量は、約93,900km・時間と前年度比約6%の削減となっています。

渋滞の緩和・解消をめざし、渋滞要因を分析して各種対策を効果的・効率的に行うなど、CO₂排出抑制に向けて取り組みを続けます。

高速道路における渋滞状況



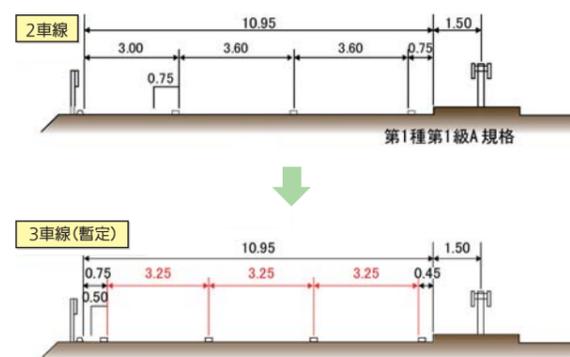
東名 岡崎地区の3車線(暫定)運用など

東名 音羽蒲郡IC～豊田JCT間は交通安全及び渋滞対策の観点から、2011年10月21日より暫定的に3車線運用し、これにより、渋滞量を約9割削減することができました。また、慢性的な渋滞が発生していた中央道 元八王子BS付近(下り)や小仏TN手前(上り)では、2012年3月14日より付加車線事業の運用や付加車線区間の運用方式の切換えを開始しました。

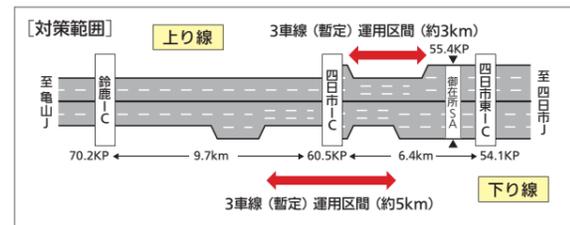


東名 音羽蒲郡IC～豊田JCT間の対策

東名 音羽蒲郡IC～豊田JCT間の付加車線設置概要



東名阪自動車道(東名阪)は、1日に10万台以上の交通量があり、通勤時間帯や週末の朝夕を中心に大規模な渋滞が発生しています。これまでさまざまな対策を実施してきましたが、さらなる対策として、新名神高速道路(新名神) 四日市JCT～亀山西JCT(仮称)間の開通まで、東名阪 四日市東IC～鈴鹿IC間の一部区間を暫定的に片側2車線から3車線に変更します。



ETCの普及・利用促進とCO₂排出の抑制効果

ETCのご利用により、料金所付近の渋滞は減少し、料金所通過後の再加速に必要なエネルギーも少なくなることから、ETCの普及・利用促進はCO₂排出量の抑制に効果があります。

ETCのご利用によるCO₂排出の抑制量

ETCのご利用により、2011年度は約13,500tのCO₂排出が抑制されたと推測されます。

渋滞緩和・解消に有効なETCの普及・利用促進を進め、高速道路の利便性をより向上させるため、スマートICの整備を進めています。2012年度～2016年度までの5年間で、2012年度に開通した新東名を含め、14か所のスマートICの整備を計画しています。

高速道路法面の樹林化

高速道路の建設では、樹木の伐採を伴う場合があります。当社では、高速道路法面(人工的に作られた斜面)の樹林化を行うことで、自然環境の復元や生活環境の向上を図るとともに、地球温暖化の抑制のため樹林によるCO₂の吸収・固定化に努めています。

営業中道路での盛土法面の樹林化計画

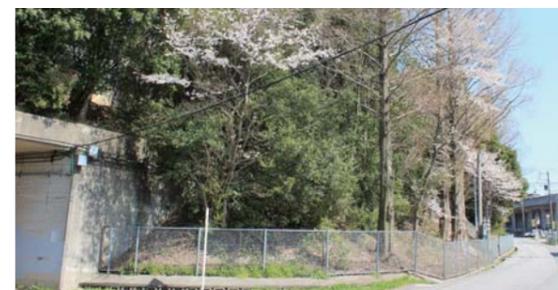
当社が管理する高速道路法面の樹林化面積は約1,300ha(名古屋ドームの約270倍の面積)となりました。これにより、2011年度は年間約13,800tのCO₂を固定したと推計されます。2012年度に開通した新東名などの新規開通区間の樹林化面積を加えると、約1,500ha程度を樹林化しました。

樹林化した法面は、生物多様性に配慮した里山的な樹林管理を実施していきます。

東名 本宿バスタップ付近の事例



植栽直後(1995年3月)



植栽後17年経過(2012年4月)

省エネルギーへの取り組み

エネルギーの使用の合理化に関する法律などの趣旨に沿って、省エネルギーへの取り組みを進めています。

高速道路事業における省エネの取り組み

当社では、新製品の開発・利用、工法の工夫などを通じて、事業活動で使用するエネルギーを削減し、CO₂排出量の抑制を図っています。

電気自動車用急速充電システムの整備

CO₂排出量の抑制に向け、電気自動車の普及促進に貢献する電気自動車の急速充電器を、2011年度までに15か所整備しました。東名では、50～70kmの間隔で電気自動車の急速充電ができるようになりました。

2012年度に開通した新東名では、6か所を整備しました。今後も、利用実態を考慮して新規設置を検討していきます。

●電気自動車用急速充電システムのご利用に必要な手続きはこちらをご確認ください。

<http://www.smartoasis-saas.jp/REG/c-nexco/index.html>



電気自動車と急速充電器



急速充電器設置箇所

トンネル照明の電力の削減

トンネル内の老朽化した照明設備(ナトリウム灯)を更新する際に、Hf(高周波型)蛍光灯などの高効率照明灯具に交換することで、照明灯具の使用電力を30%削減します。また、現地状況を考慮し、省電力で従来の照明器具と同等の照度を確保可能なLED照明灯具の導入も開始しました。



トンネル換気設備の運転制御の改善

中央道 恵那山トンネルでは、換気設備の制御プログラムを改善し、きめ細かい管理を行うことで、2011年度は、年間電気使用量を約740万kwh削減しました。

効率的な土運搬

新東名の建設現場では、工事中の道路の路面整備により、通常20km/hのところを50km/hでの土運搬を可能としました。2011年度は、13万m³を土運搬し、通常走行と比較して約340t(約34%)のCO₂の排出を抑制しています。あわせて、工程短縮と運搬経費を大幅に削減しています。



オフィス活動の推進

当社は、エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)に基づき、省エネ活動を推進しています。全社認証取得したISO14001のEMS活動により、2011年度には、オフィス活動で前年比約13%のエネルギーを削減しました。

交通安全セミナーでのお願い

自動車は適切な走行速度を保つことで、CO₂削減につながります。当社が2007年より実施している交通安全セミナーでは、走行速度とCO₂排出量の関係について説明し、安全かつエコ運転をお願いして、CO₂排出量の削減に努めています。

再生可能エネルギーの活用

当社では、太陽光や風力、湧水・地熱などの再生可能エネルギーを休憩施設や道路設備に活用し、CO₂排出量の抑制を図っています。

太陽光発電設備の整備

当社の太陽光発電設備は、1995年度にお手洗いの照明用として足柄SAに18kwを設置以降、現在も整備を続けています。2012年4月14日に開通した新東名で設置した約1,500kwを加えると、合計約4,000kwの太陽光発電設備を設置し、道路照明やお手洗いの電源として活用しています。

太陽光発電設備の設置箇所

設置年度	設置箇所	発電規模	利用方法
2009まで	サービスエリアなど	約450kw	お手洗い・事務室など
2010	名二環 高針JCT~名古屋南JCT	2,016kw	道路照明
	東名阪道 御在所SA(上下)	60kw	お手洗いなど
	名神 多賀SA(下)	20kw	お手洗いなど
2011	川崎道路管制センター	16kw	事務室
	中央道 石川PA(上下)	10kw	お手洗いなど
	中央道 談合坂SA(下)	10kw	商業施設

※小規模発電設備は除く



湧水を活用した水力発電や湧水を熱源とするヒートポンプによる融雪

東海北陸自動車道(東海北陸道)の飛騨トンネルで、トンネル照明用の電力供給を目的に、トンネルから発生する大量の湧水を有効活用し、50kwの小水力発電設備を、2010年12月に設置し運用を開始しました。

また、東海北陸道 白川郷IC付近では、融雪設備に湧水を熱源としたヒートポンプ方式のロードヒーティングを設置することで、約91t-CO₂/年を削減しています。

CO₂排出を抑制し持続可能社会に貢献する「エコ・エリア」の推進

当社では休憩施設の照明などにLEDを採用しCO₂削減に取り組んでいます。また、再生資源の利用促進のため、積極的にリサイクル建材の採用を行っています。

さらに、商業施設のリニューアルにあわせ、室内環境保持を目的とした複層ガラスや遮熱塗装・遮熱シートの採用によるCO₂排出抑制に取り組んでいます。また、ウッドデッキなどに再生資源を採用するなど、環境配慮型の「エコ・エリア」を推進し、持続可能な社会に貢献するサービスエリアを創造しています。

	2011年度		2012年度計画値
	計画値	実績値	
当該年度	4エリア	5エリア	10エリア
累計	9エリア	10エリア	20エリア

※2012年度計画値には2012年4月14日に開通した新東名を含みます

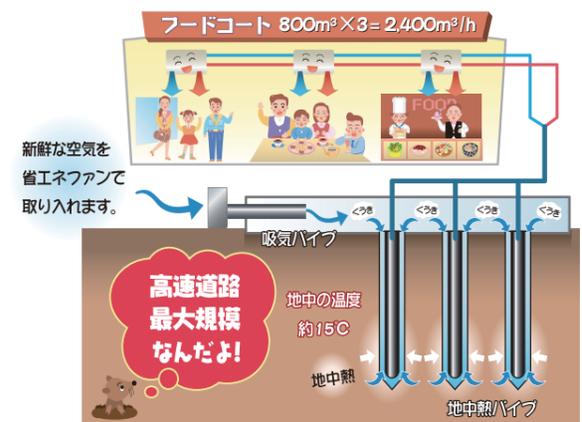
「スーパーエコ・エリア」の整備

新東名では、これまでのエコへの取組みをさらに進め、各種エコメニューを網羅的に整備した「スーパーエコ・エリア」をNEOPASA静岡(上)に整備しました。

例えば、地中に埋め込んだ地中熱パイプによる熱交換を利用し、サービスエリアでは初の地中熱利用空調をフードコートに導入しています。その他、雨水・中水の利用や節水型便器の採用などにより、使用電力・使用水量が約5割削減でき、70ha(名古屋ドームの約15倍)の森林整備に相当する年間約750tのCO₂排出を削減できます。

また、サービスエリアから発生した廃食用油を回収・精製し、高速道路の維持管理車両の燃料に再使用する、高速道路では全国初となるバイオディーゼル燃料製造プラントを整備しました。

地中熱利用空調のイメージ図



新東名 廃食用油のリサイクルイメージ図



緑のカーテンプロジェクト

サービスエリアで、アサガオやゴーヤを利用した緑のカーテンの設置に取り組みました。葉が生い茂ることで、夏の日差しを遮り、見た目にも涼しい空間を提供しています。

北陸自動車道(北陸道) 有磯海SAと北鱒江PAでは、自治体のグリーンカーテンコンテストで最優秀賞を受賞しました。



社員の声 テナントと連携した3Rの推進

中日本エクシス株式会社 施設・管理部 施設・管理チーム サブリーダー 石橋 孝浩

おかげさまで、営業施設のテナントなどのご協力のもとカーボンニュートラルであるバイオディーゼル燃料(Bio Diesel Fuel)を精製するために必要な廃食用油を提供できる営業施設を、新東名、東名阪、東名の一部まで2012年度から拡大することとなりました。

持込みごみ抑制の啓発やごみのリサイクルをこれまでどおり継続的に実施するとともに、営業施設のテナントや協力会社などと連携し3Rを推進することにより、地球環境への負荷低減に向けて取り組んでいきたいと考えています。



廃棄物の発生抑制

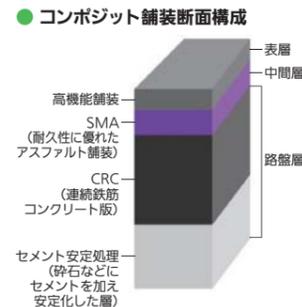
NEXCO中日本では、持続可能な社会の形成に貢献するため、資源の3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進しています。工事の施工計画や、工法の工夫・技術開発により、廃棄物の発生抑制(リデュース)に努めます。

道路構造や設備の長寿命化

高速道路の道路構造物や付属設備は、長期耐久性の確保が重要です。当社では、さまざまな取組みにより、これらの長寿命化を図ることで、将来にわたる廃棄物を削減します。

舗装の長寿命化

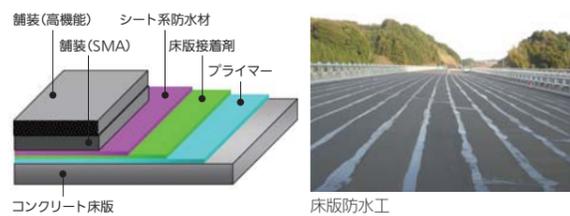
新東名のアスファルト舗装は、新たな舗装構造(コンポジット舗装)を採用しました。コンポジット舗装は、コンクリート舗装のもつ長期耐久性と、アスファルト舗装がもつ良好な走行性や補修の容易さなど、両者の長所をあわせもった舗装です。



橋梁の長寿命化

新東名の橋梁では、アスファルト舗装面の水がコンクリート(床版)に入ることを防ぎ、防水効果が長続きする新たな技術(床版防水工)を採用しました。

床版防水工断面構成



照明ランプの長寿命化

道路やトンネルなどの照明設備に使用している「高圧ナトリウムランプ」を長寿命化(約30%向上)しました。2011年度は、照明灯具のランプ交換などで、約1,400灯設置しています。

今後は、同程度の長寿命ながら、より自然光に近いセラミックメタルハライドランプや、さらに長寿命のLED照明灯具の導入を検討します。

加えて、標識などの内照式照明にも、長寿命のLED光源を使用することで、廃棄物の削減に努めます。



LEDの照明設備

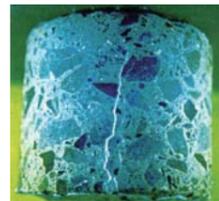
コンクリート構造物の長寿命化

コンクリート構造物の長寿命化を目的として、ひび割れなどの補修の際に、耐久性に優れた「ひび割れ浸透接着剤」と「床版補修材」を開発・施工しています。

床版補修材は、舗装を切削せずに床版補修が可能のため、施工時の廃棄物も削減しています。



ひび割れ浸透接着剤施工状況



ひび割れ浸透接着剤充填状況

廃棄物の再利用・再生利用

循環型社会形成に向け、関連する法令を遵守し、その趣旨に沿って廃棄物を資源と考え、廃棄物の再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)を積極的に行っています。

ガードレール・トンネル換気設備の再利用

高速道路のガードレールは適時、更新・交換されています。撤去されたガードレールのうち、再利用可能なものは回収・再メッキをして再設置しています。2011年度は約1,000mのガードレールを再利用しました。

また、高速道路の4車線化(片側2車線化)工事などで、2車線(片側1車線の対面通行)時よりトンネル内の換気がスムーズになることで、不要となったトンネル設備(ジェットファン・送風機・集塵機装置)を回収し、分解・整備(オーバーホール)して、再利用しています。2011年度はジェットファン7基を再利用しました。



分解・整備

発生材のリサイクル

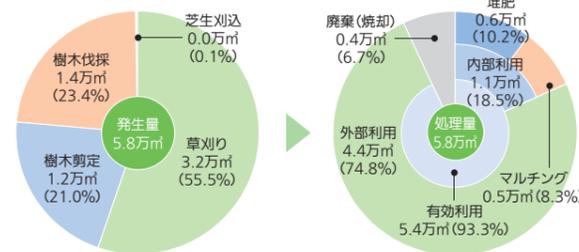
当社の事業活動からは、高速道路の建設や保全に伴う建設副産物、サービス事業に伴う廃棄物などさまざまな発生材が生じます。これら発生材をリサイクルして、有効に利用しています。

高速道路での「緑のリサイクル」

高速道路内の樹木や雑草は、適切に剪定・草刈りを行います。発生した植物発生材は、市中のリサイクルプラントでペレット化し、サービスエリアの暖房の燃料として再生利用しています。また、当社や市中のリサイクルプラントで堆肥化し、植栽時の土壌改良材などとして使用しています。

2011年度のリサイクル率は93%でした。

「緑のリサイクル」量(2011年度)



ペレットストーブ設置箇所

道路	休憩施設	上下線	基数
中央道	双葉SA	上り線	1
		下り線	1
	諏訪湖SA	上り線	1
長野道	梓川IISA	上り線	2
		下り線	2
北陸道	賤ヶ岳SA	上り線	2
		下り線	2
	尼御前SA	上り線	2
		下り線	2
	小矢部IISA	上り線	2
		下り線	2
有磯海SA	上り線	2	
	下り線	2	
城端SA	上下線	2	
名神	多賀SA	下り線	1



ペレット化した植物発生材

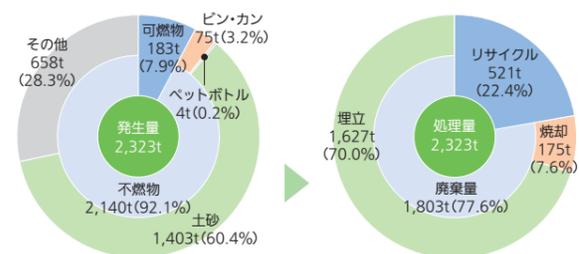


ペレットストーブ

路面清掃に伴う発生材のリサイクル

路面清掃は、路面上にある落下物やごみ・土砂などを収集・清掃する作業です。路面清掃で集めた廃棄物は分別し、びん・缶・ペットボトルなどの再資源化が可能なものはリサイクルしています。また、再資源化できないものは、廃棄物の処理に関する法律に従って適切に処分しています。

路面清掃に伴う発生材のリサイクル(2011年度)



廃食用油のリサイクル

サービスエリアなどの営業施設で廃棄処分されるてんぷら油などをバイオディーゼル燃料としてリサイクルし、標識車などの燃料として利用しています。新東名では、NEOPASA静岡にバイオディーゼル燃料製造プラントを設置し、リサイクルに努めます。2011年度は、軽油を使用した場合と比較して、約100tのCO₂排出が抑制されたこととなります。

廃食用油のリサイクルイメージ図



バイオディーゼル燃料の使用実績

事務所名	車両台数	バイオディーゼル燃料の混合率(%)	2011年度	
			バイオディーゼル燃料使用量(ℓ)	CO ₂ 抑制量(kg-CO ₂)
富士(保)	5	100	13,000	33,800
静岡(保)	2	100	7,300	18,980
袋井(保)	2	100	10,000	26,000
小田原(保)	1	100	600	1,560
甲府(保)	1	100	100	260
彦根(保)	34	5	3,550	9,230
富山(保)	2	100	4,000	10,400
計	47	—	38,550	100,230

※バイオディーゼル燃料1ℓあたりCO₂排出抑制量を2.6kgで換算しています。

使用済み通行券のリサイクル

金沢(保)では、料金所で回収した使用済み通行券を、エコバックとしてリサイクルしています。作成した製品は、お客さまに配布し、有効利用いただいています。

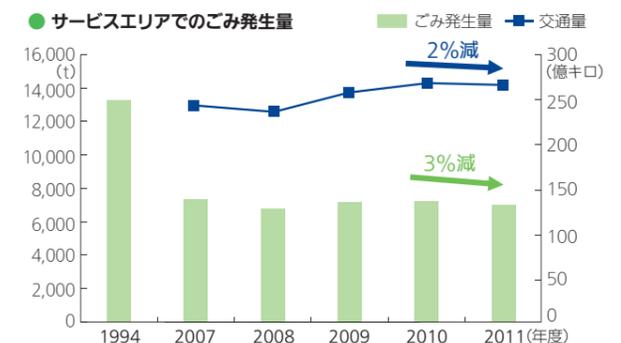


通行券から作成したエコバック

サービスエリアでの3Rの取組み

当社グループでは、お客さまやテナントのご協力をいただきながら、地球環境への負荷低減の観点から循環型社会へ向けた、3Rへの取組みを推進しています。ごみの減量化の取組みや社会的意識の高まりで、休憩施設のごみ発生量は1994年度のピーク時では約13,400tでしたが、2011年度には約6,947tに減少(約48%減)しました。

2010年度との比較では、交通量の減少量(約2%)に対して、ゴミ発生量はそれ以上に減少(約3%減)しています。



生物多様性への配慮

日本は緑豊かで地形の変化に富み、温暖湿潤気候特有の明瞭な四季のもと、多種多様な動植物や自然環境に恵まれています。NEXCO中日本では、生物多様性に配慮したエコロード(自然環境に配慮した道)づくりに取り組み、自然環境の保全に努めています。

自然環境保全の流れ

高速道路事業では、整備計画に先立ち環境影響評価が実施されます。当社は、環境影響評価結果を踏まえ、より詳細な自然環境調査を行い、対策を実施します。新東名においても同様に取り組み、その結果をパンフレットに取りまとめました。

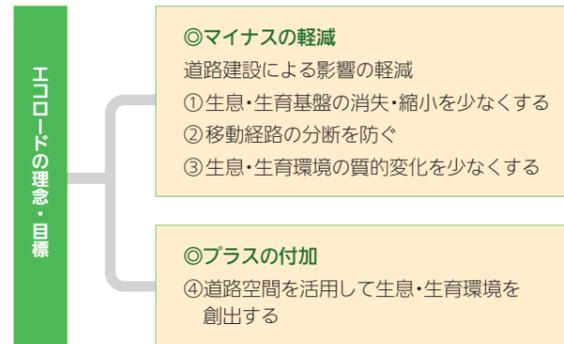


取りまとめたパンフレット

エコロード(自然環境に配慮した道路)づくり

道路建設は、周辺の動植物の生息・生育基盤の消失、動物の移動経路の分断、生息・生育環境の質的変化をもたらす恐れがあります。このため、当社では、建設に際して地域生態系への影響を回避・低減し、新たな生息・生育環境の創出などを進めて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

● エコロードの取組み



事例1 生息・生育基盤の消失・縮小を少なくする

新東名の建設に先立ち行われた動植物の調査で、大きさ3~4cm程度の小さなタヌキノシヨクダイ※が確認されました。自生地はこれまで全国で4か所のみが知られている貴重な植物です。確認された個体の保全方法について、学識経験者から意見をいただき、道路構造を変更して改変面積を約6割に縮小して生息地を保存しました。その結果、継続的に生育が確認されています。

※ 環境省レッドデータブック 絶滅危惧IB類



保護したタヌキノシヨクダイ

東海環状自動車道では道路建設予定地内にフクロウの営巣地が確認されました。フクロウの生息環境を守るため、道路構造を盛土から擁壁へ変更し、外敵に襲われにくい壁面に巣箱を設置して「フクロウ谷」として保全しました。

現在はフクロウの営巣も確認され、市民活動団体の皆さまが中心となり当社とともに草刈りなどを行っています。



保全したフクロウ谷



フクロウの営巣

事例2 移動経路の分断を防ぐ

圏央道では動物の移動経路を確保するためのけもの道となるトンネル(高速道路下の通路)を設置しています。夜間の自動撮影カメラを設置したところ、さまざまな動物が利用していることがわかりました。



トンネルを利用するイタチ

事例3 生息・生育環境の質的変化を少なくする

トンネルの出入口では、通常、工事をしやすくするために樹木の根株や表土を取り除きます。新東名 富士川トンネルでは、それらを残し施工することで、根株からの萌芽や埋土種子からの発芽により、植物の早期回復を実現できました。現在は、スギの人工林に変わって広葉樹が育っています。



トンネル入口周辺の自然が回復する様子

事例4 道路空間の活用により生息・生育環境を創出

新東名 浜松いなさJCT付近で交差する的場川にはホタルが生息しています。工事に際し、植物が繁り水生生物が棲みやす

すい、「自然型護岸」で河川改修を行いました。さらに、的場川から自然に水が入るように整備し、岩場や草地、日陰や日なたなど、多様な生息環境を創出したピオトープを整備しました。今でも、ホタルの生息が確認され、地元小学生の自然環境学習会に活用されています。



的場高架橋のピオトープ

新東名 藤枝PA付近はホタルが生息するため、水路を水生生物が棲みやすい構造としました。地元の方と協力して、清掃などの河川環境整備やホタルやカワニナの養殖、放流を行い、ホタルが観賞できる藤枝PAをめざします。



ホタルも棲めるように整備した藤枝PAの水路



ホタル幼虫の放流

● 野生動物などの保護

動物の侵入が想定される箇所については、あらかじめシカなど大型動物に対しては、跳躍対策として立入防止柵の高上げ、タヌキなど小型動物に対しては掘削潜抜け対策としてフェンスの根入れやコンクリートシールなどを行っています。

また、上記対策を実施しているにも関わらず、動物侵入件数が多い箇所については、現地で侵入ルートなどの確認を行ったうえで、立入防止柵の延伸・強化のほか、立入防止柵を横断する排水溝からの侵入も想定されたため、侵入防止板などを追加しています。

● 衝突事故件数



大型動物対策



排水溝の侵入対策例

ソフト対策では、動物注意標識などによるお客さまへの注意喚起とともに、高速道路で事故にあった動物に対しては、二次的な衝突事故を回避するため、パトロールによる速やかな回収に努めています。



動物注意標識

● エコロードに対応した地域性苗木

自然環境が豊かな地域を通過する道路の区間では、周辺に自生する樹木の種をあらかじめ採取し、その種子から苗木を(株)高速道路総合技術研究所緑化技術センターで育て、採取した場所やその周辺地域に植栽する緑化手法を展開しています。

当社では、1996年に全国で初めて地域性苗木による緑化を行って以来、地域性苗木を用いた生物多様性の保全に努めてきました。2011年度までに当社は約59万本(全国のNEXCO高速道路会社では約200種、約81万本)を植栽しています。



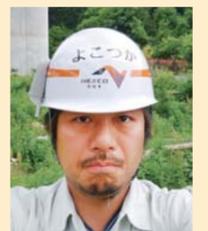
社員の声 高速道路と自然環境の共存共生をめざして

東京支社 浜松工事事務所 浜松工事区 横塚 裕和

浜松工事事務所では、新東名の建設において、自然豊かな地域を通過することから、ホタルや希少植物への影響を最小限にするため、道路構造の配慮や保護対策に取り組まれました。また、高架橋の下にはホタルが生息しやすい水流と草地や岩場の整備、有識者を招いての地域小学生に対する自然学習会を開催し、大変喜んでいただきました。

取組み結果として、工事前後では諸対策の効果もあり、生態は大きく変わっておらず安心していきます。

今後も環境の変化を見守っていくとともに、定期的な草刈りなどの維持管理によって、地元住民の方々にも満足いただける高速道路と自然環境の共存共生を願っています。



沿道環境への貢献

高速道路は、自然豊かな山間部や住宅地に近接する都市部など多種多様な空間を通過します。都市部では、地域の皆さまの生活基盤を守るため、「環境基本法」「騒音規制法」などの趣旨に沿って、生活環境の保全に努めています。

騒音対策

道路交通騒音の低減に向け、道路の計画・設計から営業まですべての段階で、騒音対策などを実施しています。

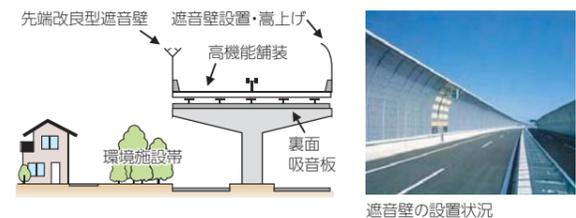
この対策には当社だけでなく、沿線自治体、警察、お客さま、自動車メーカーなど、関係者が一体となり取り組んでいます。

遮音壁・環境施設帯・遮音ルーバーの設置

事前の騒音予測や沿道自治体からの要請に基づき、計画を立て遮音壁を設置しています。地域の風景が良好な場所などでは、透明な遮音板を利用しています。また、住居の立地条件や土地利用の状況により、必要な地域には環境施設帯を設置しています。

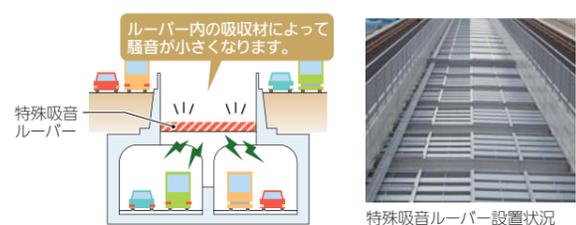
名古屋第二環状自動車道(名二環)では、市街地を通過する掘割構造となったため、掘割上部の特殊吸音ルーバーを開発・設置して沿道環境の改善に努めました。

● 騒音対策の概念図(遮音壁・環境施設帯)



遮音壁の設置状況

● 騒音対策の概念図(特殊吸音ルーバー)



特殊吸音ルーバー設置状況

● 遮音壁設置の計画・実績(累計延長)

2011年度		2012年度		長期計画値 (2016年度)
計画値	実績値	計画値	実績値	
902km	901km	904km		要請に応じ対策実施

高機能舗装(水はねの少ない舗装)

通常の舗装に比べ、水はねが少なく、さらに騒音も低減する効果(2~4db)がある舗装を採用しています。



高機能舗装の施工状況(写真右側)

● 営業中路線の高機能舗装計画・実績

2011年度		2012年度		長期計画値 (2016年度)
計画値	実績値	計画値	実績値	
88km・車線 (5,028km・車線)	101km・車線 (5,042km・車線)	82km・車線 (5,124km・車線)		379km・車線 (5,421km・車線)
	81%		83%	87%

光源対策

高速道路のインターチェンジや、重交通量区間の本線など一定の条件を満たす場合、交通安全のために道路照明を設置しています。そこから漏れた光が農作物や周辺の動植物、天体観測に影響を及ぼす場合には、光源対策を実施しています。新東名 浜松いなさJCT部ではホタルの生息が確認されたため、低位置照明の採用や遮光板を設置するなど、光が漏れない対策を行いました。



低位置照明の設置状況

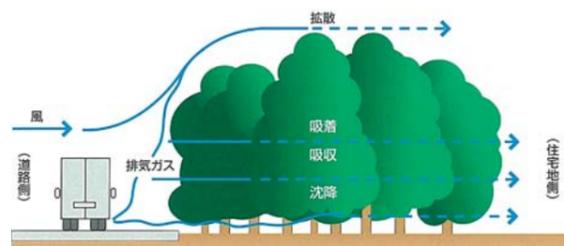
大気汚染対策

当社では、高速道路ネットワークの整備、付加車線の設置やETCの普及による走行速度の向上と法面の樹林化などにより、CO₂だけでなく、NO_xやSPMの排出削減・抑制をすることで高速道路周辺の大気環境を改善しています。



名神 生活環境を保全している樹林

● 樹林によって大気がきれいになる仕組み(イメージ図)



環境コミュニケーション

～お客さまや地域の皆さまとともに～

当社グループでは、お客さまや地域の皆さまとともに、社会との環境コミュニケーションを大切に、地域との連携を進めています。

「ハイウェイ緑の里プロジェクト」の推進

2007年5月より地域の皆さまとの連携・協働の場として、高速道路路面などを活用し、地球環境の保全や沿道環境の改善・維持向上を図ることを目的とする「ハイウェイ緑の里プロジェクト」を実施しています。

地域の自治会、学校や企業の皆さまのご協力をいただき、2011年度は8か所で植栽を実施し、累計34か所となりました。これからも、地域の皆さまのご協力のもと、活動の拡大と継続した管理に努めます。



ご協力者:静岡市葵区下地区町内会
実施箇所:新東名
実施日:2011年12月



ご協力者:あわら市町区自治会
実施箇所:北陸道 あわら市内
実施日:2011年12月

グリーンプラス計画

新東名の建設にあわせ岡崎市の中学生と協働で「緑を守ろう・増やそう! グリーンプラス計画」を開始しました。生徒や教職員、当社の社員が一緒になって、学校の周辺の自然林より種子を採取し、学校で育て、高速道路法面に植栽する予定としています。



種子採取をする学生

ホテルも棲めるサービスエリア

北陸道 有磯海SAで、エリア内のせせらぎを活かし、光を嫌うホテルの習性に合わせ、植栽による遮光などホテルも棲める環境を地元の方と一緒に整備しました。2011年度は地元の小学生とホテルの幼虫100匹の放流会を行いました。



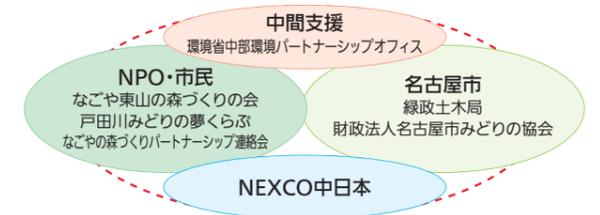
ホテルの幼虫を放流する小学生

地域性苗木育成技術を生かした地域協力

当社の「生物多様性保全」「地域性苗木の育成」の技術や、高速道路以外でも活かす活動として、NPOや名古屋市と郷土種保全協議会を設立しました。2009年より活動を始め、名古屋市内の公園などで採取した郷土種樹木の種や枝から地域性苗木を育て、名古屋市内の緑地に植えています。

また、愛知県の西三河地域の生態系の保全をめざして、地域住民・NPO・行政や学識者・民間企業21団体と一体となった「西三河生態系ネットワーク協議会」にも参画しています。

● 「郷土種子を活用した名古屋の緑化及び生態系保全推進協議会」の構成



景観への配慮

当社グループでは、お客さまと地域の皆さまにとって良好な環境を提供するため、地域環境への配慮の観点から「道路景観」の整備を進めています。

景観理念の整備

当社グループでは、景観理念を2009年4月に制定し、高速道路ネットワーク整備における景観方針を示し、実践することで、質の高い高速道路景観の実現をめざしています。

中日本高速道路景観理念

質の高い優れた社会資本を目指すために、次の基本理念により行動する。

- ① 高速走行にあたって、安全・安心・快適を感じられる道路空間を構築する。
- ② 高速道路の通過する地域を眺め、理解・認識できる新たな景観を創造する。
- ③ 通過する地域の自然環境や社会環境と共生する高速道路を目指す。
- ④ お客さまや地域の皆さまが楽しめる休憩施設空間を創造する。



恵那山を望む(中央道 中津川C~園原C間)

環境技術

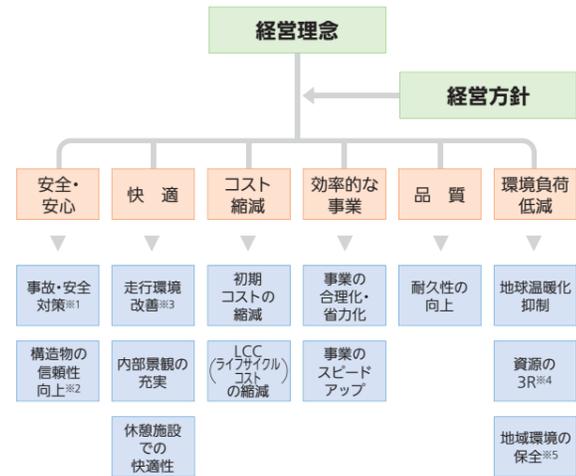
— 開発と研究 —

技術開発の推進

NEXCO中日本では、(株)高速道路総合技術研究所の活用や民間会社・大学・グループ会社などとの共同研究により新技術・新工法・新材料の開発を推進しています。

技術開発の理念

安全・安心・快適で、時代をリードする高速道路空間を、技術開発により創出します。



※1 第三者影響度を含む ※2 災害に強い道路を含む ※3 渋滞対策を含む
 ※4 3R:Reduce(発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再生利用)
 ※5 外部景観を含む

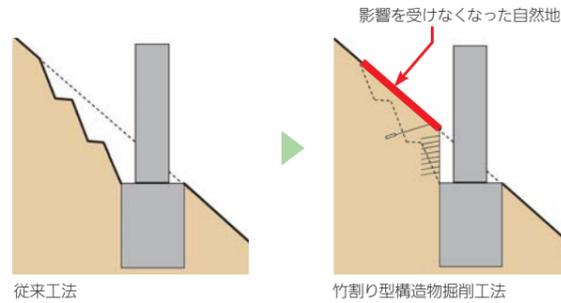
技術開発事例

環境や景観に配慮した技術開発として、地球にやさしい施工方法や設備技術の開発・研究に取り組んでいます。

自然掘削最小工法の開発(竹割り型構造物掘削工法)

急峻な斜面に橋脚を建設する場合に、従来工法では広範囲にわたって掘削するため、広大な法面が発生しました。そこで、橋脚の周囲にリング状の鉄筋コンクリートの壁を構築し、ロックボルトや吹付コンクリートなどで周辺の地山を補強しながら掘削する工法(特許第3516391号)を開発しました。

これにより掘削面積を最小にして、自然環境への影響を少なくするとともに、景観にも優れた橋脚の建設が可能になりました。新東名など急峻な地形が多い路線では積極的に採用しています。新東名開通区間では、27橋40橋脚を施工しました。



竹割り型構造物掘削工法で施工された橋脚

ベクションによる渋滞の軽減

ベクションとは、周囲運動の知覚による錯覚のことで、例えば隣の電車が動き始めるのを見て自分が動き出したように感じることです。

新東名・東名では、このベクション効果を、路肩に設置した発光機器の点滅制御に活用し、JCT部の速度抑制やサグ部の速度向上で円滑な走行を図ります。

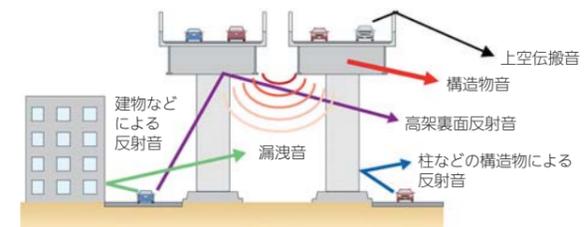


LEDが順番に点滅し車と並走

音源探査装置による効率的な調査技術

高速道路の周辺では、遮音壁の上から回り込む上空伝搬音や、橋梁の本体から発生する構造物音、併設する一般道からの騒音が構造物に反射し伝わる反射音などさまざまな騒音が存在します。音源探査装置は、苦情の原因となる騒音の発生源を容易に特定するために、新たな調査技術の開発を行い、製作されました。当社では、今後も新たな環境技術の開発に取り組んでいきます。

● さまざまな音源(イメージ図)



着色部が音の発生箇所



音源探査装置

共同研究の推進

当社グループでは、最新技術情報の収集や共同研究協力者を広く公募し、環境負荷の低減につながる技術開発を推進しています。

事例1 アスファルト舗装の中温化技術に関する研究

アスファルトの製造温度を低下させる特殊添加剤などの技術を用いて、従来の混合物のすべり抵抗性、耐久性などを保持した上で、製造時の温度を180℃から100℃程度まで低下させる技術を開発しています。これにより、CO₂の排出抑制による地球温暖化防止と、アスファルト舗装工事による交通規制時間の短縮化が図れます。

事例2 有機発生材の3Rシステムに関する研究・開発

高速道路事業では、刈草・剪定枝・伐採木などの多種多様な植物発生材が排出されます。地球温暖化抑制の観点から、こうした発生材を利用した、バイオマス燃料化を研究・開発し、導入に向けた検討を始めています。



伐採木・刈草を混合した燃料

刈草から製造したペレット



バイオマス試験用プラント(2011年試験完了 多賀SAに設置)

事例3 道路維持管理用EV及びEV用非接触充電システムの研究・開発

当社は、お客さまに安全・安心・快適に高速道路をご利用いただくため、さまざまな維持管理車両を使用しています。CO₂排出削減と持続可能な社会の実現に貢献するため、維持管理用車両のEV化と非接触充電システムの研究・開発に取り組んでいます。

● EV化を検討している車両



道路巡回車



標識車

雪氷車両

環境マネジメント

—活動状況—

環境マネジメントへの取組み

NEXCO中日本では「環境・持続可能社会への貢献」の考えのもと、当社グループの環境活動を継続的に改善していく環境マネジメントを経営に取り入れて活動を進めています。

環境活動成果

高速道路の環境に対する影響は広範囲に及びます。本報告書では、把握可能な代表的な環境への影響を以下にまとめました。当社は、環境活動による環境への影響やコストを今後も幅広く定量的に把握していきます。

環境活動の計画と実績(総括)

	指数	2011年度		2012年度計画値	長期計画値	ページ
		目標値	実績値			
交通渋滞対策の実施						
高速道路網の整備(早期開通へ努力)	整備延長	2km	2km	193km	(2012~2016年度) 322km(累計)	P14・P50
高速道路法面の樹林化	樹林化面積比率(対象1,300ha)	100%(累計1,300ha)	100%(累計1,300ha)	—	—	P52
資源の3R推進						
建設発生土	再利用率(発生量)	長期計画値以上	98.6%(793千m ³)	長期計画値以上	95%以上	P64
アスファルト・コンクリート塊	再資源化率(発生量)	長期計画値以上	99.9%(371千t)	長期計画値以上	98%以上	P64
コンクリート塊	再資源化率(発生量)	長期計画値以上	100.0%(100千t)	長期計画値以上	98%以上	P64
建設発生木材	再資源化・縮減率(発生量)	長期計画値以上	99.9%(24千t)	長期計画値以上	95%以上	P64
建設汚泥	再資源化・縮減率(発生量)	長期計画値以上	99.9%(4千t)	長期計画値以上	95%以上	P64
営業中の高速道路からの騒音対策						
遮音壁の設置	設置延長	902km	901km	904km	(要請に応じ対策実施)	P59
高機能舗装の設置	設置率(対象6,196km車線)	88km・車線(5,028km・車線) 81%	101km・車線(5,042km・車線) 81%	82km・車線(5,124km・車線) 83%	379km・車線(5,421km・車線) 87%	P59

上記表の「資源の3R推進」では、目標・実績は2011年度に完了した「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」に定める特定建設資材の工事での再資源化率などを記載しています。長期計画値について、アスファルト・コンクリート塊・コンクリート塊及び建設発生木材は、国土交通省の「建設リサイクル推進計画2008」(2008年4月)の計画目標を当社の計画値とし、それ以外については当社独自の計画値としています。

ISO14001の認証取得

2011年度当社は、環境マネジメントシステム(EMS)の範囲を本社から全社に拡大し、ISO14001の認証を得ました。認証未取得だった一部のグループ会社も2012年3月に新規取得しました。



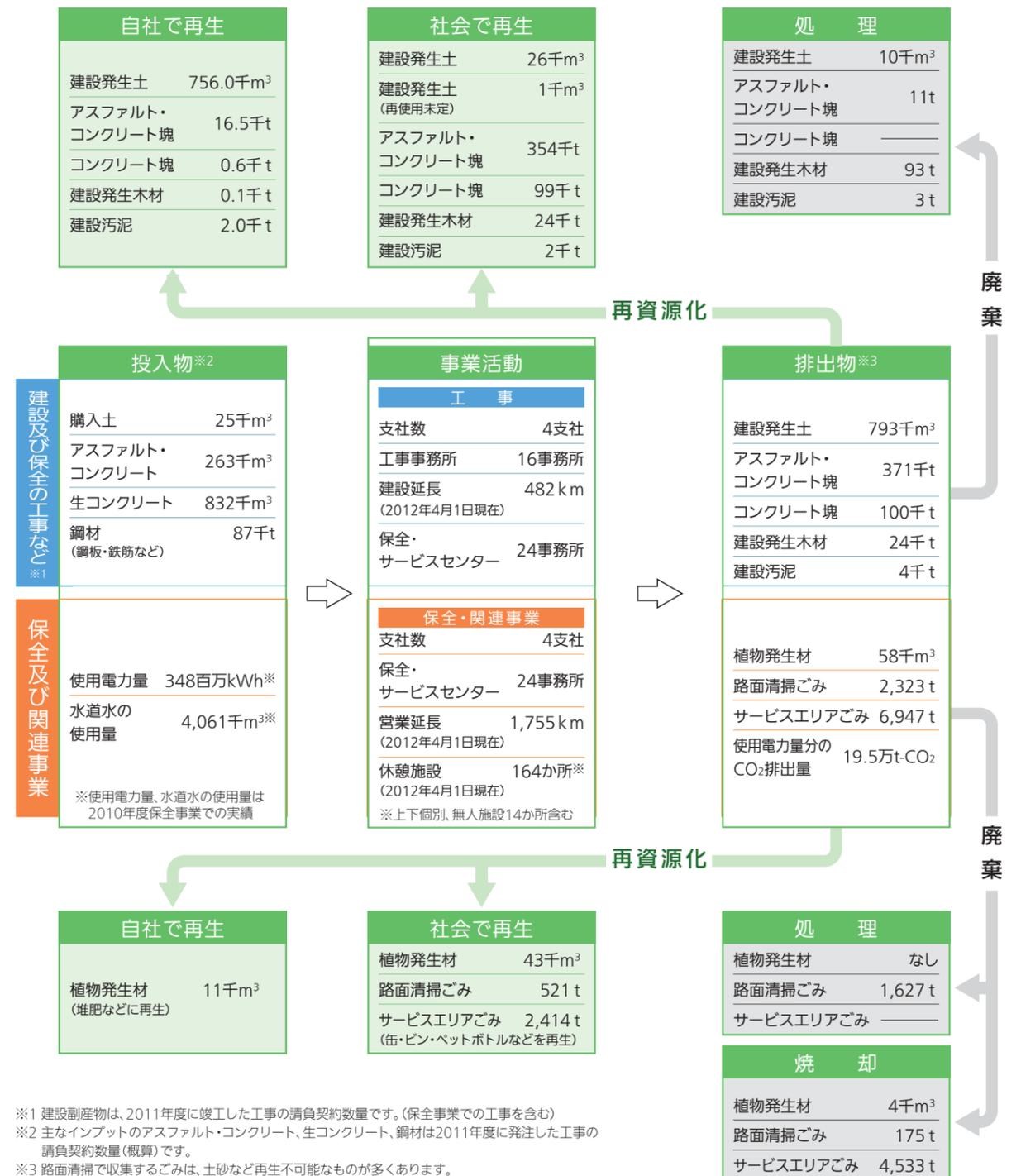
ISO14001 登録証(複写)

事業活動成果

当社グループでは、高速道路やサービスエリア・パーキングエリアなどの休憩施設の建設、維持・保全とその他の事業を行ううえで、その事業活動が環境に与える影響(環境負荷)を定量的に把握するように努めています。

また、把握した環境負荷の削減をめざして環境に配慮した事業活動や取組みを企画・立案し、実施しています。事業活動(建設・工事、保全・関連事業)に関わる2011年度の環境負荷のマテリアルフローは、以下のとおりです。

事業活動に伴う環境負荷のマテリアルフロー(2011年度実績)



※1 建設副産物は、2011年度に竣工した工事の請負契約数量です。(保全事業での工事を含む)
 ※2 主なインプットのアスファルト・コンクリート、生コンクリート、鋼材は2011年度に発注した工事の請負契約数量(概算)です。
 ※3 路面清掃で収集するごみは、土砂など再生不可能なものが多いです。

環境会計

NEXCO中日本では、環境保全に関わるコストとその活動により得られた効果を可能な限り定量的に把握し、より客観的に評価することを目的に、2009年度より環境会計を導入しています。そして、環境保全活動をより効率的かつ効果的に推進していきます。

2011年度環境会計の集計結果

1. 環境保全コスト

環境保全コストは事業活動に応じ、事業エリア内コスト、管理活動コスト、研究開発コスト、社会活動コストに分類し、投資額と費用額のそれぞれについて算出を行いました。
その結果、2011年度の環境保全のための投資額は、1,612百万円となり、2010年度と比較して1,601百万円減少しました。これは、2010年度に名二環に設置した太陽光発電設備など、自然エネ

分類	2011年度の取組み内容	投資額(百万円)		費用額(百万円)	
		2010年度	2011年度	2010年度	2011年度
(1) 事業エリア内コスト	1. 地球環境保全コスト				
	渋滞対策による地球温暖化防止	670	467	172	182
	省エネルギーによる地球温暖化防止	1,452	99	34	31
2. 地域環境保全コスト	植樹(CO ₂ 吸収)による地球温暖化防止	105	105	33	25
	騒音防止	930	787	1,209	961
3. 資源循環コスト(資源の3R)	植栽・緑化対策	48	142	6	20
	資源の効率的利用、産業・一般廃棄物のリサイクル	8	12	4,872	4,862
(2) 管理活動コスト	ISO14001認証・運用、環境対策組織運営、環境情報公開(CSR報告書など)、社員の環境教育	0	0	77	76
(3) 研究開発コスト	環境保全対策に資する研究業務	0	0	160	130
(4) 社会活動コスト	イベントへの協賛など	0	0	12	1
合計		3,213	1,612	6,575	6,288

※「投資額」は、減価償却資産への投資額のうち、環境保全を目的とした支出額を計上しました。「費用額」は、当社の費用のうち、環境保全を目的とした発生額を計上しました。なお費用額には、減価償却資産の減価償却費を含めることを基本としていますが、独立行政法人 日本高速道路保有・債務返済機構への引渡し資産にかかる減価償却費については計上していません。

複合コストの考え方

以下の事業活動の環境保全コストは複合コストとして認識されることから、合理的な基準により按分集計しました。
●高速道路ネットワーク整備事業、車線拡幅事業
高速道路の新規整備や車線拡幅により期待される3便益(走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益)の合計額に対するCO₂排出削減貨幣価値換算額の比率(0.2%)でコストを按分しました。

環境会計集計の基本的事項

1. 集計範囲
NEXCO中日本(一部、グループ会社を含む)の事業活動
2. 対象期間
2011年4月1日～2012年3月31日
3. 集計方法
環境会計ガイドライン2005年度版(環境省)、NEXCO中日本グループ内での独自の研究成果を参考にして集計

ルギー活用のための設備への投資の減少や高機能舗装化など騒音防止のための投資の減少によるものでした。
また、2011年度の環境保全のための費用額は6,288百万円となり、2010年度と比較して287百万円減少しました。これは、高機能舗装の補修など騒音防止のための費用の減少によるものでした。

●ETCレーン整備、渋滞減らし隊キャンペーン、携帯Webを活用した渋滞予測情報提供、高機能舗装化
当社グループ内での独自の研究成果をもとに設定した算定基準を参考に、環境保全が主目的でなく、環境保全目的を除いた代替施設もないと判断し、簡便集計としてコストの25%を計上することとしました。
なお、上記の事業活動以外にも、環境保全コスト以外を控除した差額集計を一部行っています。

2. 環境保全効果

環境保全効果を、「事業活動から排出する環境負荷に関する指標」「事業活動から排出する廃棄物に関する指標」「その他の指標」に分類して整理を行いました。このうち、渋滞対策によるCO₂削減量が2011年度は1,526千t-CO₂になりました。

分類	指標	単位	効果(数量)		関連ページ
			2010年度	2011年度	
1. 事業活動から排出する環境負荷に関する指標(地球環境保全)	渋滞対策によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	1,514	1,526	P50～
	省エネルギー(オフィス活動含む)によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	8	7	
	植樹(CO ₂ 吸収)によるCO ₂ 削減量	千t-CO ₂	14	14	
2. 事業活動から排出する廃棄物に関する指標(資源循環)	建設発生土再利用率	%	99	98	P55～
	アスファルト・コンクリート塊再資源化率	%	99	99	
	コンクリート塊再資源化率	%	99	100	
	建設発生木材再資源化・縮減率	%	96	99	
	建設汚泥再資源化・縮減率	%	99	99	
3. その他の指標(地域環境保全)	高機能舗装化延長	車線・延長(km)	315	244	P59～
	遮音壁の新設延長	m	1,800	1,900	
	遮音壁の高上げ延長	m	1,100	1,000	

3. 環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果(環境保全対策を進めた結果、企業などの経済的利益に貢献する効果)については、2011年度において発生が回避されたと認められる費用を算定しました。
2011年度は全体で10,824百万円となり、2010年度と比較して2,799百万円減少しました。これは、建設発生土などの再利用・再生利用に関わる発生量の減少に伴い回避されたと認められる費用が減少したことによるものでした。

分類	2011年度の取組み内容	実質的効果(費用縮減)(百万円)	
		2010年度	2011年度
地球環境保全(省エネルギー)による経済効果	トンネル内高効率化照明灯具の採用	26	31
	効率的な土運搬	247	61
	ヒートポンプ方式の融雪装置の採用	26	5
	トンネル換気運転制御の改善	101	105
	自然エネルギーの活用、エコショップの整備・維持管理、オフィス活動	25	88
資源循環による経済効果	照明ランプの長寿命化による廃棄物削減	14	15
	建設発生土などの再利用・再生利用	12,992	10,264
	ガードレール、トンネル設備のリユース	37	135
	廃食用油、植物発生材(内部利用のみ)のリサイクル	46	14
	サービスエリアにおけるリサイクルなど	109	106
合計		13,623	10,824

※建設発生土などの再利用・再生利用に関する経済効果は、当社事業に再利用したことにより発生が回避された資材購入費、処分場への運搬費及び処理費や、他事業に再利用したことにより発生が回避された処分場への運搬費及び処理費を計上しています。

4. 事業ごとの環境保全コストと環境保全対策に伴う経済効果

新東名や圏央道の開通など、当社の建設事業は年度変動が大きい。建設事業と建設事業以外の保全・関連事業とに分けて集計を行いました。建設事業では、太陽光発電設備など自然エネルギー活用のための設備への投資が減少するとともに、建設発生土などの発生量の減少に伴い費用及び経済効果が減少しました。保全・関連事業では高機能舗装化など騒音防止のための投資や費用が減少したものの、建設発生土などの発生量の増加に伴い経済効果は増加しました。

	環境保全コスト				環境保全対策に伴う経済効果(百万円)	
	投資額(百万円)		費用額(百万円)		2010年度	2011年度
	2010年度	2011年度	2010年度	2011年度		
建設事業	1,772	192	1,812	1,670	10,140	6,292
保全・関連事業	1,441	1,420	4,763	4,618	3,483	4,532
合計	3,213	1,612	6,575	6,288	13,623	10,824

CSR懇談会

社外の有識者の方々を委員とした「NEXCO中日本CSR懇談会」を設置し、企業が社会や文化の発展に果たすべき役割や意義、さらには環境に関する事項などについて、大局的な観点から当社経営陣と定期的に意見交換をしています。

CSR懇談会委員

座長：奥野 信宏	中京大学 総合政策学部 教授	城戸 真亜子	洋画家
委員：青山 佳世	フリーアナウンサー	嶋津 八生	NHK解説委員
亀山 章	NPO法人地域自然情報ネットワーク 理事長	服部 力	建築家 (株式会社服部都市建築設計事務所 主宰)
川勝 平太	静岡県知事		

※ 敬称略 五十音順



中京大学 教授 奥野 信宏 座長

新しい公共と安定感ある社会の構築

「交流・連携が生み出すダイナミズム」は、国土計画の基本理念である。それを実現するためにはハードの整備とソフトの取組みが必要であり、両者が車の両輪となって計画が現実の力となる。

新東名は、21世紀の日本の基盤となる道である。ソフト面については、近年、行政と民間という二分法に加えて、地域住民やNPO法人、企業のCSR活動などの取組みが目覚ましくなった。「新しい公共」は、公共の志をもってサービスを提供する活動や組織、そのような活動を重視する価値観を指している。各地域で地域のニーズに根ざす活動が行われていて、人との交流・連携が生き甲斐にもなっている。

新しい公共は、大都市圏においても魅力ある街づくりの柱になりつつある。大都市圏は、わが国の新しい発展のサイクルの起爆地にならなければならないが、それを担うのは企業と市民、行政が協働した街づくりである。新しい公共は、ソフトの取組みとして、先進国に相応しい安定感ある社会を再構築する鍵を握っており、NEXCO中日本の沿線地域での多様な取組みは、その一翼を担うものだとして評価している。

第8回CSR懇談会

2011年12月2日、川崎市にある道路管制センターと東名の「EXPASA海老名」をご視察いただき、当社のCSRの取組みや防災への取組みについて意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

- 東日本大震災を経験して、高速道路がもつ社会性の高い役割が再認識された。高速道路の法面を周辺住民の避難場所にするなど防災への新たな取組みは評価できる。
- 東京・名古屋に道路管制システムの相互バックアップ体制を構築することは、広域圏同士の連携であり、日本の国土政策にとって大事なことだと思う。
- 来年の開通を予定している新東名における環境への取組みは、海外にも通じる高い技術であり、しっかりと記録に残しておくが良い。
- 道路管制センターを視察し、高速道路はハード面だけでなく、高速道路を日々安全に運営していくというソフト面も重要であることを認識した。
- EXPASAを視察し、サービスエリアが「おもしろい」や「楽しい」と感じる場所に生まれ変わってきていると感じた。リニューアルは周辺地域の雇用の創出につながっており、地域にも役立っていることを理解した。



道路管制センター 視察



EXPASA海老名 視察

第9回CSR懇談会

2012年6月8日、「NEOPASA浜松」など4月14日に開通した新東名をご視察いただいた後、「CSR報告書2012」や当社が取り組むべきCSR活動などについて、意見交換を行いました。

委員の皆さまからいただいたご意見

■新東名・サービスエリアについて

- 世界に誇れる素晴らしい日本の高速道路ができたことを、世界にアピールしていくべきである。
- バスツアーなど旅行事業も活用して、最先端の技術や環境・人に対する配慮などを積極的にPRした方が良い。
- 新東名は、カーブや坂道がゆるやかで走りやすく快適である一方、居眠り対策など事故が拡大しない対策を考えていかなければならない。
- 高速道路が目的地に行くための機能だけでなく、ぷらっとパークという形で地域の方たちにとってもいろいろな生活の楽しみを与える場になってきていると感じた。
- サービスエリアやパーキングエリアが个性的で地域的な特徴が出ていることは良い。
- NEOPASAやEXPASAが、個々に地域に合ったコンセプトがしっかり検討され、そのコンセプトに沿った施設づくりがなされていることは素晴らしいことである。一方で、特に高齢のお客さまが安心して利用していただく上では、NEXCO中日本のサービスエリアに共通したサービスやコンセプトをもつことも重要である。
- 環境への取組みとして3Rについて具体的によく考えられている。また、リデュースを長寿命化という観点から捉え自然を無駄に使わないようにするという発想は良い。
- 国土計画においては大都市圏相互の連携、災害時の各都市のバックアップ機能が重要だが、そういう視点で道路づくりがなされている。

■災害対策について

- 自衛隊などと連携を図り、災害が起きた場合に高速道路が応援・復旧のベースキャンプの役割を果たしていくことは非常に重要である。
- 竜巻や大雨などこれまで日本ではあまり体験してこなかった自然の猛威に対して、どのように対策を実施していくかが今後の大きな課題である。

■農山村活性化のCSR活動について

- お金だけを出して後は地域に任せるということではなく、社員自らが地域へ出て貢献し、意識を変えていく取組みであり素晴らしい。活動が定着した後は、さらに高速道路のお客さまなどに参加いただくなど、より多くの人たちが参加し地域を元気にしていきながら、高速道路の利用も増えていくようなことにつながると良い。
- 地域で問題になっていることが何なのかを地域の人たちと同じ目線で考え、自分たちの仕事に活かしていく活動となっているところが良い。
- 農山村活性化のCSR活動のような取組みが大都市圏でも重要になってきている。

■KPIIについて

- KPIIは昨年度達成できたものと未達成であったものとあるようだが、企業統治の有効な手段として重要な試みである。
- 定性的なものを定量化して指標にするということが非常に重要である。



NEOPASA浜松(上) 視察



第9回CSR懇談会

ステークホルダーコミュニケーション

NEXCO中日本では、ステークホルダーの皆さまのご意見を企業活動に積極的に反映させるため、外部の方々をお迎えし、活発な意見交換を行っています。

さまざまな立場の有識者や団体の皆様と、安全・安心・快適な高速道路の推進に向けた取組みや、お客さまサービスの向上施策について活発な議論が行われました。

すべてのステークホルダーの皆さまに感動と満足をお届けするため、2012年度以降も引き続き、定期的に意見交換の機会を設けるなど、さまざまな取組みを積極的に進めていきます。

東京支社

東京支社では、新東名、圏央道の沿線企業の皆さまと、地域との連携、社会貢献のあり方について自由闊達に意見交換を行う「異業種交流会」を県ごとに開催しています。静岡県では2007年度から2011年度までに計9回、神奈川県では2011年度に初めて開催し、それぞれ学識経験者を座長に迎え、さまざまな企業の方々を委員としてご出席いただいています。

2011年度に開催した神奈川県の交流会では、「地域の特長をさらに活かしたサービスエリアづくりを期待する」、「サービスエリアを企業情報の発信拠点とするべき」など、今後の新たな施策の提案につながるようなご意見を多数いただきました。



圏央道 海老名南JCT視察の様子

名古屋支社

名古屋支社では、管内のCS活動について、幅広くご意見をいただくため、有識者の委員で構成された「名古屋支社CSモニター会議」を設置しています。2011年度は9月と2月の計2回会議を開催し、東名岡崎地区暫定3車線区間やEXPASA御在所などを視察いただき、さまざまな意見をいただきました。いただいた意見に基づき、従来の大口顧客やWebアンケートに加え、対面式のアンケート調査を行いました。普段は顕在化しないお客さまの声を施策に反映し、休憩施設の改善やCS向上を図っています。



名古屋支社CSモニター会議の様子

八王子支社

八王子支社では、管内の高速道路の技術的課題の克服と危機管理の向上を図ることを目的として、「八王子支社沿線大学技術交流会」を設置しています。

2011年度は、地震や風水による災害に備えた取組みについて、学識経験者の方々から適切な助言や提言をいただきました。いただいた意見は、「百年道路」計画の策定や実行に反映していきます。



八王子支社沿線大学技術交流会の様子

金沢支社

金沢支社では、障がい者やお年寄りの方々にとって、よりやさしい休憩施設の提供をめざし、障がい者団体の方々に休憩施設やトイレ、レストランなどを実際にご利用いただき、意見交換会を実施しています。

2011年度は、「福井県身体障害者福祉連合会」の方々との意見交換会を行い、利用されるご本人だけでなく、付き添われるご家族やご友人の視点からも貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考に、「トイレの音声案内などを充実させて視覚障がいの方が一人でも一般のトイレをご利用いただけるようにする」などノーマライゼーションを進めていきます。



休憩施設での意見交換の様子

第三者からのコメント



グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク
事務局長 宮本 武氏

この報告書を読ませていただいて、昨年度同様、高速道路という重要な社会基盤を支える企業としての社会的責任への強い認識と決意が随所に盛り込まれており、ステークホルダーにとって必要な情報が全分野でバランスよく報告されていることに対し改めて感銘を受けました。

具体的には、P7～11のKPI(重要業績評価指標)の一覧表に「事業活動と成果」、「方針」、「ISO26000中核主題」及び「国連グローバル・コンパクト10原則」を統合されたことは、読者にとっての見やすさの改善につながったと思います。また、KPIについても設定後も逐次修正を加えながら、新旧の両方の指標を併記されている点も読者に対する誠実さが表れていると感じました。

さらには、多くのステークホルダーにとって関心が高い「交通事故対策」について、事故の傾向と対策が分かりやすく記述されており、「大規模災害に向けた取組み」についても業務継続計画の要点が分かりやすく紹介されていたと思います。また、昨年度のコメントに期待として記述させていただいた調達活動におけるCSRの推進についても、着実な進捗が分かりやすく報告されていたと思います。さらには、環境活動に関する報告において「道路構造や設備の長寿命化」に関し昨年度よりもさらにその取組内容を拡大された点については感銘を受けました。全体を通読させていただく中で、この報告書の優れた点は他にも多々あったように思いますが、その中でも特にトップコメントの中で不祥事の発生と再発防止への徹底に対する決意がうたわれていることは、特筆に値すると感じました。

その一方で、より良い報告に向けてさらなる工夫が必要と思われる点が3点ありました。一点目は、トップコミットメントにおいて不祥事と再発防止について言及されていますが、所謂ネガティブ情報の開示については、透明性を確保する上で重要と考えますので、今後その詳細についての記述をご検討いただければと存じます。

二点目は、KPIの一覧表における国連グローバル・コンパクト10原則への対応を示す部分で、「安全・安心」がブランクとなっております点は残念でありました。昨年度もコメントさせていただきましたが、「安全・安心」は10原則4分野のうち「人権・労働・環境」には直接的に、「腐敗防止」には間接的にそれぞれ関係しておりますので、再度ご検討いただければと存じます。

三点目は、「道路構造や設備の長寿命化」について、廃棄物の発生抑制の観点に加え、長寿命化による工事間隔や交換間隔の延伸や調達部材の削減などを通じたCO₂排出量削減の効果についても言及されると、なお良かったのではないかと感じました。

以上感じた所を述べさせていただきましたが「世界一の高速道路会社」の実現とその中で国連グローバル・コンパクト10原則の実効のより一層の進展を願い、第三者コメントの結びといたします。

第三者からのコメントをいただいて

本報告書は、本業を通じてCSRを実践するという考え方にに基づき、2011年度における当社グループのCSRの取組みを報告しています。

私たちは「世界一の高速道路会社」をめざし着実な第一歩を踏み出しました。具体的な指標としてKPI(重要業績評価指標)を設定し、日々取組みの成果を検証しながら、目標達成に向けて取り組んでいます。

「安全・安心」については、お客さまだけでなく、現場で働く社員や関係者、沿線住民の皆さまの「安全・安心」の向上に向けてもさまざまな取組みを行っており、宮本様からのご指摘のとおり、国連グローバル・コンパクトの10原則にも対応しています。それらの取組みについてもさらに充実させるとともに、より分かりやすくご報告をさせていただきたいと思っております。

私たちの役割である地域社会の発展と暮らしの向上、日本経済全体の活性化、そして世界の持続可能な成長への貢献を通じて、「世界一の高速道路会社」、さらにはその先の「夢を実現できる会社」をめざして日々挑戦を続けてまいります。

中日本高速道路(株)
企画本部長 小室 俊二

データ集

(1) 2011年度路線別断面交通量など

2012年4月1日現在

路線名	区間	営業中延長 (km)	車線数	平均断面交通量 (台/日) ※1	利用交通量 (台/日) ※2
中央自動車道	高井戸 ~ 八王子	25.8	4	80,566	116,123
	八王子 ~ 河口湖	68.1	4-7	44,227	62,544
	大月JCT ~ 小牧JCT	272.9	4-6	37,120	97,529
名神高速道路	小牧 ~ 八日市	87.5	4	52,882	76,783
長野自動車道	岡谷JCT ~ 豊科	33.1	4	42,230	38,144
東名高速道路	東京 ~ 小牧	346.7	4-7	79,872	429,069
東海北陸自動車道	一宮JCT ~ 小矢部砺波JCT	184.8	2-4	14,761	53,982
中部横断自動車道	増穂 ~ 双葉JCT	16.0	2	4,307	4,142
北陸自動車道	朝日 ~ 米原JCT	282.1	4	26,228	104,280
名古屋第二環状自動車道	名古屋南JCT ~ 名古屋西	43.6	4	45,790	158,526
東名阪自動車道	名古屋西 ~ 伊勢岡	55.1	4	69,892	94,112
伊勢自動車道	関JCT ~ 伊勢	68.8	4	28,275	43,098
伊勢湾岸自動車道	豊田東JCT ~ 東海	30.6	6	66,743	114,242
	飛島 ~ 四日市JCT	19.6	6	62,630	54,259
新名神高速道路	亀山JCT ~ 甲賀土山	18.8	4-6	39,636	—
紀勢自動車道	勢和多気JCT ~ 紀勢大内山	23.8	2	8,006	4,688
新湘南バイパス	藤沢 ~ 茅ヶ崎海岸	8.7	4	23,823	34,815
西湘バイパス	西湘二宮 ~ 箱根口	14.5	4	31,783	48,143
東富士五湖道路	富士古田 ~ 須走	18.0	2	13,231	25,578
小田原厚木道路	小田原西 ~ 厚木	31.7	4	30,438 ※3	68,285
伊勢湾岸道路	東海 ~ 飛島	6.1	6	80,434	89,804
	高尾山IC ~ (あきる野)	11.2	4	24,493	11,510
圏央道	海老名JCT ~ 海老名IC	1.9	4	13,941	7,103 ※5
	豊田東JCT ~ 関広見	75.9	4	15,657	47,239
八王子バイパス	相原 ~ 打越	4.5	4	37,548	37,548
安房峠道路	<上宝村> ~ <安曇村>	5.6	2	2,705	2,705
	合計	1,755			1,817,149
西富士道路	<富士市> ~ <富士宮市>	6.8	4	27,926	27,926
箱根新道 ※4	山崎 ~ 箱根峠	13.8	2	16,859	16,859

※1 区間毎 (2つのインターチェンジ間) を通過した台数の平均値 ※2 料金所を通過した台数の平均値 (1回の利用につき1台カウント)

※3 小田原、平塚の各本線料金所通過交通量を距離で按分

※4 箱根新道は、2011年4月1日~2011年7月25日までの交通量

※5 利用交通量合計には含まれません

(2) 供用延長

(単位: km)

年度	中日本供用延長	備考
2005	1,687	2006.3.11 紀勢道13.4km開通
2006	1,693	2006.12.16 中部横断道6.2km開通
2007	1,721	2008.2.23 新名神18.8km開通 2007.6.23 圏央道9.2km開通
2008	1,757	2009.2.7 紀勢道10.4km開通 2008.7.5 東海北陸道24.9km開通
2009	1,761	2009.4.18 東海環状道2.9km開通 2010.2.27 圏央道1.9km開通
2010	1,774	2011.3.20 名二環12.7km開通
2011	1,755	2011.7.26 箱根新道13.8km無料開放 2012.3.25 圏央道2.0km開通 2012.4.1 西富士道路6.8km無料開放

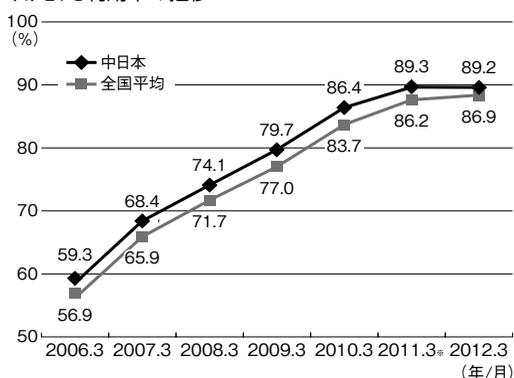
(3) 路線別渋滞量

(単位: 渋滞長 (km) × 時間 (hour))

路線名	2011年 ※				
	交通集中	工事	事故	その他	総計
東名高速道路	39,721	15,356	20,669	4,263	80,010
名神高速道路	5,055	539	2,835	378	8,806
中央自動車道	22,570	1,961	8,014	870	33,415
中部横断自動車道	0	0	0	0	0
長野自動車道	307	112	122	43	584
北陸自動車道	397	6	229	71	702
東海北陸自動車道	2,960	20	410	9	3,398
伊勢湾岸自動車道	969	562	631	39	2,201
東名阪自動車道	9,731	3,886	3,341	462	17,420
名古屋第二環状自動車道	1,664	552	433	68	2,718
伊勢自動車道	562	111	77	5	756
紀勢自動車道	10	0	1	0	11
新名神高速道路	607	22	243	1	873
新湘南バイパス	29	0	5	0	34
西湘バイパス	734	3	54	0	791
東富士五湖道路	227	10	1	9	247
小田原厚木道路	1,111	18	99	15	1,243
伊勢湾岸道路	110	0	86	3	198
圏央道	241	19	67	10	337
東海環状自動車道	296	0	21	25	342
箱根新道	37	0	0	0	37
八王子バイパス	0	0	0	0	0
西富士道路	10	0	1	0	11
安房峠道路	0	0	0	0	0

※暦年データ

(4) ETC利用率の推移



出典: 国土交通省ホームページ

※2011.3のETC利用率は、無料化社会実験区間を除く

(5) ETC専用レーンにおける停止処理状況 (2011年度日平均)

(単位: 台/日)

	2011年 ※				合計
	誤進入によるもの 一般車道のETCレーン への誤進入など	カード未挿入などによるもの ETCカード未挿入	通行券を持った ETC車両の進入など	有効期限切れ カード利用など	
4月 ※	1,075	1,285	309	236	3,018
5月 ※	1,091	1,329	378	269	3,192
6月 ※	1,222	1,472	431	255	3,513
7月	975	1,184	463	190	2,940
8月	1,052	1,320	513	221	3,252
9月	1,188	1,170	517	133	3,146
10月	1,017	1,195	463	146	2,938
11月	864	1,098	423	220	2,712
12月	833	1,060	377	235	2,601
1月	727	903	329	192	2,236
2月	765	924	354	176	2,312
3月	849	1,044	336	221	2,544
合計	11,658	13,984	4,893	2,494	34,404
割合	33.9%	40.6%	14.2%	7.2%	100%

※2011.4~6は、無料化社会実験区間を除く

(6) サービスエリア一覧

路線名	サービスエリア名		上下	所在 都道府県	形式	総面積 (㎡)	駐車場面積 (㎡)	二輪車 マス数	小型車 マス数	小型車・大型車 兼用マス数	大型車 マス数	バス優先 マス数	トレーラー マス数	身障者マス数		単純合計 マス数
														大型車	小型車	
東名高速道路	海老名	エビナ	上	神奈川	分離	47,299	22,437	60	325	58	64	15	10	1	6	479
			下			59,300	30,800	54	508	18	81	26	9	1	7	650
	足柄	アシガラ	上	静岡	分離	137,000	54,500	68	219	104	143	13	11	3	8	501
			下			174,000	56,000	43	268	25	211	15	16	3	5	543
	富士川	フジカフ	上	静岡	分離	72,360	37,743	8	104	90	39	8	4	1	5	251
			下			44,740	22,439	8	186	15	38	15	3	1	8	266
	牧之原	マキノハラ	上	静岡	分離	83,520	37,960	8	190	5	188	20	24	1	5	433
			下			130,380	80,440	17	250	0	200	20	30	1	5	506
	浜名湖	ハマナコ	上	静岡	集約	75,610	19,700	8	123	44	0	12	20	1	5	205
			下			57,110	24,700	8	94	90	0	12	23	1	5	225
上郷	カミゴウ	上	愛知	分離	47,030	9,270	8	123	38	104	8	8	1	5	287	
		下			32,410	8,570	8	144	31	95	8	8	1	5	292	
名神高速道路	養老	ヨウロウ	上	岐阜	分離	35,470	10,430	15	62	22	56	0	6	0	3	149
			下			42,390	13,040	20	93	23	91	0	10	1	4	222
	多賀	タガ	上	滋賀	分離	100,040	22,400	8	135	0	108	12	12	1	2	270
			下			61,520	21,447	8	241	0	103	15	9	1	6	375
中央自動車道	談合坂	ダンゴウザカ	上	山梨	分離	144,480	42,290	34	284	87	38	8	5	3	8	433
			下			55,373	23,280	32	130	93	44	14	4	1	6	292
	双葉	フタバ	上	山梨	集約	31,610	14,820	4	166	25	35	11	4	1	2	244
			下			47,769	17,112	4	166	0	58	5	3	1	2	235
	諏訪湖	スワコ	上	長野	分離	58,126	11,070	8	132	0	41	0	3	0	3	179
			下			41,366	13,630	8	130	0	38	3	3	0	3	177
	駒ヶ岳	コマガタケ	上	長野	分離	101,826	13,066	7	94	48	30	3	0	1	3	179
			下			100,970	12,880	7	94	48	28	5	0	1	3	179
恵那峡	エナキョウ	上	岐阜	分離	38,885	10,395	4	143	19	23	0	5	0	2	192	
		下			32,695	6,785	5	163	14	40	0	3	0	2	222	
長野自動車道	梓川	アズサガフ	上	長野	分離	36,830	14,438	8	153	3	22	3	8	0	2	191
			下			37,980	12,073	8	154	6	13	3	4	0	2	182
北陸自動車道	有磯海	アリソウミ	上	富山	分離	38,564	13,313	4	98	0	37	0	4	0	1	140
			下			39,340	11,829	4	116	0	38	0	4	0	1	159
	小矢部川	オヤベガフ	上	富山	分離	27,959	8,579	8	104	0	21	0	0	0	1	126
			下			24,375	9,217	4	103	0	21	0	3	0	1	128
	尼御前	アマゴゼン	上	石川	分離	17,039	6,780	8	88	0	19	6	0	0	1	114
			下			19,579	6,780	8	95	0	21	3	0	0	2	121
	南条	ナンジョウ	上	福井	分離	32,000	10,422	4	100	11	14	0	2	0	3	130
			下			38,100	12,081	4	126	0	20	0	4	0	3	153
賤ヶ岳	シズガタケ	上	滋賀	分離	17,916	8,122	4	78	27	0	1	5	0	1	112	
		下			20,160	8,079	4	70	29	0	1	5	0	1	106	
東海北陸自動車道	関	セキ	上	岐阜	分離	35,510	8,900	4	88	0	30	0	3	0	1	122
			下			39,650	9,210	4	82	3	25	0	3	0	1	114
	ひるがの高原	ヒルガノコウゲン	上	岐阜	分離	15,527	3,370	6	52	10	14	0	2	0	2	80
			下			20,373	3,370	6	80	10	14	0	2	0	2	108
	城端	ジョウハナ	上	富山	集約	40,902	5,567	4	19	2	9	0	2	2	1	35
下			40,902			5,283	4	22	6	5	0	2	2	1	38	
東名阪自動車道	御在所	ゴザインショ	上	三重	分離	40,900	11,770	8	147	15	36	0	3	1	3	205
			下			44,190	11,910	8	146	15	36	0	3	1	3	204
伊勢自動車道	安濃	アノウ	上	三重	分離	59,696	8,336	4	113	0	28	0	4	0	2	147
			下			67,604	8,664	4	110	0	29	0	4	0	2	145
新名神高速道路	土山	ツチヤマ	上	滋賀	集約	87,300	18,538	4	88	0	75	0	3	1	2	169
			下			87,300	18,476	4	88	0	75	0	3	1	2	169

(7) スマートIC一覧

路線名	スマートIC名		営業時間	出入方向	対象車種
東名高速道路	富士川スマートIC	フジカフ	終日	フル方向	入口：全車(車長12.0m以下) 出口：中型車以下(車長8.5m以下)
	遠州豊田スマートIC	エンシュウトヨタ	終日	フル方向	全車(車長12.0m以下)
中央自動車道	双葉スマートIC	フタバ	終日	フル方向	二輪車、軽自動車、普通車、 中型車(車長8.5m以下)
長野自動車道	梓川スマートIC	アズサガフ	終日	フル方向	全車(車長12.0m以下)
	入善スマートIC	ニューゼン	終日	フル方向	全車(車長12.0m以下)
北陸自動車道	流杉スマートIC	ナガレスギ	終日	フル方向	全車(車長12.0m以下)
	徳光スマートIC	トクミツ	終日	フル方向	米原方面への入口、新潟方面からの出口： 全車(車長12.0m以下) 米原方面からの出口、新潟方面への入口： 二輪車、軽自動車、普通車(車長6.0m以下)
	安宅スマートIC	アタカ	6~22時	福井方面への入口 福井方面からの出口	全車(車長12.0m以下)
	南条スマートIC	ナンジョウ	6~22時	フル方向	全車(車長12.0m以下)
東海北陸自動車道	ひるがの高原スマートIC	ヒルガノコウゲン	終日	フル方向	全車
東名阪自動車道	亀山PAスマートIC	カメヤマ	終日	フル方向	全車
東海環状自動車道	鞍ヶ池スマートIC	クラガイケ	6~22時	フル方向	全車(車長12.0m以下)

(8) ETCカード未挿入による停止率、停止台数の比較

	2011年4月①	2012年4月②	②-①
停止率 (%)	0.27	0.13	-0.14
停止台数 (台/月)	2,616	1,183	-1,433

※既存路線の入口に設置した22か所のお知らせアンテナによるデータ

(9) ETC専用運用レーンにおけるパー接触件数 (2011年度日平均) (単位：件/日)

時期	パー接触件数 (件/日、日平均)	時期	パー接触件数 (件/日、日平均)
4月※	209	10月	238
5月※	203	11月	244
6月※	232	12月	246
7月	263	1月	215
8月	274	2月	251
9月	241	3月	252

※2011.4~6は、無料化社会実験区間を除く

CSR報告書2012用語集

本報告書に使用されている専門用語について、詳細に解説した用語集です。

え		
◎エコロード	6頁	地域の環境・生態系に極力影響を与えず、自然環境に配慮した道。道路建設に際して、周辺地域の生態系への影響を回避・低減するとともに、動植物などの新たな生息・生育環境の創出を目的にしている。
か		
◎環境施設帯	59頁	道路に付帯して整備される、植樹帯、路肩、歩道、副道などの幹線道路の沿道の生活環境を保全するための道路施設。
き		
◎業務継続計画(BCP)	19頁	Business Continuity Plan。大規模な災害・事故が発生した場合に、基幹業務の継続や、早期に業務を再開するために策定する行動計画。
く		
◎グリーン購入法	43頁	原材料・製品などを購入する際に、環境負荷の少ない物品を優先して調達したり、そのような配慮をしているメーカーから優先して調達すること。
◎くるみん	45頁	厚生労働省が認定した従業員子育て支援事業の愛称。2003年7月に「次世代育成支援対策推進法」が公布され、301名以上の労働者を雇用する事業主は次世代を担う子どもたちが健やかに生まれ育成されるようにするために、事業所としても取り組みを行いその具体案を明記した「一般事業主行動計画」を厚生労働省へ届出することが義務付けられた。「一般事業主行動計画」の届出を行った事業者は「くるみん」ロゴマークの使用が認められる。
こ		
◎高圧ナトリウムランプ	55頁	高圧のナトリウム蒸気を利用した電位差放電による発光器。発光色は橙色で視認性に優れ、照明の有効範囲も広い。
◎高機能舗装	55頁	舗装の表面(表層)において空隙を多くして、雨水などの排水機能を向上させ、水はねを軽減させるとともに、タイヤとの接地による摩擦音を吸音することにより騒音低減効果を有する舗装。
◎高速道路関連社会貢献協議会	38頁	2005年8月25日に、高速道路利用者などに対する安全性、信頼性及びサービス向上を図るための社会貢献事業を行う実施機関として設立。NEXCO中日本、NEXCO東日本、NEXCO西日本、財団法人高速道路交流推進財団の他、料金収受・交通管理・保全点検・維持修繕など高速道路の維持管理に従事する会社で、当高速道路関連の社会貢献事業の主旨に賛同していただいている会社73社などで構成されている。
◎コーポレートガバナンス	6頁	企業統治。企業経営において、その意思決定プロセスにおける経営機能の規律をチェックする仕組み。
◎コンプライアンス	2頁	法令遵守が原義。しかしながら今般においては、単に法令・規則などを遵守するに留まらず、法令などの背後にある立法趣旨を理解し、企業に求められている社会的要請に対して、高度な倫理観をもって適切に対応することと解釈されているのが一般的。
さ		
◎サグ部	28頁	下り坂から上り坂に差し掛かる部分のこと。道路においては、速度が下がりやすいため、渋滞が発生する原因となっている。
し		
◎資源の3R	6頁	資源の3Rとは、循環型社会を形成するために必要な取組みであるリデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)の頭文字がそれぞれRであることから名付けられた取組み。 ①リデュース(発生抑制) 省資源化や長寿命化といった取組みを通じて製品の製造、流通、使用などに係る資源利用効率を高め、廃棄物とならざるを得ない形での資源の利用を極力少なくする。②リユース(再使用) 一旦使用された製品を回収し、必要に応じ適切な処置を施しつつ製品として再使用する。または、再使用可能な部品を利用する。③リサイクル(再生利用) 一旦使用された製品や製品の製造に伴い発生した副産物を回収し、原材料としての利用または焼却熱のエネルギーとして利用する。
◎新直轄	42頁	必要な高速道路を整備するための国と地方自治体の負担による新たな直轄事業。
す		
◎ステークホルダー	2頁	組織の行動により影響を受ける、または影響を与える個人やグループ。利害関係者(利益共有者)。企業の場合は、顧客・株主・社員・地域社会・取引先など。企業が事業活動を行う際には、さまざまなステークホルダーの要求・要望を把握して、活動に反映させることが重要となっている。
◎スマートIC(スマートインターチェンジ)	34頁	サービスエリアやパーキングエリアなどにおける、ETC専用の出入口機能をもった簡易インターチェンジ。
せ		
◎政府保証債	41頁	法律によって設立された政府関係機関などが、事業資金の一部を調達するために発行する債券のうち、政府が元利金の支払いについて保証をしているもの。
◎生物多様性	6頁	生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していることを指す。生物の多様性に関する条約では「すべての生物(陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかなるを問わない)の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」と定義されている。
◎セラミックメタルハライドランプ	29頁	水銀とハロゲン化金属(メタルハライド)の混合蒸気中のアーク放電による発光を利用した高輝度、省電力、長寿命のランプをメタルハライドランプといい、発光管の素材として浸食されやすい石英ガラスの替わりに透光性セラミックが用いられたもの。
た		
◎ダイバーシティ・マネジメント(Diversity Management)	44頁	個人の多様性を尊重し活用する人材育成・管理の手法。多様な属性(性別、年齢、国籍など)や価値・発想を取り入れることで、ビジネス環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、企業の成長と個人のしあわせにつなげようとする企業戦略の一つ。
ち		
◎中央防災会議	20頁	内閣総理大臣をはじめとする全閣僚、指定公共機関の代表者及び学識経験者により構成され、防災基本計画の作成や防災に関する重要事項の審議などを行っている会議。
と		
◎ドクターヘリ	38頁	救急専用の医療機器などを装備したヘリコプターに救急医療の専門医及び看護師が同乗し、消防機関などの要請により救急現場に向かい、救急現場から医療機関に搬送する間、救命医療を行うことのできる救急専用ヘリコプター。

は	
◎バリアフリー	44頁
障壁（バリア）を除く（フリー）こと。建築面においては、段差の解消や手摺の設置など、高齢者・障がい者にとっての障害をなくし、より使用しやすい空間を創造する考え方。	
ひ	
◎ヒートポンプ	53頁
外部から電気・熱などの駆動エネルギーを与えて、低い温度の部分から温度の高い部分へ熱を移動させる装置。	
ふ	
◎付加車線	28頁
インターチェンジやサービスエリアなどへの進入・合流路やトンネル部分など渋滞が顕著に発生する区間において、交通流を円滑にするために追加して増やした車線。	
ゆ	
◎有価証券報告書	41頁
社債や株式など有価証券の発行企業が自社の情報を外部に開示するために作成する報告書。金融商品取引法第24条により、ディスクロージャー制度・不正取引の規制・投資勧誘の規制の3つを実現し、市場の公正化と投資家保護を図ることを目的として、毎事業年度終了後3ヵ月以内に内閣総理大臣に提出することが義務付けられている。	
り	
◎リサイクルプラント	55頁
再生工場。NEXCO 中日本では、植物発生材のリサイクルを5か所で行っており、肥料や雑草防止用の資材として再生している。	
◎裏面吸音板	59頁
道路の上部に高架道路があるような2層構造の道路において、下方の交通騒音が高架道路の裏面に反射して拡散することを緩和するために、高架道路の裏面に設ける吸音パネル。	
ろ	
◎ロックボルト	61頁
ゆるみや脱落が予想される地山や岩塊を押さえつけるためのプレートを締め付けるためのボルト。ボルトの定着部分（先端）は深部の締まった地山へ締め付ける。	
◎ロードヒーティング	20頁
道路の融雪や凍結を防止するため路面の温度を上げる施設。舗装内に電熱線類やパイプを埋設し、温水を循環させて路面を過熱する無散水型の融雪装置。高速道路では寒冷地以外でもトンネル出口や橋梁区間などに設置される。	
わ	
◎ワークライフバランス(Work-Life-Balance)	45頁
仕事と生活の調和をとるという考え方。国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会を実現するとして、官民を挙げてさまざまな取組みがなされている。	
B	
◎BDF(バイオディーゼル燃料)	38頁
生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料の総称であり、バイオマスエネルギーの一つ。NEXCO 中日本では、サービスエリアの使用済み天ぷら油などを利用して、維持管理車両の燃料に用いることに取り組んでいる。	
C	
◎CS(Customer Satisfaction)	25頁
お客さま満足。すべてがお客さまとその期待から始まるという考え方のもと、お客さまに満足していただくために、自社の事業・サービスについて、何をどのように実施・提供していくのかを考え、それを達成するための仕組みを作りあげるといった考え方。	
◎CSR(Corporate Social Responsibility)	2頁
企業の社会的責任。企業が利益のみを追求する存在であるのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響に対して責任を負うという考え方。一般的には、企業活動において、経済、環境、社会の側面を総合的に捉え、競争力の源泉とし、企業価値の向上につなげることとされている。	
◎CSR調達	21頁
調達先に対し、人権保護や労働環境の保護などCSRに関わる取組みを調達基準として提示し、サプライチェーンでのCSR活動を推進すること。	
H	
◎Hf蛍光灯	53頁
高周波点灯専用形蛍光ランプ。蛍光灯と安定器（インバータ式）と組み合わせた、Hf専用器具で使用され、高効率、高出力を実現している。	
I	
◎IBTTA (International Bridge,Tunnel and Turnpike Association)	40頁
世界有料道路連盟。有料道路制度の推進を目的として、26カ国約300の事業者、運営管理者及び関係団体などにより構成される団体。	
◎IR(Investor Relations)	26頁
企業が投資家(Investor)に対し、財務状況や事業状況など投資判断に関係する情報を提供する広報活動。	
◎ISO10002	25頁
2004年に発行された苦情対応に関する国際規格で、苦情対応マネジメントシステム導入に関する指針を示すもの。お客さまの満足を実現するために苦情対応プロセスの継続的な改善を図ることを目的とし、PDCAサイクルに基づく苦情対応の枠組み（マネジメントシステム）を構築、運用することが求められる。	
◎ISO14001	6頁
1996年に発行された環境マネジメントに関する国際規格。組織活動、製品及びサービスの環境負荷の低減といった環境パフォーマンスの改善を実施する仕組みが継続的に運用されるシステム（環境マネジメントシステム）を構築するための要求事項を規定した規格のこと。	
◎ISO39001	27頁
交通事故による死亡や重傷事故を撲滅するために、2012年11月頃の発行に向けて検討されている道路交通安全に関する国際規格。	
◎ITS(Intelligent Transport Systems)	27頁
最先端の情報技術を活用して、人・道路・車を情報でつなぎ、交通事故や渋滞などの道路交通問題の解決を図る新しい交通システムの総称。ETCもITSに含まれる。	
J	
◎JICA(Japan International Cooperation Agency)	39頁
独立行政法人国際協力機構。技術協力、有償資金協力（円借款）、無償資金協力の援助手法を一元的に担う、総合的な政府開発援助（ODA）の実施機関。	
N	
◎NOx	50頁
窒素酸化物のこと。呼称は「ノックス」。光化学スモッグなどの原因となる大気汚染物質の一つで、主な発生源は自動車の排気ガスといわれている。	
O	
◎OFF-JT(OFF-the-Job Training)	45頁
職場を離れて日常の業務外で行われる教育訓練。	
◎OJT(On-the-Job Training)	45頁
企業内で行われる職業指導手法の一つで、職場の上司や先輩が部下や後輩に対し、具体的な仕事を通じて、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを、意図的・計画的・継続的に指導し、修得させることによって、全体的な業務処理能力や力量を育成する手法。	
P	
◎PIARC (Permanent International Association of Road Congress)	40頁
世界道路協会。道路の建設、改良、維持、利用技術など、道路技術・行政の向上とこれによる経済的発展をめざし、1909年に設立された国際機関。世界の道路体系の発展を図ることを目的とし、世界各国の政府、道路管理者、道路関係団体、個人から組織されている。	
S	
◎SPM(Suspended Particulate Matter)	50頁
浮遊粒子状物質。大気中に浮遊している粒子状の物質のことで、主に自動車の排気ガスや工場の煤塵など大気汚染物質の代表的なもの。	